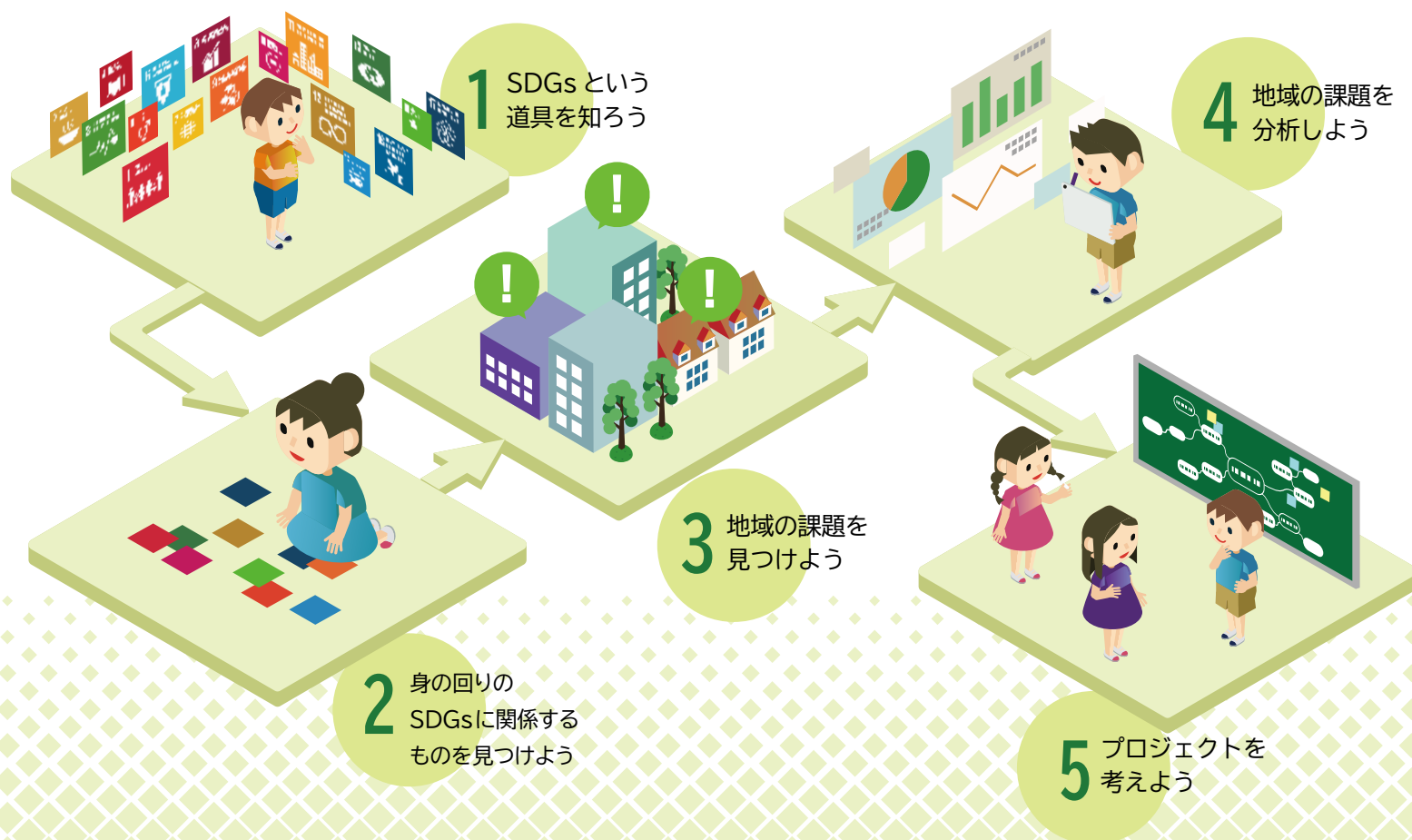


総合的な学習（探究）の 時間のアイデア集



多文化共生社会のメガネ

世界中に住む人々から隣の席の友人にまで想像力を働かせ、自身の偏見や差別に向き合い、多文化共生社会の一員としてできることを考える。

アプローチ

1 教室の中での多文化共生

コミュニケーションの大切さに気づき、世界の国や人々との共生について考えを深める。

- ✓ 色々な国のあいさつと、その価値について考えよう
- ✓ 外国にルーツのある友達から学ぼう
- ✓ 国際理解について考えよう



2 難民と多文化共生

難民や難民にまつわる人の身になり問題を体験することで、難民と共存する多文化共生社会を創る厳しさと重要性について考える。

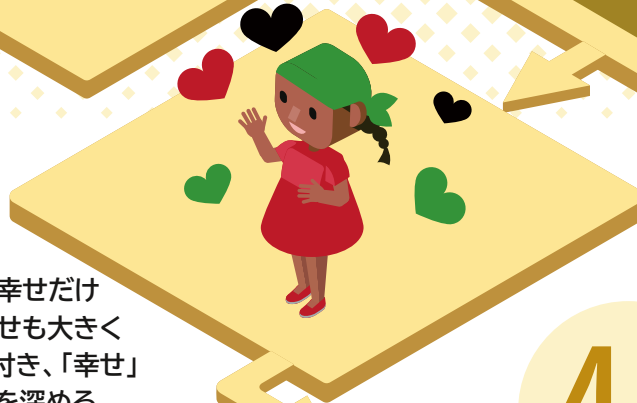
- ✓ 難民とは
- ✓ 難民の旅
- ✓ 難民キャンプでの暮らし



3 幸せとは何か

人の幸せには物質的な幸せだけではなく、精神的な幸せも大きく関わっていることに気づき、「幸せ」とは何かについて考えを深める。

- ✓ 開発途上国マラウイの現状を知ろう
- ✓ マラウイの人たちの「笑顔」の理由を考えよう
- ✓ マラウイの人たちは「幸せ」なのだろうか



4 国の際理解

国の際(くにのきわ)に住む人々や想像力を働かせ、自身の偏見や差別に向き合い、多文化共生社会の一員としてできることを考える。



5 自分プレゼン

クラスの中で「他者の知らなかった自分」を表すプレゼンをする。1から4までの内容を振り返り、自分が持つ偏った他者への視点。その視点は隣の席の友人にも向けていることに気がつくきっかけとする。

- ✓ 自分を知る
- ✓ 自分プレゼンのリハーサル
- ✓ 実演見学
- ✓ いざ自分プレゼン！



地域解決レンジャー

持続可能な世界を学び、行動を起こし、世界をよりよく変えていく、行動者を育てるために。
生徒にとって一番身近な地域の課題をテーマに SDGs を考える。

目指す生徒の姿 ジブンゴト化できる人

予測不可な時代、複雑に絡み合った問題を、自分の事として何が出来るか考え、行動できる

これからの
世界では
必須の力！



他人事として考える人

- ○○のせいだ / ○○が悪い
- 自分には無理 / ○○の責任
- ○○が何とかしてくれる



ジブンゴト化できる人

- ✓ なんとかしたい！
- ✓ ジブンにできることは？
- ✓ どう貢献できるだろう！

？

課題を
見つけたとき

指導ポイント



何かを変えられると
いう実感を持つために
身の回りの出来事を
ジブンゴト化する。



ジブンゴト化のための
メガネ（モノの見方）
として SDGs を活用
する



行動者となるために、
問題の把握のみならず
アクションプランを
立案する。

アプローチ



1 SDGs という
道具を知ろう



2 身の回りの
SDGs に関する
ものを見つけよう



3 地域の課題を
見つけよう



4 地域の課題を
分析しよう



5 プロジェクトを
考えよう

絵本作りで伝えるSDGs

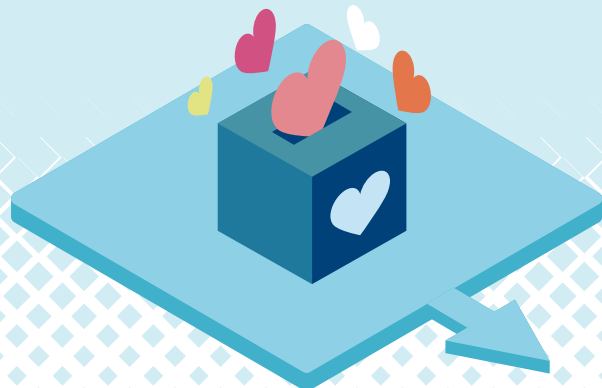
4つのTOPICの「問い」を自分なりに受け止め、それを絵本という作品にすることにより、生徒それぞれがジブンゴト化し、次のアクションの行動者へと変容することを目標とする

アプローチ

TOPIC 1

どうして募金って必要なの？

募金が必要な世界の現状をSDGsとのつながりの中で考えます。



TOPIC 2

公平な経済活動とは？

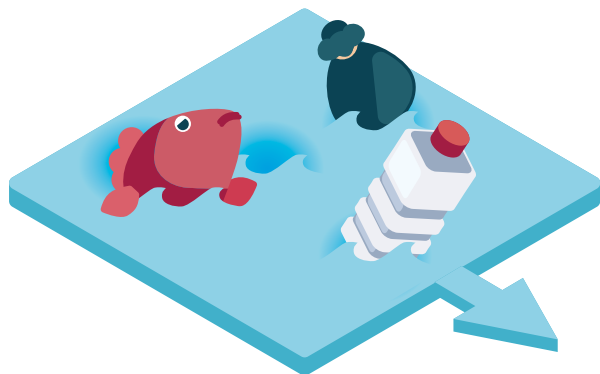
生産者・企業・消費者の視点で2030年の世界をよりよくする経済活動を考えます。



TOPIC 3

海洋プラスチックごみって何が問題なの？

海洋プラスチックごみ問題を解決するために、自分たちに何ができるかを考えます。



TOPIC 4

私たちにできる平和のための国際協力とは？

「戦争」がSDGsに与える影響について考えます。



TOPIC 5

あなたは「誰に」「何を」伝える絵本を作りますか？

TOPIC1～4で学んだことを踏まえて絵本作りをします。
「誰に」「何を」伝えたいかをハッキリさせ、表現力を養い、
行動者への変容を促します。



SDGs×グローバル・キャリア

SDGs×組織連携を中核に探究活動を展開しグローバルなキャリア形成に役立てる

アプローチ

※本指導案はSDGsを中核に組織連携を通して学校や地域を巻き込みながら各学年で長期的に探究活動を展開することをねらったものです。

1 知る：資源 × 自分

SDGsに取り組む外部組織と出会う導入段階です。資源（ひと・もの）を活かした様々な取組を知り、理解を深めると共に、自らのあり方や生き方を探ります。ここでは、地域学習を例に紹介します。

- ✓ “持続可能な社会作り” に大切なことは？
- ✓ 探究テーマを深める質問とは？
- ✓ 実際にどんな取組がある？
- ✓ これからの生活や学習、今後の生き方にどう活かす？



2 広げる：アイデア × 自分

SDGsに取り組む外部組織の助けを借りてアイデアを発展させる段階です。

様々な課題を知り、多様な視点で課題を捉え直します。ここではローカルからグローバルに視座を高めます。

- ✓ 世界の課題って何だろう？
- ✓ 世界の課題を解決するには？
- ✓ どんなアクションが起こせるだろう？
- ✓ 地域のリソースはどのように使えるだろう？



3 変える：変容 × 自分

SDGsに取り組む外部組織と連携しながら課題解決に挑む段階です。

探究活動の学びやつながりを後輩に継承し、探究手法を進路探究に繋げます。ここでは成果と課題を振り返り、キャリア観を俯瞰します。

- ✓ 何をどう持続させる？
- ✓ どの探究手法を使う？
- ✓ 良いプロジェクトとは？
- ✓ 自分の在り方生き方とは？



指導のポイント



進路探究の成果等も最下級生に発表すると、憧れのモデルを身近に見つけ、これから自分に起こる学校生活や行事等の目標・目的を明確化できます。



最上級生は内容を噛み砕いて発表するスキルを磨き、物事の本質に迫る機会を得ることができます。発表会の企画運営も生徒に任せるとよいでしょう。

目次

はじめに	2
指導講評	3
指導案作成者一覧	4
本紙の構成	5

1班 多文化共生社会のメガネ

STEP 1：教室の中での多文化共生	12
STEP 2：難民と多文化共生	19
STEP 3：幸せとは何か	27
STEP 4：国の国際理解	37
STEP 5：自分プレゼン	39

2班 地域解決レンジャー

STEP 1：SDGs という“道具”を知ろう	50
STEP 2：身の回りの SDGs に関係するものを見つけよう	52
STEP 3：地域の課題を見つけよう	57
STEP 4：地域の課題を分析しよう	61
STEP 5：プロジェクトを考えよう	65

3班 絵本作りで伝える SDGs

TOPIC 1：どうして募金って必要なの？	78
TOPIC 2：公平な経済活動とは？	83
TOPIC 3：海洋プラスチックごみって何が問題なの？	87
TOPIC 4：私たちにできる平和のための国際協力とは？	93
TOPIC 5：地球に生きる私たちの今と未来のメッセージとして、 あなたは「誰に」「何を」伝える絵本を作りますか？	97

4班 SDGs × グローカル・キャリア

STEP 1：(知る) SDGs × 組織連携 × 資源 × 自分	110
STEP 2：(広げる)：SDGs × 組織連携 × アイデア × 自分	115
STEP 3：(変える)：SDGs × 組織連携 × 変容 × 自分	117

本報告書に掲載された授業で先生方が活用している教材や資料の紹介	136
おわりに	138

はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、国際協力に関する知識の普及と理解の推進のため、開発教育／国際理解教育を推進することを使命の一つとしています。教育委員会や教員のみならず、あるいは自治体や NGO のみなさまと連携しながら、① JICA の海外での協力現場における「知見の還元」、②地球規模課題への取組を紹介し「考える機会を提供」、③地域の課題と地球規模の課題を結び付けその解決のために行動する児童生徒を育てていただくための「橋渡し役」となる、の3点に重点を置き、「持続可能な社会づくりの担い手を育てる」国際理解教育／開発教育の支援に取り組んでいます。

JICA 東京は、開発教育支援事業の一環として、教師海外研修を実施しています。教師海外研修は、開発教育・国際理解教育／SDGs・ESD に関心を持つ先生方を対象に実施されている事業です。ただし昨年度と本年度は新型コロナ禍であり、国内で多文化共生の課題に向き合っていました。参加する先生方は、夏休みの期間中の10日間程度、開発途上国を訪問し、その国の現状やそこで展開されている国際協力について学び、その学びを活かして授業案を作成し、所属校で実施をします。これまで JICA 東京主催の教師海外研修に JICA 東京所管の一都五県（東京、千葉、埼玉、群馬、長野、新潟）から多くの先生方が参加され、所属校で授業を実践されました。

教育に目を向けますと、学習指導要領の中で「持続可能な社会の創り手」の育成について言及され、開発教育・国際理解教育／SDGs・ESD に関連した学びへの教育現場のニーズは増加の傾向にあります。また、海外からおこしになる方、地域で生活される方が増加している中で、学校における多文化共生／異文化理解の重要性も増してきています。

国際理解教育／開発教育については、総合的な学習（探究）の時間の重要なテーマとなっており、実際の取組において、地域の課題と地球規模の課題の両方を視野に入れた探究学習の実践も多く見受けられます。そのような取組の中で JICA の国際協力に関するリソースが活用されるケースも増えてきています。これまでの教師海外研修に参加された先生方の実践も、現在の教育現場の要請を反映し、JICA のリソースを活用した授業内容になっております。

昨年度から上記のような教育現場の要請をふまえ、教師海外研修に参加された先生方の実践を踏まえ、より多くの先生方に活用していただける総合的な学習（探究）の時間の指導案の作成を進めました。作成にあたりましたのは教師海外研修に過去に参加した先生方になります。小学校、中学校、高等学校と校種が異なり、専門教科も異なる先生方が開発教育・国際理解教育／SDGs・ESD のテーマのもと同じテーマにつき、打合せを重ねました。大学（院）生のインターン4名も指導案の作成に携わりました。また、東京都市大学の佐藤真久先生に監修をしていただく中で作成を進めました。携わられた皆様のご尽力に深く感謝いたすとともに、本冊子を手にとられました先生方のお役に立つ一冊となっていますことを心から願います。

2022年3月

独立行政法人国際協力機構（JICA）東京センター

所 長 田 中 泉

指導講評

2021年度は、2020年度に引き続き、世界的に広がった**新型コロナウイルス感染症（COVID-19）**の影響を受けて、世界中が大混乱となりました。このグローバル感染症は、数多くの私たちの周りにあった問題を浮き上がらせました。新しい感染症の頻度が高まっているのは、森林伐採などで動物の生態が変わり、途上国における人口増加と都市への人口集中による人間居住の過密化、動物と人間の接点が増えていることが遠因だと言われています。さらには、経済のグローバル化が進むことで、国を超えた人の往来がこの感染拡大を助長させました。このグローバル感染症と、気候変動、高齢化、エネルギー問題などに共通して言えることは、**多くの要因が複雑にからまった“複雑な問題”**であるということです。

このように、今日では、社会全体を“複雑な問題”として捉え、社会全体にとって最適な解決方法を生み出すことが求められています。これまでの教科教育は、知識、技術を系統的に組織した教科内容を取り扱うことが主であり、個々の教科の見方・考え方が重視されてきました。しかしながら、**正解がない、正解が複数ある問いと共に生きる時代**では、周りの人との対話や、現場での学び合いを通して得られたものを資源とし、**知識やスキルを現場で使いこなすことが重要**になります。授業そのものも、知識を得る、正しい方法を知るという文脈を超えて、**未知の状況にトライし、経験を通して、自身の内省からの答えを獲得**していくことが求められます。

これまでの学校教育におけるカリキュラム構成論は、「学問的要請」、「社会的要請」、「心理的要請」から成ると言われてきました。とりわけ近年では、「社会的要請」、特に、国家的要請として学ぶことを求める教科の拡充や、学習者の心身の発達に考慮をし、学習者の経験に基づく「心理的要請」に配慮をした取組（生活、活動など）の拡充がみられます。平成20-21年からの「総合的な学習の時間」の創設に伴い、より、社会との接点、自ら学び自ら考える「生きる力」の育成が重要され、**“持続可能な社会の担い手づくり”として、国家観を超えた、地球市民性の教育の重要性**が指摘されるようになりました。本書で紹介されている取り組みは、地球市民性の教育の拡充にむけて、一連の総合的な学習（探究）の時間を基礎にしたカリキュラムのデザインを試みました。

本プロジェクトは、JICA 東京主催の教師海外研修過年度参加教員を中心に組織され、校種や教科、地域を超えて、オンライン会合を最大限に活用しながら、議論を深めてきました。多様な教員とともに、総合的な学習（探究）の時間を軸にしたカリキュラムのデザインに取り組むことは、多くの時間と労力がかかりましたが、その一方で、多くの学びが深められた時間でもありました。本プロジェクトでは、①**グローバルな視座で多文化共生を捉える一連の授業デザイン・指導案づくり**、②**地域のフィールドに足を運び、諸感覚を活かした探検と観察、地域の魅力発見、仮説に基づく探究を深める一連の授業デザイン・指導案づくり**、③**社会との関わりや組織連携を高め、社会課題の認識の向上と自身のあり方を問う一連の授業デザイン・指導案づくり**など、どれをとっても魅力的なものです。

本プロジェクトでは、各チームにおいて、**校種を横断したカリキュラム・デザイン**となっており、授業内容・指導案どうしに十分な整合性が得られたものになっているとは言えません。しかしながら、持続可能な社会の担い手づくりにむけて、**校種を超えた総合的な視点**を一連の授業デザイン・指導案づくりに活かした点において一定の成果があったと言えます。

本プロジェクトは、授業内容・指導案の内容、全体構成に関する発想とデザインの良さを、ぜひ多くの先生方と共有したいと思い最終報告としてとりまとめたものです。是非、多様な参加教員の協働によるチャレンジに、ふれていただければ幸いです。

2022年3月

JICA 教師海外研修学術アドバイザー／
東京都市大学大学院 環境情報学研究科 教授

佐藤 真久

指導案作成者一覧

(敬称略)

1 班 テーマ①多文化共生型 多文化共生社会のメガネ

東京都立大島海洋国際高等学校 教諭 陣野 俊彦
白馬村立白馬北小学校 教諭 川尻 年輝
君津市教育委員会 指導主事 田仲 永和
JICA インターン 慶應義塾大学 法学部政治学科 広瀬 奈美
JICA インターン コロンビア大学大学院 国際学部 国際教育開発学科 小口 佳那子
JICA 東京 国際協力推進員 埼玉デスク 矢田部 建佑

2 班 テーマ②地域探究型 地域解決レンジャー

新渡戸文化小学校 教諭 栢之間 倫太郎
川口市立小谷場中学校 教諭 須賀 与恵
阿賀町立三川中学校 教諭 中村 太郎
板橋区立板橋第三中学校 教諭 輪湖 みちよ
東京女子学園中学校高等学校 教諭 黒川 八重
JICA インターン 上智大学 総合人間科学部 教育学科 長田 のっこ

3 班 テーマ③組織連携とキャリア教育型（1）絵本作りで伝える SDGs

和洋九段女子中学校高等学校 教諭 水野 修
中央大学杉並高等学校 教諭 大塚 圭
埼玉県立鳩ヶ谷高等学校 教諭 吉田 大祐
印西市立原山小学校 教諭 本木 淳也
東京都立向丘高等学校 教諭 中田 恵理子

4 班 テーマ③組織連携とキャリア教育型（2）キャリア&探究& SDGs—組織連携を通して— SDGs × グローカル・キャリア

新潟県立津南中等教育学校 教諭 松井 市子
村上市立荒川中学校 教諭 増田 有貴
渋谷区立松濤中学校 教諭 石井 誠

監修

JICA 教師海外研修学術アドバイザー 東京都市大学 教授 佐藤 真久

企画運営

JICA 東京 開発教育支援事業担当

本紙の構成

1 作成にあたって

この冊子は、はじめて国際理解教育／開発教育／SDGs・ESDに関する授業を実践しようとしている方や、これまでも実践していてさらに授業内容を豊かにしていきたいと考える方々に向けて作成しました。とくに、はじめて取り組もうとしている方が、この冊子の中の授業案から活用できそうな指導案を、掲載されているパワーポイント資料やワークシートを活用して、すぐにでも実践できるように工夫をしています。誰にでもご活用いただけるように、2年間をかけて作成を進めてきました。ひとりでも多くの方に手に取っていただき、国際理解教育／開発教育／SDGs・ESDに関する授業を実践するヒントとなれば幸いです。

指導案の作成には、① JICA 東京所管の一都五県（東京、千葉、埼玉、群馬、長野、新潟）の教師海外研修に参加されたことのある先生方、② JICA 東京開発教育班においてインターンをしていた大学（院）生、③ JICA 東京国際協力推進員埼玉デスクの方々にご協力をいただきました。また、企画立案から JICA 東京教師海外研修学術アドバイザー、東京都市大学佐藤真久教授に監修をいただきながら作成を進めました。

2 テーマの構成

指導案の作成は4つの班に分かれて進めました。4つの班のテーマは以下のとおりです。各班が、それぞれにテーマに沿って指導案を作成しました。

- 1班 テーマ① 多文化共生型
- 2班 テーマ② 地域探究型
- 3班 テーマ③ 組織連携とキャリア教育型（1）
- 4班 テーマ③ 組織連携とキャリア教育型（2）キャリア&探究& SDGs

それぞれの班の作成しました指導案の構成について、1班を例に、ご紹介します。

3 指導案の構成（おもに1班を例に）

（1）指導案に込めた思い、ジブンゴト化とは、課題と今後の展望

すべての班が「指導案に込めた思い、ジブンゴト化とは、課題と今後の展望」を作成しています。最近、とてもよく聞くようになってきた言葉に「ジブンゴト化」という言葉があります。みなさんは、この言葉をどこかで聞いたことがありますか？あるいは、普段から「ジブンゴト化」という言葉を使っていますか？よく使われる言葉ですが、改めて「あなたにとって、ジブンゴト化って、どういうことですか？」と聞かれたら何と答えますか？4つの班から出てきた内容も、それぞれです。皆さんならどう答えるか考えながら、読み比べてみてください。

「指導案に込めた思い、課題と今後の展望」も本冊子の指導案を、皆様の授業に活用していく際にもヒントとなる点があるかと思います。こちらも、ぜひご覧ください。

(2) 全体の構成

各班ともに、テーマに沿って、STEP 1 から始まりいくつかの小さなまとまりとなっています。

1 班を例にすると、

STEP 1：教室の中での多文化共生

STEP 2：難民と多文化共生

STEP 3：幸せとは何か

STEP 4：国の国際理解

STEP 5：自分プレゼン

という5つのSTEPを用意しています。それぞれのSTEPが2～3時間の授業で構成されています。それぞれのSTEPは順番に取り組んでいただく必要はなく、どのトピックであっても独立して取り組んでいただくことが可能です。また、ホームページに授業内で使用するワークシート等が掲載されていますが、対象とされます児童生徒の状況に合わせて改訂してご利用ください。

2 班も、STEP をいくつか用意してSDGsについて学び地域探究を進めていく内容になっています。3 班はSTEPとせず、TOPICとして、いくつかのテーマを扱っています。4 班は、個別の授業としてではなく一連の総合的な学習（探究）の時間のカリキュラムについて具体的な流れを提案しています。

各STEPやTOPICは2～3時間の授業で構成されていますが、その内容を『学びの構成』として紹介しています。

1 班 STEP 1：教室の中での多文化共生では、

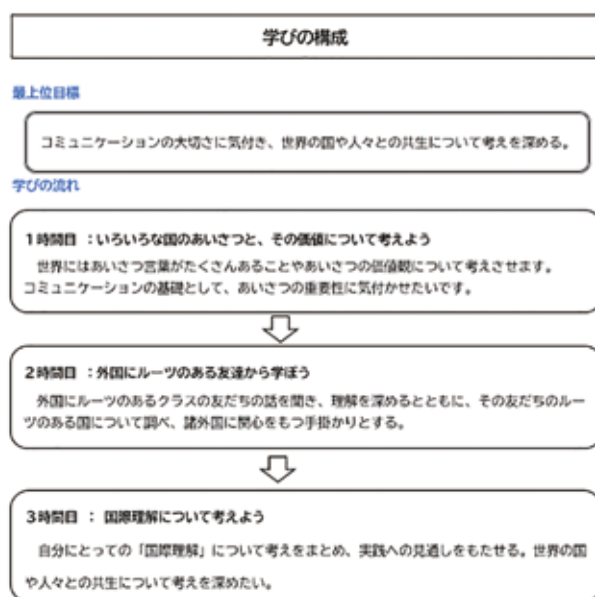
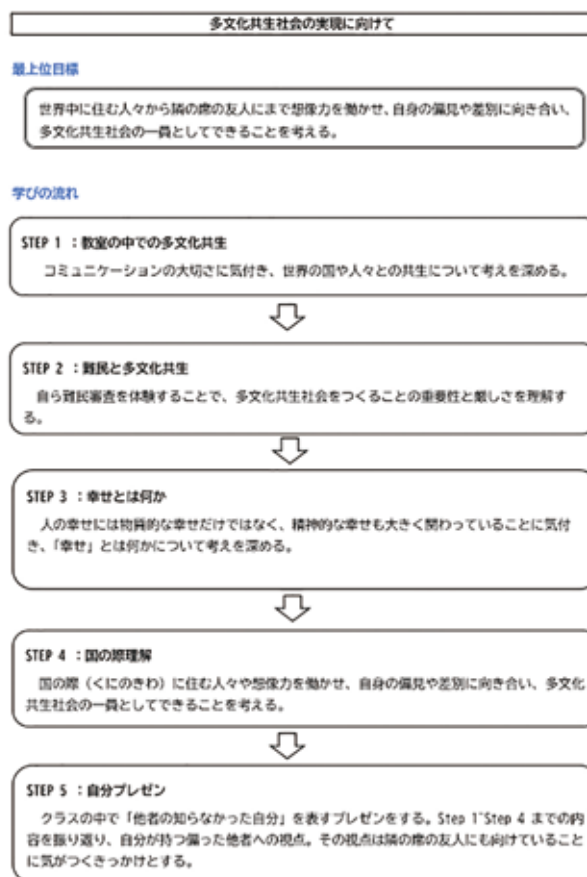
1 時間目：いろいろな国のあいさつと、その価値について考えよう

2 時間目：外国にルーツのある友達から学ぼう

3 時間目：国際理解について考えよう

の3時間で構成されています。

本冊子は、授業の流れを中心に構成しています。JICA 東京のホームページに、より具体的な指導案の内容を掲載しています。ぜひホームページを訪れ、ご覧いただくとともに、授業での活用をいただけたら幸いです！



付属の DVD に全ての資料が収録されています。

多文化共生社会のメガネ

世界中に住む人々から隣の席の友人にまで想像力を働かせ、自身の偏見や差別に向き合い、多文化共生社会の一員としてできることを考える。

アプローチ

1 教室の中での多文化共生

コミュニケーションの大切さに気づき、世界の国や人々との共生について考えを深める。

- ✓ 色々な国のあいさつと、その価値について考えよう
- ✓ 外国にルーツのある友達から学ぼう
- ✓ 国際理解について考えよう



2 難民と多文化共生

難民や難民にまつわる人の身になり問題を体験することで、難民と共存する多文化共生社会を創る厳しさと重要性について考える。

- ✓ 難民とは
- ✓ 難民の旅
- ✓ 難民キャンプでの暮らし



3 幸せとは何か

人の幸せには物質的な幸せだけでなく、精神的な幸せも大きく関わっていることに気づき、「幸せ」とは何かについて考えを深める。

- ✓ 開発途上国マラウイの現状を知ろう
- ✓ マラウイの人たちの「笑顔」の理由を考えよう
- ✓ マラウイの人たちは「幸せ」なのだろうか



4 国の際理解

国の際(くにのきわ)に住む人々や想像力を働かせ、自身の偏見や差別に向き合い、多文化共生社会の一員としてできることを考える。



5 自分プレゼン

クラスの中で「他者の知らなかった自分」を表すプレゼンをする。1から4までの内容を振り返り、自分が持つ偏った他者への視点。その視点は隣の席の友人にも向けていることに気がつくきっかけとする。

- ✓ 自分を知る
- ✓ 自分プレゼンのリハーサル
- ✓ 実演見学
- ✓ いざ自分プレゼン！



1 班 作成者の言葉



陣野 俊彦 東京都立大島海洋国際高等学校

川の向こう岸に住む人たちに向けて想像力を働かせること、知ろうとすること。それが多文化共生への道に繋がると信じて。まずは一人でも多くの先生にこの指導案が届きますように。

川尻 年輝 長野県北安曇郡白馬村立白馬北小学校

国際化の重要性が増々叫ばれている今、教室にいる様々な国々にルーツのある友達を知ることが、現代における「多様性を認める社会の実現」の第一歩になるのではないかと思います。さあ、あいさつから始めましょう！



田仲 永和 君津市教育委員会

「いいな！」と思えた授業案は、ぜひためらわずに実践してみてください。先生方の経験を生かして学校・学級ごとにカスタマイズしていけば、きっと本当の学びが生まれるはずです。平和実現への第一歩となりますように。

小口 佳那子 コロンビア大学大学院

世界の繋がりが多くなっていようで分断も多くなっている、複雑な世の中だと思います。そのような境遇をどう乗り越えるか、若者達が自分で考える機会を与えられたらと思っています。



広瀬 奈美 慶應義塾大学

自由な選択肢に溢れ、「正解」がないような時代。だからこそ悩む人が多い気がします。そんな一人ひとりが少し外に内に目を向けて自分の道を歩けるように。

指導案に込めた思い

2020年10月にスタートした本プロジェクトチームであるが、1年半経った指導案脱稿前の現在も社会情勢は混迷の度合いを一層深めている。国家・民族間の対立、自由・平等をめぐる問題、富裕層・貧困層との格差問題など、世界の分断はコロナ化によってさらに加速した。上記の問題は見知らぬ人間同士にも波及し、オンライン・オフライン問わずヘイトスピーチなど枚挙にいとまがない。隣人同士の交流も制限された今、自己とは異なる他者へ想像力を働かせることこそ現代を生きる我々にとって必要なことではないかと考える。このような世界情勢を鑑み、国際理解の授業として生徒たちに考えてほしいこと、伝えたい価値観は何かと議論を重ねた上、本指導案は作られている。

昨年度の指導案では、ユネスコ21世紀教育国際委員会作成『学習：秘められた宝』記載の克服すべき7つの緊張状態にヒントを得て作成した。佐藤真久東京都市大学教授が加筆した8つの緊張状態をどのように国際理解の授業として具現化するかに主眼を置いたが、次のような反省が残った。

第一に国際理解における様々なトピックがカバーされているが、指導案として1つのテーマを絞りきれていないこと。第二に対象児童生徒が統一されておらず、実践する際に使いづらさを残していることである。

これらの反省点を踏まえ、本指導案では以下の点に注力した。まず初めにテーマを「多文化共生社会の実現のために」と絞り、各授業案が1つ1つのパーツとして構成されている。次に対象生徒を中学3年生と想定することにした。本タスクチームは小学校教諭、教育委員会指導主事、高校教諭、大学院生、大学生からなり、中学生の指導経験には乏しいかもしれないが、小学校6年間の教育の先に、又、高校3年間の前に取り組んでほしい、との校種連携の思い、また大学・大学院生のアカデミックな視点も取り入れつつ作成した。なお中学3年生の公民の教科書5社を参照し、グループワークのレベル感なども配慮をした。もちろん、中学3年生以外で実施できないということではない。各校種、学年ごとに先生方ご自身でカスタマイズし、実践していただきたい。

本指導案作成にあたり難民支援の観点から国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）ヨルダン事務所所長特別補佐官の角谷亮さんから助言をいただきました。この場をお借りし、感謝申し上げます。

ジブンゴト化とは

一言で表現すれば、自身が所属する共同体への「責任感」のことである。前述した『学習：秘められた宝』の序文で、ジャック・ドゴールは次のように述べる。

我々が自然に所属する近隣社会といった共同体—国家、市・町・村の中で共生することを知らずして、いかに「地球村」で共生することを学びえようか。共同生活の中で、共同体生活の中で、共同体に貢献することを望み、あるいは貢献できることこそ民主主義の中心課題なのである。参加への意志は個々人の責任感に基づくものだということを忘れてはならない。これまで全体主義や独裁主義に束縛されていた国々に民主主義が新たな版図を拡げた。一方で、これまで何十年も民主主義制度を維持してきた国々において、あたかも物事には絶えず新しい始まりが必要で、すべては新たにされ、再発見されなければならないとでもいうように、いまや民主主義が精彩を欠く徴候が現れている。

これらの諸課題に対して、教育政策に携わる人々が関心を払わないでよいということはいえない。そして本委員会も、教育政策が持続的な人間形成、諸国民の相互理解、実践的な民主主義の再生に貢献することによって、よりよき世界の創造に資する何らかの方策を示さないわけにはいかないのである。

この報告書は 1996 年に書かれたが、25 年たった現在も解決の兆しは一向に見えていない。それどころか課題は深刻さを増している。

グローバル化によって世界が狭くなった。それは自身が所属する共同体の課題が世界にどのような影響を与え、逆に世界から与えられるかがより可視化されたことと同義であるようだ。そのような時代だからこそ、この世界に生きる一人の人間として自身が所属する共同体・地球村に対して真摯に向き合える人を育成できるか。学校教育、中でも国際理解教育の果たす使命は大きい。

繰り返しになるが、上述の責任感を持った一人一人が集まる共同体が民主主義の根幹をなす初めの一步として、多文化共生社会の実現をジブンゴトとして捉えられる人を育成する。それが本指導案の最大の目的である。

課題と今後の展望

人は誰しも、自分があまりよく知らない人たちや文化に対し偏見をもってしまうがちである。本指導案では、なかなか自分で気づくのが難しい、自分自身が持つ偏見に目を向け、考えを深めることを目的としている。そのために「世界中の挨拶」「難民」「幸せの定義」「国の際にある人・国」「隣の席の友達」という様々なアプローチからの授業アイデアを示した。

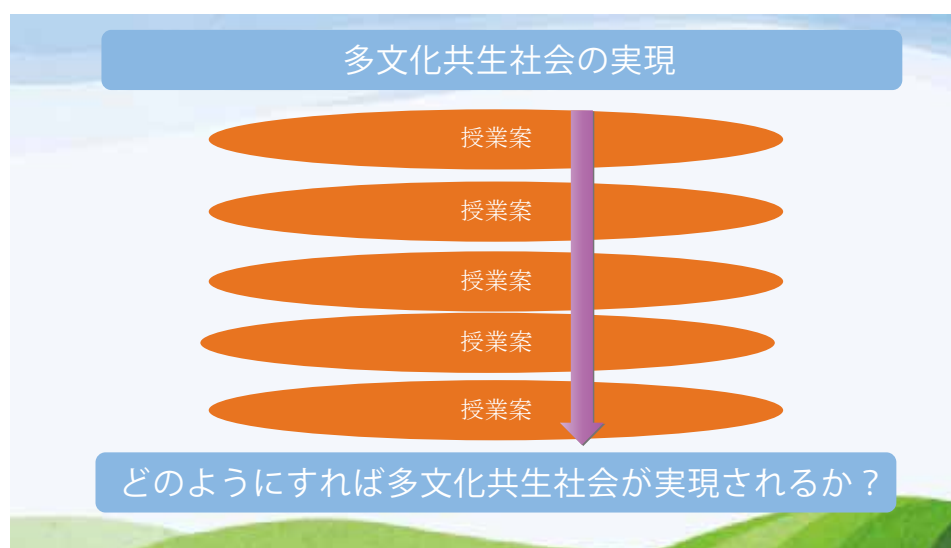
しかし、注意すべき点がいくつかある。

一つ一つの指導案の内容が独立できてしまうがゆえに、その一貫性に課題がある。教師自身が目標（多文化共生社会の実現）をしっかり持ち、指導のポイントを見失わないように注意が必要である。

世界中の言葉で挨拶をしてみる、難民の申請ロールプレイ、マラウイの幸せフォトランゲージ、国と国の際しらべ、自分プレゼンなどアクティビティが多いため、「楽しかった」だけで終わってしまい、“活動あって学びなし”という状態に陥る可能性もある。

「知らない」ということが偏見や差別につながることもある。だからこそ『知る』ことで自分とは違う文化をもつ他者への理解が進み、『知ろう』と努力することが多文化共生社会を作る一歩になる」というメッセージを繰り返し伝える必要がある。

多文化共生社会の実現をジブンゴトとして捉えられる子どもたちを 1 人でも多く育成できるように、引き続き内容のアップグレードを図っていきたい。



多文化共生社会の実現に向けて

最上位目標

世界中に住む人々から隣の席の友人にまで想像力を働かせ、自身の偏見や差別に向き合い、多文化共生社会の一員としてできることを考える。

学びの流れ

STEP 1：教室の中での多文化共生

コミュニケーションの大切さに気づき、世界の国や人々との共生について考えを深める。



STEP 2：難民と多文化共生

自ら難民審査を体験することで、多文化共生社会をつくることの重要性和厳しさを理解する。



STEP 3：幸せとは何か

人の幸せには物質的な幸せだけではなく、精神的な幸せも大きく関わっていることに気づき、「幸せ」とは何かについて考えを深める。



STEP 4：国の際理解

国の際（くにのきわ）に住む人々や想像力を働かせ、自身の偏見や差別に向き合い、多文化共生社会の一員としてできることを考える。



STEP 5：自分プレゼン

クラスの中で「他者の知らなかった自分」を表すプレゼンをする。Step1～Step4 までの内容を振り返り、自分が持つ偏った他者への視点。その視点は隣の席の友人にも向けていることに気がつくきっかけとする。

STEP 1：教室の中での多文化共生

世界にはあいさつ言葉がたくさんあることやあいさつの価値観について考えさせます。
コミュニケーションの基礎として、あいさつの重要性に気付かせたいです。

学びの構成

最上位目標

コミュニケーションの大切さに気づき、世界の国や人々との共生について考えを深める。

学びの流れ

1 時間目：いろいろな国のあいさつと、その価値について考えよう

世界にはあいさつ言葉がたくさんあることやあいさつの価値観について考えさせます。
コミュニケーションの基礎として、あいさつの重要性に気付かせたいです。



2 時間目：外国にルーツのある友達から学ぼう

外国にルーツのあるクラスの友だちの話を聞き、理解を深めるとともに、その友だちのルーツのある国について調べ、諸外国に関心をもつ手掛かりとする。



3 時間目：国際理解について考えよう

自分にとっての「国際理解」について考えをまとめ、実践への見通しをもたせる。世界の国や人々との共生について考えを深めたい。

いろいろな国のあいさつと、その価値について考えよう 1

【1時間目】いろいろな国のあいさつと、その価値について考えよう

実施の目的：世界のあいさつを知ったり、あいさつの価値についてじっくりと考えさせたりすることを通じて、相手の立場に立ったあいさつの大切さがわかる。

生徒の目標：①世界のいろいろなあいさつについて知る。

②あいさつの意義について、友達と対話しながらじっくりと考え、相手の立場に立ったあいさつの大切さに気付く。

事前の準備物：・世界の人々のあいさつシーンの写真、国旗
・学習カードの印刷

目安時間	内容
5 分	世界の“あいさつ”、いくつ知っていますか？ 【問い】世界のいろいろなあいさつについて、いくつ知っていますか？ ・ペアトークで話し合いながら、学習カードに記す。 - 世界にはいろいろなあいさつがあることに気付く。 ※「世界中でこんにちは」 こんにちはワールド (https://konnichiworld.com/world/hello.html) 資料 1 ※あいさつシーンの写真や国旗をあらかじめ印刷して、黒板に掲示することで、あいさつについて意欲喚起させる。  ペアトークが早く終わってしまったら、自分の座席の前後など近い友達とも話し合う。
10 分	もしも、あいさつがない世界なら…？ 【ワーク】あいさつがない世界を考えてみよう ・朝、学校で友達と会ったとき… ・友達とケンカをしてしまったとき… ・食事を食べるとき、食べ終わったとき… ・その他 “あいさつ”が一切無かったら、次の場面ではどうなるのか話し合う。 
10 分	【知る】あいさつの意義、価値とは何か考えよう ・なぜあいさつが世界各国に存在するのか考える。 ・個人（学習カード）→ペアトーク→フリーワークと、じっくり考えを深めていく。

資料 1 ※その他の資料は DVD・ホームページをご覧ください※

「こんにちはワールド」

世界を 280 カ所以上訪問した S さんが、世界の挨拶「こんにちは」「ありがとう」「愛してる」を、現地の言葉と読み方付きでまとめています。旅行や日常会話集なども載っており、国際理解教育推進に大きな力となるはずです。

※こんにちはワールド：<https://konnichiworld.com/world/hello.html>



目安時間	内容
15分	あいさつで大切なポイントとは何だろう？ 【ワーク】 いろいろなあいさつの仕方を試してみよう ・ 明るい笑顔であいさつするとき、無表情であいさつするとき ・ いつでもあいさつする人、気分でする人 ・ 先にあいさつする場合、後からあいさつする場合 ・ 続けるあいさつをするとき、あいさつ言葉だけで終わるとき 資料2 ※あいさつの4ヶ条 「㊥かるく、㊦いつでも、㊧きに、㊨づけて」相手の立場に立ってあいさつしよう！
10分	今日の学びを振り返ろう 【まとめ】 今日の学習のまとめと振り返りを行う ・ 今日の学習を振り返り、今までの自分のあいさつを振り返ったり、今後のあいさつについて考えたり、自分なりに学習カードにまとめる。 ・ 代表児童数名に発表させ、今後のあいさつの仕方の参考にする。

資料2※その他の資料は DVD・ホームページをご覧ください※

「あいさつの4ヶ条」

①「あ」：明るい表情で、温かな気持ちで、握手するように、ありがとうの気持ちで

微笑みながら明るい表情で挨拶をされて嫌な気持ちになる人はいないと思います。まずは笑顔を大切に挨拶したいです。そして、相手に対して温かな気持ちで、相手とあたかも握手をするように、感謝の気持ち（ありがとう）をもって挨拶できたら最高ですね。

②「い」：いろいろな人に、いつでも、居心地よく

朝一番のあいさつは、気持ちの良いものです。「今日も一日頑張るぞ!」という気持ちに挨拶した人もされた人もなります。知人だけでなく、いろいろな人に挨拶できると良いです。また、いつでも挨拶することで、相手との居心地の良い空気感が生まれ、挨拶が“人と人の潤滑油”となります。

③「さ」：先に、最初に、最高な

挨拶は誰かに言われてから挨拶するよりも、相手よりも先に、最初に挨拶することで、好印象をもってもらえます。また、堂々と最高な気分で挨拶することも大切です。先に挨拶を行うことで、好意を与えることが、「返報性の法則」から考えても、人と人との関係性をよくしていくことにつながるはずです。

④「つ」：続ける、（あいさつの）次の言葉を話す

挨拶は続けることに意味があります。気が向いたときだけ挨拶するのは、相手にしたらあまり良い気持ちにはなりません。挨拶を生活の一部、ルーティーン化してしまうことで、相手とのコミュニケーションのきっかけにもなります。さらに、あいさつの次の一言（おはようございます。今日も良い天気ですね!）を話すことで会話が弾み、さらに相手との心の距離も近付いていきます。

いろいろな国のあいさつと、その価値について考えよう2

【2時間目】外国にルーツのある友達から学ぼう

実施の目的：外国にルーツのある友達（※ここではタイ王国とする）の話しをもとに、その友達についての理解を深めたり、友達のルーツのある国と日本との関わりについて調べたりしながら、話し合う。

生徒の目標：①外国にルーツのある友達について理解を深める。
②タイ王国について調べ、理解を深める。

事前の準備：・外国にルーツのある生徒との打ち合わせ
・学習カードの印刷

目安時間	内容
5分	タイ王国について、どんなことを知っていますか？ 【問い】 タイ王国について、どんなことを知っていますか？ ・ペアトークで話し合い、タイ王国について話し合う。 話し合いの様子を見ながら、タイ王国の写真を数点掲示する。   

目安時間	内容
10分	Aさんについて知ろう！ 【聞く】 Aさんの話を聞こう ・日本にきて良かったこと、苦労していること ・タイ王国と日本の似ていることについて ・タイ王国と日本の違うところについて ・その他 【深める】 感想交流 ・ペアトークやグループトークでAさんやタイ王国について友達と語り合う。 ・感想を出し合い、全体発表する。 タイ王国について調べよう！ 【ワーク】 タイ王国と日本の歴史や関係を調べよう ・約600年前ころ、朱印船貿易でタイ国と交易していた。 ・江戸時代の初め頃に、山田長政がタイに渡り活躍した。 ・1887年に、正式な国交が結ばれた。 ・現在では、タイ王国は、日系企業の一大活動拠点となっている。 ※外務省 HP「キッズ外務省・世界の国々」を活用する。 ※“美点凝視”を大切に、肯定的な歴史や関係を中心に調べさせたい。 資料3 ※「キッズ外務省・世界の国々」 https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/ichiran/index.html 事前に、どんな内容の話すのか担任とAさんで打ち合わせをしておく。Aさんのご家族の方に来ていただき一緒に語っていただくのも良いかもしれません。 クロームブック等の ICT 機器を活用し、タイ王国と日本の関係について調べる。
10分	今日の学びを振り返ろう 【まとめ】 今日の学びを振り返ろう ・今日の学習を振り返り、今後、Aさんとどうしていきたいか考える。 ・代表児童数名に発表させ、感想交流を行う。

資料3 ※その他の資料は DVD・ホームページをご覧ください※
「キッズ外務省・世界の国々」

世界の国々について、首都・主要言語・人口・通貨単位などが一覧表で示されています。また、各国名をクリックすることで、基礎データが載っているページにジャンプし、様々なその国のことがわかるようになっています。



【3時間目】国際理解について考えよう

実施の目的：国際理解について考える

生徒の目標：①国際理解という言葉の意味を考え思考する。

②3枚の写真から、いろいろな国の違いを理解し、私たち日本人がどのようなことができそうなのか考える。

③自分にとっての「国際理解」について考えをまとめ、実践の見通しをもたせるとともに世界の国や人々との共生について考えを深める。

事前の準備：・ フォトランゲージで使う、国際理解を感じやすい場面の写真を3枚用意する。

EX. 「地雷の看板」「水くみ」「難民キャンプ」

・ 資料3を読み、3つの事象について、概略を理解しておく。

目安時間	内容
5分	国際理解って、どんなこと？ 【問い】「国際理解」ってどんなことかな？ ・ ペアトークで話し合い、国際理解について話し合う。 ・ 国語辞典を使って意味を調べる。 ※世界の人々が、国を越えて理解しあい、協力し、世界平和を実現すること ペアトークの後、国語辞典を活用し、国際理解について意味を知る。
10分	3枚の写真から（フォトランゲージ） 【話し合う】 写真を見て、気付いたことを話し合おう！ ・ 写真を見ながら友と語り合い、地球上には様々な課題があることを感じる。 ・ 学習カードやノートに、写真を見ての気づきを書き、友達と感想交流を行う。  A  B  C 資料4 - A 地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL） - B（公財）日本ユニセフ協会 「遠い水源」 - C 国連 UNHCR 協会

目安時間	内容
10 分	私たち日本人は、どうすればよいのだろうか？ 【思考する】 写真を見て感じたことをもとに、私たち日本人について考える ・友達と感想交流を行う。 ・なぜ日本と状況が違うのか考える。 ・私たち日本人が出来ることとは何か考える。
10 分	あなたにとっての「国際理解」とは？ 【まとめ 1】「国際理解」とはどんなことなのか考えをまとめる ・学習を振り返り、自分なりの「国際理解」について考えをまとめる。 ・友達と意見交流し、考えを広める。 ・広くクラス全体に知らせたい考えは、全体発表の時間をとり、共有化を図る。
15 分	今後の見通しをもとう 【まとめ 2】今日の学びを振り返ろう ・今日の学習を振り返り、「国際理解」という視点で、自分自身がどうしていきたいのか見通しをもたせる。 ・代表児童数名に発表させ、感想交流を行う。世界の国や人々の共生について触れる。

STEP 2：難民と多文化共生

自ら難民審査を体験することで、多文化共生社会をつくることの重要性和厳しさを理解する。

学びの構成

最上位目標

難民や難民にまつわる人の身になって難民問題を体験することで、
難民と共存する多文化共生社会を創る厳しさと重要性について考える。

学びの流れ

1 時間目：難民とは

難民申請を体験することで、難民と共存する多文化共生社会を創る重要性和厳しさについて考える。



2 時間目：難民の旅

難民の命懸けの旅を体験することで、その課題の深刻さと難民と共存する多文化共生社会を創る重要性を理解する。



3 時間目：難民キャンプでの暮らし

難民キャンプでの暮らしを体験することで、その課題の深刻さと難民と共存する多文化共生社会を創る重要性を理解する。

【1 時間目】 難民とは

実施の目的：難民申請を体験し、難民と共存する多文化共生社会を創る重要性和厳しさについて考える。

生徒の目標：①難民を受け入れて多文化共生社会を創る、という課題の複雑さと重要性を知る。

②難民と審査官の視点から難民審査について考え、難民と生きる多文化共生社会を想像する。

事前の準備物：資料① 「難民」、「庇護希望者」、「国民難民」の説明ビデオ

ワークシート① 難民認定審査を体験しよう（ワーク）

ワークシート② 難民認定審査を体験しよう（答え）

資料② 難民審査後の説明ビデオ

ワークシート③ 振り返りシート①

目安時間	活動内容
10 分	難民ってだれ？ 【問い】『世界の 95 人に 1 人』って、なんの数字？ 答え：この数字は『紛争や迫害などが原因で家を追われた人』の数です（国連 UNHCR 協会）。2020 年は 8240 万人が紛争や迫害などが理由で家を追われ、この中には難民（2640 万人）、庇護希望者（410 万人）、国内避難民（4800 万人）などがいます。 問いの答えがなかなか出ないときは、ヒントを出しましょう： （例）そのうちのほとんどがシリア人 【知る】難民、庇護希望者、国民難民のちがいを知ろう ・ 難民：1951 年の難民条約で定められた人々を指す。人種、宗教、国籍、政治的意見などの理由から迫害を受けて母国を逃れ、異国での保護を望む人。 ・ 庇護希望者：難民のように迫害を受けて母国を逃れ、異国での難民認定を待つ人。 ・ 国内難民：難民のような迫害を受けて家を逃れたが、国境を越えられないまま避難生活をしている人。 それぞれについて説明している資料①のビデオを見せると分かりやすいかもしれません。 【知る】どうしたら難民として保護してもらえるの？ ・ 難民になるには、保護を受けたい国による難民認定審査を通らなければなりません。 ・ 日本の難民認定審査を通るには、面接で十分な証拠を見せる必要があります。不十分だとされた場合、一時的な保護を受け、また起訴をするチャンスが何度かありますが、何ヶ月も何年も待たされる長期戦です（国連 UNHCR 協会）。

目安時間	活動内容
35 分	日本の難民認定審査を体験しよう 【ワーク】 もしあなたが法務省入国管理局の面接官だったら、次の理由で難民認定申請をする庇護希望者がいるときどうしますか？ ・ ワークシート①にある庇護希望者を難民として認定するか、グループで話し合しましょう。 【知る】 法務省入国管理局の難民認定に基づく審査をもとに、日本にとって難民とは誰なのか考えよう ・ ここでワークの答え合わせをします。ワークシート②を読んで、日本にとってどんな人が難民とされるのかを考えましょう。 【問い】 審査を通った人、通らなかった人ってどうなるの？ ・ 通った人：政府や自治体、NGO から保護を受ける事ができ、定住者の資格をもらったり就労が許可されたりする。 ・ 通らなかった人：一時的な保護のために入国管理施設に送られる事がある。日本ではここでの環境の悪さについて海外からも厳しい指摘を受けている。 それぞれのシナリオについて説明する資料②のビデオ見せるとわかりやすいかもしれません。
5 分	まとめ：難民と生きる多文化共生社会ってどうやって創るの？ 【まとめ】 授業の感想を共有しよう ・ まとめとして生徒の感想を集めましょう。 (例) ・ 日本の難民認定審査についてどう思いましたか ・ もし審査基準を変えられるとしたらどのようにしたいですか ・ 授業の感想をワークシート③に書きましょう なかなか厳しい現実を知る授業でしたが、最後は難民に思いやりを抱き、多文化共生社会について考えられるといいですね。

【2時間目】 難民の旅

実施の目的：難民の命懸けの旅を体験することで、その課題の深刻さと難民と共存する多文化共生社会を創る重要性を理解する。

生徒の目標：①難民として生きることの厳しさと深刻さの理解を深める
②深刻な課題について自分や社会ができることを考える

事前の準備物：資料③ 難民の説明ビデオ
資料④ すごろくワーク資料
ワークシート④ 振り返りシート②

目安時間	活動内容
15 分	難民ってどんな人？ 【知る】 難民とはどのような状況にある人なのか、ビデオを観て学ぼう ・ 資料③のビデオを通して学んだことを共有しましょう。 難民とは深刻で複雑な問題です。どこまで厳しい現状について触れるのが適切なのか、見せるビデオを資料③から選ぶことで調節できます。
25 分	すごろくを通して「難民の旅」を体験しよう 【ワーク】 難民として生きることの厳しさと深刻さをより理解するために、すごろくを通して難民の旅を体験しよう ・ 小グループに分かれて資料④のいずれかの難民すごろくを行います。 ・ ルールは通常のすごろくと一緒です。 ・ プレーヤーは「母国で迫害を受けた少数民族民族の難民」という設定です。 「すごろく」ではあるものの、このワークでは難民の人を尊重し、真剣に取り組むように促しましょう。

目安時間	活動内容
10分	わたしたちができること 【問い】 難民が置かれている状況を少しでも改善させるために、わたしたちができることは何か、考えてみよう ・まとめとして生徒の感想を集めましょう。 (例) ・すごろくでゴールはできましたか。なぜゴールするのが難しかったですか。 ・ワークを通して、難民としてどういう気持ちになりましたか ・もし自分の国に難民が来たら、どういう言葉をかけると思いますか ・授業の感想をワークシート④に書きましょう 「すごろく」ではふりだしに戻れても、現実はそこで旅が終わってしまう事がある厳しい現状についてクラスで考えましょう。

すごろくワーク資料



難民の生きる世界を知るためにすごろくをします。しかし、このすごろくは「ゲームではない」ことを生徒に伝えましょう。いつものような楽しい人生ゲームなどとは違い、実際に起こる難民の迫害や危険な移動を体験するものと説明します。すごろく①はやさしいすごろくで、すごろく②は複雑な上級者向けのすごろくです。いずれかを選んでください。

すごろく①	すごろく②
	

【3時間目】 難民キャンプでの暮らし

実施の目的：難民キャンプでの暮らしを体験することで、その課題の深刻さと難民と共存する多文化共生社会を創る重要性を理解する。

生徒の目標：①難民の日々の暮らしを知り、その厳しさと課題の深刻さを理解
②深刻な課題について自分や社会ができることを考える

事前の準備物：資料⑤ 難民フォトランゲージ
資料⑥ 難民キャンプロールプレイカード
ワークシート⑤ 振り返りシート③

目安時間	活動内容
15 分	難民って、どこでどんな暮らしをしているの？ 【ワーク】 写真を観て難民の暮らしを想像しよう ・ 資料⑤をもとにフォトランゲージを行います ★補足① 難民とは深刻で複雑な問題です。生徒に合わせて資料⑤からフォトランゲージの写真を選びましょう。 【知る】 難民ってどこでどんな暮らしをしていると思いますか ・ ワークの後に話を難民キャンプへ移します： ・ 難民の多くは「難民キャンプ」でテント暮らしをし、受け入れ国でも足止めされています。そこではプライバシーも少ない中、いつ普通の生活ができるかわからない状況で生活しています。さまざまな紛争地域の民族が一つのキャンプに集まるとキャンプ内で対立することもあります。
35 分	難民キャンプの暮らしを体験しよう 【ワーク】 難民キャンプの住民になりきって難民キャンプの暮らしを体験しよう ・ 資料⑥をもとに小グループに分かれてロールプレイを行います ★補足② ・ ワーク中の問いの例 ・ 「民族 A の男性」さんは「難民キャンプを提供している国の政府代表者」さんにどういうことを要求しますか。その要望に対して「政府代表者」さんはどう答えますか。 ロールプレイの途中で問いを挟むことで、ディスカッションを複雑化することも可能です。

目安時間	活動内容
10分	わたしたちができることは 【問い】 難民のためにわたしたちができることは何か考えてみよう ・まとめとして生徒の感想を集めましょう。 (例) ・ロールプレイを通してどのような発見がありましたか ・難民キャンプよりも良い多文化共生社会のあり方があると思いますか ・どうしたら難民が暮らしやすいキャンプや社会を創れると思いますか ・授業の感想をワークシート⑤に書きましょう

＜ 補 足 ＞

★補足①

「フォトランゲージ」について

※詳細はこちらから→

開発教育協会 DEAR ホームページ

<http://www.dear.or.jp/activity/1730/>



「フォトランゲージ」とは

1枚の写真も、使い次第で立派な開発教育の教材になる。

フォトランゲージは、写真を使って行う参加型のアクティビティだ。

たとえば、南の島から届いた1枚の絵はがき。「どこの島（国）だろう？」「ここに写っている人は何をし（考えて）いるのだろうか？」といった疑問に始まり、その土地の文化的な特徴が表われているものを探したり、写真にキャプション（簡単な解説）を付けてみたり、その写真を題材にしてニュース記事を書いたり…。グループで話し合い、写真を“読み解く”なかから、いろいろな気づきや発見が生まれる。

フォトランゲージで使用する教材（写真）は、絵はがきや雑誌の切り抜き、写真集のページをカラーコピーするだけで簡単に用意することができるので、誰でも手軽に取り組むことができる。また、ビジュアルな道具を使うことには、その後の話し合いのテーマ、焦点を明確にしやすいという利点もある。

「フォトランゲージ」の効果

1. 共感的な理解や想像力を高める
2. ものごとの多様な捉え方に気付く
3. 無意識のうちに持っている偏見や固定観念に気付く
4. メディアに対して批判的な見方ができるようになる

「フォトランゲージ」を行う際の注意点

1. 観察に十分な時間をとる
2. 間違った答の背景にあるものを重視する
3. 自由な発想を大切にす

★補足②

「ロールプレイ」について

※詳細はこちらから→

開発教育協会 DEAR ホームページ

<http://www.dear.or.jp/activity/1734/>



「ロールプレイ」とは

ロールプレイ（役割演技）というのは、実はかなり広い意味を持っている。しかし、ここでは、開発教育の手法として通常使われている、狭い意味でのロールプレイについて説明したいと思う。シミュレーションが、ある事象をモデル化し、参加者がそれを擬似的に体験するものであるのに対し、ロールプレイでは、ある特定の（自分と違う）立場の人（場合によっては、動物やモノの場合もある）になったつもりで、ある問題について考え、それを表現するということに特徴がある。

「ロールプレイ」の進め方のパターン

その1：参加者全員を登場人物の数にグループ分けし、それぞれのグループに配役する。

1. 各グループに「役柄カード」を配り、よく読んで、グループ内でその役柄について話し合う。
2. 各グループから1人、代表者を出し、グループ内での話し合いの内容に沿って、全員の前でそれぞれの役柄を演じ、意見を言う。
3. 合意形成をめざし、全員で話し合う。
4. 時間に余裕がある場合は、途中で話し合いを中断して課題を整理し、グループ毎に調査や話し合いを行った上で再開する。

その2：参加者の中から登場人物の数だけ代表を選び、他の参加者の前で演じる。

1. 代表者に「役柄カード」を配る。
2. 代表者は、「役柄カード」に沿って役柄を演じ、意見を言う。
3. 登場人物（演じ手）による話し合いが決裂した状態でストップする。
4. 各登場人物はどのような考えだったのか、参加者全員で話し合う。
5. 解決策について、全員で話し合う。

「ロールプレイ」のねらい

1. 共感的な理解や想像力を高める
2. ものごとの多様な捉え方に気づく
3. 無意識のうちに持っている偏見や固定概念に気づく
4. メディアに対して批判的な見方ができるようになる

「ロールプレイ」を行う際の注意点

1. 観察に十分な時間をとる
2. 間違った答えの背景にあるものを重視する
3. 自由な発想を大切にする

STEP 3：幸せとは何か

人の幸せには物質的な幸せだけではなく、精神的な幸せも大きく関わっていることに気づき、「幸せ」とは何かについて考えを深める。

学びの構成

最上位目標

人の幸せには物質的な幸せだけではなく、精神的な幸せも大きく関わっていることに気づき、「幸せ」とは何かについて考えを深める。

学びの流れ**1 時間目：開発途上国（マラウイ）の現状を知ろう**

開発途上国の写真を見ながら、物質的貧困の現実に向き合う導入段階です。日本との相違点・共通点・類似点を探します。その中でもあえて、相違点が多い写真を使います。

**2 時間目：開発途上国（マラウイ）の人たちの「笑顔」の理由を考えよう**

STEP1 とは対照的に、貧困の中にも「笑顔」が見られる写真を提示し、相違点だけでなく、共通点も多くあることに気づきます。そして「笑顔」の理由について話し合います。物質的には貧しい生活でも、幸せは存在するということに気付いていきます。

**3 時間目：開発途上国（マラウイ）の人たちは「幸せ」なのだろうか**

あえて答えがはっきり出ない問いを立てることによって、様々な考えが出てくることをねらいます。理由をつけて「幸せの理由」を説明することで、物質的な幸せだけでなく、精神的な幸せとは何かについて考えを深めます。

【1 時間目】 開発途上国の現状を知ろう

実施の目的： 開発途上国の現実を知り、自分たちの生活を相対的に見ることができる。

生徒の目標： ①開発途上国の物質的貧困という厳しい現実への理解を深めることができる。

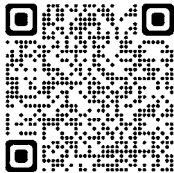
②自分たちとの相違点・共通点・類似点を探し、見つけ出すことができる。

事前の準備物： 開発途上国と先進国とで色分けされた世界地図 **資料①**

フォトランゲージ写真集（マラウイの貧困編）からグループ数分 **資料②**

フォトランゲージ写真集（マラウイの笑顔編）から 1 枚 **資料③**

ワークシート①

目安時間	活動内容
5 分	色分けされた世界地図を見て気付くことはあるかな？ 【問い】 この世界地図は何によって色分けされているだろう？ (例) 暖かい国と、寒い国 裕福な国と、貧しい国 資料①「色分けされた世界地図」 あくまで予想なので色々な 予想が出るといいですね   【問い】 開発途上国についてどのくらい知っていますか？ ・ 開発途上国について確認する。 「世界 196 カ国のうち、約 150 もの国々が、まだ経済と産業の発展が遅れた『開発途上国』です。そこに暮らす多くの人々は飢えや貧困に苦しみ、十分な食料や飲み水を得ることができず、学校や病院にいくこともできません。食べること、学校に行くことが『当たり前』の先進国は世界のほんの一部。いまでも世界中で多くの人々が苦しんでいるのです。」 ※『どうなってるの？ 世界と日本（第二版）』より

目安時間	活動内容																											
40 分	開発途上国の「マラウイ」について知ろう 【知る】 開発途上国の「マラウイ」について調べよう ・ ワークシート①にマラウイについてインターネットや本で調べたことを記入して、比較する。 この指導案では世界最貧国の 1 つであるマラウイを選んでいますが、他の開発途上国を選んで構いません。 ※調べる時間がなければ、予想→答え合わせ、で教えてしまってもよい。 ※日本に比べて、とても貧しいことが GDP の比較などで確認できるようにする。 <table><tr><th></th><th>マラウイ</th><th>日本</th></tr><tr><td>位 置</td><td>南半球（アフリカ）</td><td>北半球（アジア）</td></tr><tr><td>面 積</td><td>約 12 万km²</td><td>約 38 万km²</td></tr><tr><td>人口（千人）</td><td>18,629 世界第 63 位（2019 年）</td><td>126,860 世界第 11 位（2019 年）</td></tr><tr><td>主な宗教</td><td>キリスト教</td><td>仏教など</td></tr><tr><td>主な産業</td><td>農業（タバコ）</td><td>工業</td></tr><tr><td>主 食</td><td>トウモロコシ（ンシマ）</td><td>米（ごはん）</td></tr><tr><td>GDP（百万 US \$）</td><td>7,663 世界第 149 位（2019 年）</td><td>5,079,916 世界第 3 位（2019 年）</td></tr><tr><td>その他の特徴（なんでも）</td><td>マラウイ湖、世界最貧国、Warm Heart of Africa</td><td>相撲、寿司、富士山、島国</td></tr></table> 小学生を対象とする場合には『DOOR ドア』（帝国書院）という本が調べ学習におすすめ。どの国も見開き 1 ページで、200 以上の国が素敵なイラスト付きで紹介されています。 【ワーク】 フォトランゲージをやってみよう ★補足①・② ・ 資料②『フォトランゲージ写真集（マラウイの貧困編）』から、グループに 1 枚ずつ配られた写真を見て、気づきをメモして発表する。 フォトランゲージでは、共通点・相違点・類似点に着目することがポイントです。また、疑問に思ったこと、想像したこともメモするように促してみましょう。ここではあえて、相違点に多く気付くような写真をチョイスしてあります。  【注意】 写真についての解説部分（資料②青枠内）はここでは見せません。 ★補足②は、P25 補足①を参照してください。		マラウイ	日本	位 置	南半球（アフリカ）	北半球（アジア）	面 積	約 12 万km ²	約 38 万km ²	人口（千人）	18,629 世界第 63 位（2019 年）	126,860 世界第 11 位（2019 年）	主な宗教	キリスト教	仏教など	主な産業	農業（タバコ）	工業	主 食	トウモロコシ（ンシマ）	米（ごはん）	GDP（百万 US \$）	7,663 世界第 149 位（2019 年）	5,079,916 世界第 3 位（2019 年）	その他の特徴（なんでも）	マラウイ湖、世界最貧国、Warm Heart of Africa	相撲、寿司、富士山、島国
		マラウイ	日本																									
	位 置	南半球（アフリカ）	北半球（アジア）																									
	面 積	約 12 万km ²	約 38 万km ²																									
人口（千人）	18,629 世界第 63 位（2019 年）	126,860 世界第 11 位（2019 年）																										
主な宗教	キリスト教	仏教など																										
主な産業	農業（タバコ）	工業																										
主 食	トウモロコシ（ンシマ）	米（ごはん）																										
GDP（百万 US \$）	7,663 世界第 149 位（2019 年）	5,079,916 世界第 3 位（2019 年）																										
その他の特徴（なんでも）	マラウイ湖、世界最貧国、Warm Heart of Africa	相撲、寿司、富士山、島国																										

目安時間	活動内容
40 分	(フォトランゲージの進め方) 手順1 個人で写真をよく見る時間をとる ・ ワークシート①に自分の気づきをメモする。 答えを当てるのが目的ではありません。どんな意見も出せる雰囲気づくりをしましょう。同じ写真を見ていても10人いたら10通りの捉え方があるはずです。 手順2 グループで気づきを共有する ・ 写真の余白に気づきを書き込む。 ・ ワークシート①にグループの気づきを書き足す。 写真を紙に貼って余白に書き込ませても、1人1台端末を活用してもいいですね！ 手順3 全体で気づきを共有する ・ 他のグループの発表を聞いて気付いたことを ワークシート①に書く。 出てきた意見は、なるべくそのまま受け入れましょう。また、なぜそう考えたのか、理由が大事です。 手順4 事実について確認しながら間違いの背景について考える ・ 資料③についている写真についての解説をもとに事実を知る。 答え合わせが目的ではありません。なぜそう考えてしまったのか、自分の「偏見」や「固定観念」に気付くきっかけになります。 手順5 振り返りをする ・ フォトランゲージ全体を通じて考えたことを発表する。 教師が用意した結論に誘導しすぎないように、あくまで児童生徒から出てきた意見を尊重しましょう。
5 分	開発途上国の生活は厳しい 【チェック】幸福度チェックをしてみよう（1回目）★補足③ ・ 日本に住む自分の幸福度を0～10の10段階で選ぶ。 ・ マラウイの人たちの幸福度も同様に予想してみる。 ・ その数値を選んだそれぞれの理由も、短い言葉で ワークシート①に書く。 もし自分がマラウイに住んでいたら、と想像してみましょ。 幸福度がどのくらいか挙手形式で確認してみると、友達との感じ方の違いに気付けます。Google formsなどの活用もいいですね。

目安時間	活動内容
5 分	【まとめ】授業の感想をワークシート①に書こう (感想例) ・ かわいそう ・ 何とかしてあげたい ・ 自分たちは恵まれている ・ 世界には厳しい生活に耐えている人がいる 貧しいのになぜ笑顔でいられるの？ 【予告】貧しさの中、なぜ笑顔でいられるのだろう？ ・ 次時に使用する資料③「フォトランゲージ写真集（マラウイの笑顔編）」から1枚、笑顔で写っている人の写真を見る。 ・ 笑顔の写真から「笑顔の理由」を考えてみよう、次時への意欲を持つ。 厳しい生活環境なのに、なぜ「笑顔」なのだろう、とその矛盾について考えるきっかけとなる写真を選びましょう。 

【マラウイームチンジ (2018)】



川に洗濯にきた村の人たち。選択に来たついでに川で遊んでいた。マラウイでは洗濯は女性か子供の仕事。井戸から水をくみ洗濯をすることもあるが、洗濯には水をたくさん使うため、川で洗濯した方が水くみの手間を省ける。川は日本のようにしっかり整備されていないので、雨季になるとすぐに氾濫し、道が水没し、子供が学校に通えなくなるという問題も起きている。後ろに見えるのは牛の放牧。

【2時間目】開発途上国の人たちの「笑顔」の理由を考えよう

実施の目的：「笑顔」の写真から、物質的貧困と精神的幸福が共存し得ることに気付く。

生徒の目標：①日本とマラウイには違いだけでなく、共通点もあることに気付く。

②人の幸せには、物質的な幸せだけではなく、精神的な幸せも大きく関わっていることに気付く。【精神的なものと物質的なものとの緊張】

③昔ながらの遊びや仕事には、既製品や機械にはない良さ（人と人とのコミュニケーション、達成感など）があり、それが幸せに関連していることに気付く。【伝統と現代性との緊張】

事前の準備物：フォトランゲージ写真集（マラウイの笑顔編）からグループ数分 **資料③**

国民総幸福量（GNH）の4本柱と9領域についての資料 **資料④**

ワークシート②

目安時間	活動内容
5分	「笑顔」の理由は何だろう？ 【問い】 みんなは、どんな時に「笑顔」になる？ ・おいしいものを食べている時 ・友達と遊んでいる時 ・ゲームを買ってもらった時 ・ほめられた時 ・やりたいことをやっている時 身近な出来事や経験について想起しておく、フォトランゲージの時に、マラウイの人たちの「笑顔の理由」を考える時の参考になります。
30分	開発途上国の人たちの「笑顔」の理由を考えよう 【問い】 この写真の中のマラウイの人たちはなぜ「笑顔」なのかな？ 【問い】 開発途上国のブータンが「幸せの国」と呼ばれていること知ってる？ ・ブータンのGDPランキングは166位（2019年）と低い、国民の大半が「幸せだ」と答えていることを知る。 ・「国民総幸福量（GNH）」という指標が大きく関わっていることを知る。 【知る】 ブータンが作った「国民総幸福量（GNH）」について知ろう 資料④ （感想例） ・GDPよりGNHを重視しているのが驚き。 ・考え方は1つではないんだ。 ・日本やマラウイはどうなんだろう。 国連による「世界幸福度報告（World Happiness Report 2021）」のランキングもありますが、今回の授業での肝である精神的幸福と物質的幸福を対比させながら考えを深めるために、GNH（国民総幸福量）の方が指標としては分かりやすいです。

目安時間	活動内容
30 分	【ワーク】 フォトランゲージをやってみよう（2回目） ・ 資料③『フォトランゲージ写真集（マラウイの笑顔編）』から、グループに1枚ずつ配られた写真を見て、気づきをメモして発表する。 ・ フォトランゲージの進め方は1回目と同じだが、人々の「笑顔の理由」についても考える。 （笑顔の理由） ・ 自然がたくさんあるから。 ・ 笑顔があふれているから。 ・ 家族と一緒に過ごしているから。 ・ 遊びや生活に必要なものを自分で作り出して、達成感を味わっていいから。 （笑顔と矛盾すること） ・ 食事が貧相。 ・ 道路が舗装されていない。 ・ 家がわらや土でできていてすぐこわれそう。 ・ 服を買うお金がないから服がボロボロ。 フォトランゲージのグループは前回と同じでも、メンバーをシャッフルして変えてもOK。メンバー構成を変えると、より多様な視点に触れることができます。 自分と違う意見があっても、共感的態度で聞くように促します。
15 分	考えは変わった？ 【チェック】 幸福度チェックをしてみよう（2回目）★補足③ ・ 1回目から変化があったか、もし変化があったとしたら、その理由も書く。 【深める】 フリートークと全体発表をしよう ・ フリートークでお互いの幸福度とその理由をシェアする。 ・ 全体で数名の生徒が発表する。 「幸せとは何か」を考える次の授業にうまくつなげていきましょう。 【まとめ】 授業の感想をワークシート②に書こう

【3時間目】開発途上国の人たちは「幸せ」なのだろうか

実施の目的：友達との意見交流を通して「幸せ」の価値観について考えを深めることができる。

生徒の目標：①人の幸せには、物質的な幸せだけではなく、精神的な幸せも大きく関わっていることに気付く。【精神的なものと物質的なものとの緊張】

②昔ながらの遊びや仕事には、既製品や機械にはない良さ（人と人とのコミュニケーション、達成感など）があり、それが幸せに関連していることに気付く。【伝統と現代性との緊張】

③「幸せ」の価値観について考えを深めることができる。

事前の準備物：幸福度チェック 1 回目と 2 回目それぞれのクラス平均

ワークシート③

目安時間	活動内容
5 分	なぜ、みんなの幸福度が変わったの？ 【知る】幸福度チェックでクラス平均値の変化はあった？ ・ 1 回目と 2 回目の幸福度のクラスの平均値の変化を知る。 【問い】なんでみんなが考える幸福度の数値が変わったのかな？ (発言例) ・ 物があるだけでは幸せかどうかわからない。 ・ 幸せを感じる幅が広がった。
20 分	マラウイの人たちは「幸せ」なのだろうか？ 【問い】世界最貧国に住むマラウイの人たちは「幸せ」なのだろうか？ 【ワーク】マラウイの人たちは「幸せ」なのかどうか想像して、 ワークシート③に自分の考えを書こう (記入例) ・ 笑顔・家族・友達・心のゆとり、があるから幸せだと思う。 ・ 物質的（経済的）な幸せだけではなく、精神的な幸せがある。 ・ お金があるだけでは幸せかどうかはわからない。 ・ 笑顔もあるが、やはりそれ以上に厳しい生活だから、幸せではない。 【深める】みんなの意見をシェアし合おう ・ 記入したワークシートを手に、フリートークで意見交流する。

目安時間	活動内容
25 分	自分なりの「幸せ」の定義は？ 【まとめ】「幸せ」について考えたことを、ワークシート③にまとめよう。 ・これまでの授業で考えたことを、まとめて書く。 (記入例) ・自分たちが話し合った幸せの観点は、GNH の概念と似ている。・・・ ・「幸せ」の視野を広げることができた。・・・ 抽象的で分かりづらい場合には、「何があると幸せを感じる？」などの補助発問をしましょう 【深める】「幸せ」について考えたことを、みんなにシェアしよう ・ワークシートに書いたことを発表する。 ※グループでの意見交流→全体発表 ※もしくはフリートークでもよい。 正解はありません。自分なりにまとめられたら、オープンエンドで OK。 【振り返る】 ・ワークシート内【自己評価】のアンケートを記入する。 教師にとっては、これが授業評価にもなります。

＜ 補 足 ＞

★補足①

『フォトランゲージ写真集（マラウイの貧困編・笑顔編）』について

- ・STEP1 では【貧困編】、STEP2 では【笑顔編】から写真を選んでフォトランゲージを行う構成です。物質的貧困と精神的幸福が共存し得ることに、改めて気付くことをねらっています。最終的には、STEP3 の「幸せ」とは何かを深く考えることにつなげていきます。
- ・説明（青枠）とコメント例（オレンジ枠）は教師の参考用です。生徒には写真のみ配ります。
- ・説明（青枠）は、フォトランゲージ終了後、事実の確認時に生徒に配ってもかまいません。

【貧困編】【笑顔編】それぞれ 12 種類の写真が用意されています。その中から、グループ数分を選んで使ってみてください。

【国名—県名（撮影年）】の下に、写真の説明が書いてあります。フォトランゲージの気付きへフォローするとき、事実の確認をするときに参考となる情報を載せています。



【マラウイ—ドーフ（2018）】
農村のわらとレンガと瓦で作った家。子どもが小さな子どもを背負っている。はだしの子どもも多い。自然食で、電気や水道はなく、かなり原始的な生活をしている。このような村では、肉を食べることはほとんどなく、トウモロコシで作った主食のンシマと野菜を中心とした食事である。タンパク質は大豆からとっている。わらの屋根にビニールが見えるが、どこかで手に入れたビニールを雨漏り対策でかかっている。車で村の近くまで行くと、車を見るのがほとんどなかったのか、村の子供たちが群がってきた。

フォトランゲージでのコメント例
・外に物が少ない（バケツと蓋がない）
・家の壁が泥やワラでできている
・屋根がワラでできている
・日本の昭和時代の家みたい
・ほとんどの方がはだし
・石が散らばっている
・屋根にプラスチックがのっている
・壁が汚れている
・子供が小さい子供をおん抱えている
・はだし

フォトランゲージで想定される気付きコメントの例です。フォトランゲージ中の生徒への声かけに役立ててください。

★補足②

「フォトランゲージ」について ※詳細はこちらから→

開発教育協会 DEAR ホームページ

<http://www.dear.or.jp/activity/1730/>

※ 25 ページ参照



★補足③

「幸福度チェック」について

- ・ 0～10の10段階とします。次のように目安を示すと、答えやすくなります。

数値の目安「全く幸せがない」： 0
「真ん中くらい」： 5
「幸せがいっぱい」： 10

- ・ あまり深く考えずに、直感で答えるように声をかけましょう。
- ・ Google forms のアンケート機能などを活用すると、集計の手間なくクラスの平均や傾向をリアルタイムで示すことができます。

STEP 4：国の際理解

国の際（くにのきわ）に住む人々や想像力を働かせ、自身の偏見や差別に向き合い、多文化共生社会の一員としてできることを考える。

国の際理解

【STEP 4】国と国の際にある文化を知ろう

実施の目的：国の際（くにのきわ）に住む人々や想像力を働かせ、自身の偏見や差別に向き合い、多文化共生社会の一員としてできることを考える。

生徒の目標：国の際にある文化に気づき、多文化共生を考えるきっかけとする

事前の準備物：公民の教科書、地図帳、A3の白紙、ワークシート

目安時間	内容
5分	“日本”って国際的…？ 【問い】日本って国際的だと思いますか？ その理由も教えてください。 ワークシートに記入してみる あくまでアンケート 答えは直感的でOKです 悲観的な答えがでてきても、 良い意味で次のワークにつなげましょう
45分	世界の中の日本って…？ 【ワーク】日本地図とその周辺の国を描いてみよう 1) 日本地図を描く、地図帳で確認をする 2) その周辺に世界地図を描く、地図帳で確認をする 3) 日本と周辺国との国境に線を引く、地図帳で確認をする 【問い】日本は何か国と国境を接していますか？ 【問い】日本は国“際”的だと思いますか？ ワークシートに記入をする 日本の中の世界って…？ 【問い】“日本”の定義って何だと思いますか？ 【ワーク】公民の教科書で、領域（領土、領海、領空）、国民、主権を確認しよう 【問い】国の国との際（境）にある文化ってどんな文化がありますか？国境以外のところにもありますか？ 【知る】国と国の際（境）にある日本（国際日本）を調べる。教員が1例をあげて紹介する EX) 琉球文化、アイヌ、小笠原、在日韓国朝鮮、南米移民、日系人、中華街 【問い】みなさんが考える日本的って何ですか？国際的って何ですか？



日本って国際的だと思いますか？その理由も教えてください。



日本地図を正確に描いてみてください



そのまわりに世界地図を描いてみてください



STEP 5：自分プレゼン

クラスの中で「他者の知らなかった自分」を表すプレゼンをする。Step 1～Step 4 までの内容を振り返り、自分が持つ偏った他者への視点。その視点は隣の席の友人にも向けていることに気がつくきっかけとする。

学びの構成

最上位目標 *この単元で児童・生徒のどのような成長を支えるのか

1) 無知の知（他者へ無意識の偏見を持つ自分に気づく）

多文化共生社会実現のため、他者を知ること、自分が他者に向ける視線に気づく。
それにより、自分の見方の偏りや人の多面性を意識する。

2) 自己理解

自分を知り、理解しようとする姿勢を身につける。
他者理解のためにまず自分を知る。

3) 自他の尊重（はじめの一步）

自分の意志の認識や自己を大切にすることを学ぶ。自分の一部が他者に受け入れられる経験、他者を受け入れる経験をする。

学びの流れ *各時間の指導案のタイトルと内容を、読み手に伝えるようにまとめます

1 時間目：自分を知る

今の自分、何が今の自分を作ってきたのかを見直す。ワークシートを使って自分史を書き、自分が好きなことや大切にしていることの源泉、それにひもづく理由を探る。
プロジェクト立ち上げられるようにジブンゴト化しやすい工夫をしています。

**2 時間目：自分プレゼンのリハーサル**

ワークシートを使って、簡単に小グループで発表。お互いにフィードバックもする。

**3 時間目：実演見学**

教員の自分プレゼンを見る。フィードバックの練習と、自分プレゼンのイメージ作りをする。

**4 時間目：いざ自分プレゼン！**

ひとり5～10分で自分プレゼンテーションを行う。お互い発表に対するフィードバックも行う。

【1 時間目】 自分を知る

実施の目的：今までの自分を振り返り、客観的に自分を知る。伝え、表現するための第 1 歩は「何を」伝えるかを知ること。

生徒の目標：自分を振り返り、整理する。

目安時間	内容
5 分	君はどんな人？ 【問い】 あなたはどんな人ですか？ (例) 性格、所属、住んでいるところ .. など 少し考えさせてみる。 【問い】 先生はどんな人に見えますか？ (例) 怖い、背が小さい / 高い、面白い、ギターが上手い... など その場で答えて見る。 ・ 意外と自分のことも、先生のこと知らない、ということを実感する。 君の良いところ、隣の人の良いところ 【ワーク】 あなたの良いところは何ですか？ ・ 自分の良いところを考えて、ワークシートに書いてもらう。 ・ 隣の友人にも聞いて、良いところを見つけ合うペアワークをする。 ・ 目安は 5 個。
15 分	で、今回は何をやるの？ 【説明】 自分プレゼンとは何か 今回行う自分プレゼン＜補足 1＞の目的、説明、流れを説明する。
20 分	自分を振り返る 【ワーク】 ワークシート ・ ワークシート（資料 1）を配り、取り組む。 ・ 教員はファシリテーターとしてクラスを回る。 ・ 自分についてより多面的に知るために、なるべく埋めるように伝えるが、無理に全ての項目を埋める必要はない。 【宿題】 ワークシート ・ ワークシート（資料 1）の記述が宿題。 ・ 次回ワークシートの内容について、小グループで発表。

補足 1

自分プレゼンテーション概要

●実施の目的

自分のことを人に伝え、自己を開示し合い、他者の多面性を知る。友人の開示に対してフィードバックをすることで、自分が他者のどのような部分を見て、何を見ていないのかを自覚する。また、開示に対するフィードバックを受け取ることで、自分が受け入れられる経験をする。

「隣に座っている友達のことって意外と知らない。
『知らないままである』ことが偏見や差別につながる可能性がある。
だからこそ、他者について知ることが重要だ。
そして、他者について知るためにまず自分を知ってみよう。
自分を知るからこそ他者を知ることができる。
そして、今回のプレゼンを通してクラスの皆のことも知ってみよう。

●生徒の目標

自分の心をいつもより少しだけ開く経験をする。実は級友の知らない部分があることを自覚し、知り、受け入れる。

●方法

テーマを1つ選んで、プレゼンテーションをする。プレゼンテーションの方法は自由。写真、演奏、演技、スポーツの技、スピーチ、作文、動画など手段を問わない。どのテーマを選んでも良いが、ただそのテーマについて説明するのではなく、

「なぜ」「どのような経緯で」「その経緯の中で思ったこと」「そのテーマは自分にとって何か」など、自分の頭の中を表現しようとしてみる。

テーマ：自分の強さや弱さ、得意なこと苦手なこと、好きなこと嫌いなこと、自分が大切にしたいこと、実は私～なんです。、今までワクワクした瞬間

クラスの前で話すことに負担を感じる場合は、文章や写真を先生に提出するなど、柔軟に対応する。あくまでも、自分について考え少しでも心を開くこと、クラスメイトの話を聞いて、今まで知らなかったことを知ることが大事。

●フィードバック

発表者にはクラスメイトから発表に対するフィードバックをもらう。質問項目 1 の部分は、発表者にまとめて渡すようにする。

資料 1 にある①バイオグラフィ、②私らしさが表れているエピソード、③私らしさが表れていると思う写真、④今のあなた、⑤今→未来のあなた、に取り組んで自分プレゼンの準備をしよう！

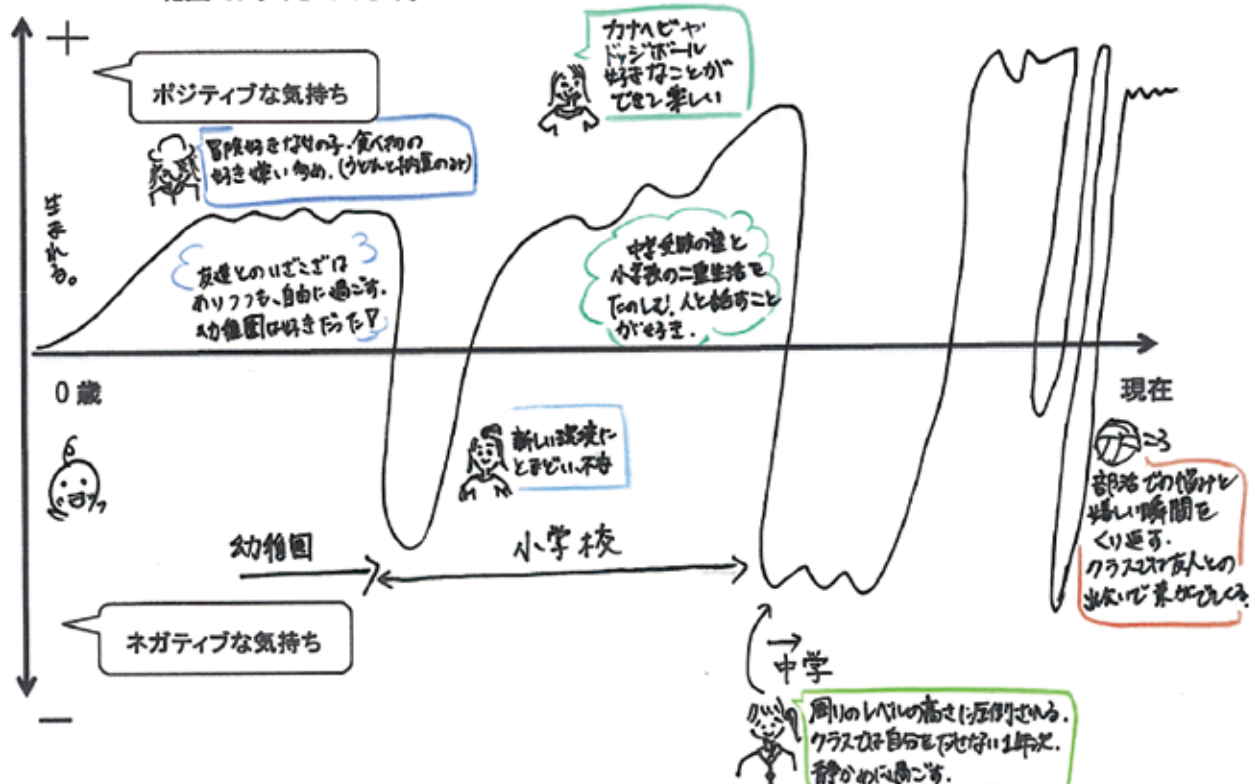
たとえば、「④今のあなた」について、下の文を埋めて見ましょう。いろんなパターンを考えてください。

1. 私は〜〜が好きだ。なぜなら…………
2. 私は〜〜が嫌いだ。なぜなら…………
3. 私は〜〜を大切にしたい。なぜなら…………

①バイオグラフィの例

①バイオグラフィ

生まれた時から今までのバイオグラフィを書いてみよう。楽しかった時期、辛かった時期、両方を行き来した時期、それぞれの時期にどんなことがあったか、書ける範囲でトライしてみよう。



【2時間目】プレ自分プレゼンの見学と実践

実施の目的：自分を伝え、表現する、それが受け入れられる経験をして、自分プレゼンのハードルを下げる。

生徒の目標：少しでも自分を伝える体験をする。

準備するもの：ワークシート・授業者記述のワークシート・付箋

イメージをしやすくして、
心理的なハードルを下げる。

目安時間	内容
20 分	「自分を伝える」を考える 【説明】 教師のプレ自分プレゼン ・授業者が埋めたワークシートを使って発表する。 【ワーク】 自分をどう伝える？ ・ワークシート＜資料1＞を使って、どの部分をどのように発表するかを考える時間を取る。 先生のプレゼンが型の一つに。 <使い方> ・ワークシートに書いた項目を全て使う必要はなく、使う項目を一つでも複数でも好きに選んで良い。 ・ワークシートの項目を説明する内容でも良いし、ワークシートの項目を材料にして自分を説明してみても良い。
30 分	プレ自分プレゼン 【ワーク】 プレ自分プレゼン ・ワークシートをもとに4～5人のグループで発表。 (クラスの規模や時間で調節) ・お互いのワークシートに付箋でそれぞれフィードバックをする 自分が人に出してもいいかなと思える 部分だけで良い。

3時間目：実践見学

実施の目的：自分プレゼンの方法や内容についてイメージを作り、発表の心理的ハードルを下げる。

生徒の目標：自分プレゼンに向けて、構想を考える。

目安時間	内容
10分	自分プレゼンの例を見てみよう 【説明】先生のプレゼンを見てみよう ・先生が自分プレゼンを実践
10分	【ワーク】フィードバックしよう ・フィードバックシート（資料2）をもとにフィードバック ・先生はフィードバックシートを集める。 フィードバックする時には、相手をまず受け入れてみることを注意する。わからないこと / 理解できないことはそれでいいが、多少なりとも勇気を出して伝えてくれていることなのでわざと傷つけることは書かないように、伝える。
30分	では、どう発表する？ 【ワーク】自分プレゼンを考える ・ワークシート（資料1）を参考にしつつ、どんな形態で、どのテーマについて発表するか考える。 【宿題】 終わらない部分については、次の授業までの宿題にする。

4時間目：いざ、自分プレゼン！

実施の目的：理解した「自分」をクラスメイトに伝え、発表を聞いてクラスメイトを知る。

生徒の目標：クラスメイトの発表を聞き、自分を少しでもいいから開く。

目安時間	内容
柔軟に対応	ついに！自分プレゼンの時間 【ワーク】自分プレゼン ・自分プレゼンを一人ずつしていく ・一人10分以内 ・なるべくクラス全体で行う。 【ワーク】フィードバック ・それぞれに対してフィードバックする ・フィードバックは先生が回収し、項目1の部分だけ発表者本人に渡す。 【宿題】 ・A6～A7程度の小さな紙（資料3）に授業全体のフィードバックを書いてもらう。 ・生徒の負担になりにくいよう、分量は少なくても良い。

地域解決レンジャー

持続可能な世界を学び、行動を起こし、世界をよりよく変えていく、行動者を育てるために。
生徒にとって一番身近な地域の課題をテーマに SDGs を考える。

目指す生徒の姿 ジブンゴト化できる人

予測不可な時代、複雑に絡み合った問題を、自分の事として何が出来るか考え、行動できる

これからの
世界では
必須の力！



他人事として考える人

- ○○のせいだ / ○○が悪い
- 自分には無理 / ○○の責任
- ○○が何とかしてくれる



ジブンゴト化できる人

- ✓ なんとかしたい！
- ✓ ジブンにできることは？
- ✓ どう貢献できるだろう！

？

課題を
見つけたとき

指導ポイント



何かを変えられると
いう実感を持つために
身の回りの出来事を
ジブンゴト化する。



ジブンゴト化のための
メガネ（モノの見方）
として SDGs を活用
する



行動者となるために、
問題の把握のみならず
アクションプランを
立案する。

アプローチ



1 SDGs という
道具を知ろう



2 身の回りの
SDGs に関する
ものを見つけよう



3 地域の課題を
見つけよう



4 地域の課題を
分析しよう



5 プロジェクトを
考えよう

2班 作成者の言葉



栢之間 倫太郎 新渡戸文化小学校

JICAに関わるようになって学んだのは、教師とは「世界の創り手」であるということ。この本は、生徒と共により良い世界をつくろうとした教師たちの記録です。あなたの世界をつくるヒントが見つけられますように。

須賀 与恵 川口市立小谷場中学校

この指導案を手にとった先生方が、目の前の子どもたちの実態に合わせ、カスタマイズしやすいように工夫して作成しました。最後は先生方の「愛」をこめて、「世界にただ一つしかない授業」を創り上げていきましょう。



中村 太郎 湯沢町立湯沢中学校

この指導案で目指したことは、SDGsって「難しいことじゃないんだ」と生徒・教員が実感する機会の提供です。一人で頑張るのではなく、いろんなアイデアを参考にして、持続可能な授業になることを願っています。

長田 のっこ 上智大学教育学科

大学生ながら現役の先生方と本指導案づくりに携われたことは、非常に貴重な経験でした。熱い想いをもった先生方がいれば、世界は変わると思いました。この指導案が「想い」を膨らませるきっかけになれば嬉しいです。



輪湖 みちよ 板橋区立板橋第三中学校

「中学生の力を社会に広めたい!」と思い JICA の研修で学びました。教室と社会がつながる学習活動が生徒・教員・地域社会、いずれは世界を変える力になると信じています。目の前の生徒と一緒に始めてみませんか。

黒川 八重 東京女子学園中学校高等学校

先生のちょっとしたアドバイスや声かけで、生徒たちは自分自身がより良い社会の造り手になれることに気づき、行動者になっていくと JICA 研修を通じて感じています。この指導案が先生方のアドバイスの参考になったら嬉しいです。



指導案に込めた思い

SDGs の認知度が上がり、指導要領にも“持続可能な世界”という言葉が明記された今。どのようにそのような教育を実現しようかと試行錯誤している学校も多いと思います。私たち自身も、JICA の主催する教師海外研修を通し、多くの学びや気づきを得た上で、深く悩みながら日々実践を続けています。

教育界には、国際理解教育、開発教育、ESD など様々な授業手法があり、それぞれに脈々と受け継がれる素晴らしい理念や特徴があります。しかしその手法の目的自体には、互いに非常に近いものがあるのではないかと、私たちは考えています。それは「行動者を育てる」ということです。学んだ上で、行動を起こし、世界をよりよく変えていく。机の上の勉強にとどまらず、社会に触れ、実際に行動することこそが、これからの教育の重要なポイントなのではないでしょうか。

この指導案では、実際に生徒主体でプロジェクトを起こすためのヒントが記されています。テーマは「地域をより良くする」。自分たちに一番身近な“地域”を、SDGs も視点の1つとして活用しながら分析し、プロジェクトを考えます。自分たちの力で地域をより良くできたと感じたとき、生徒の心には大きな変容が起こるはずです。

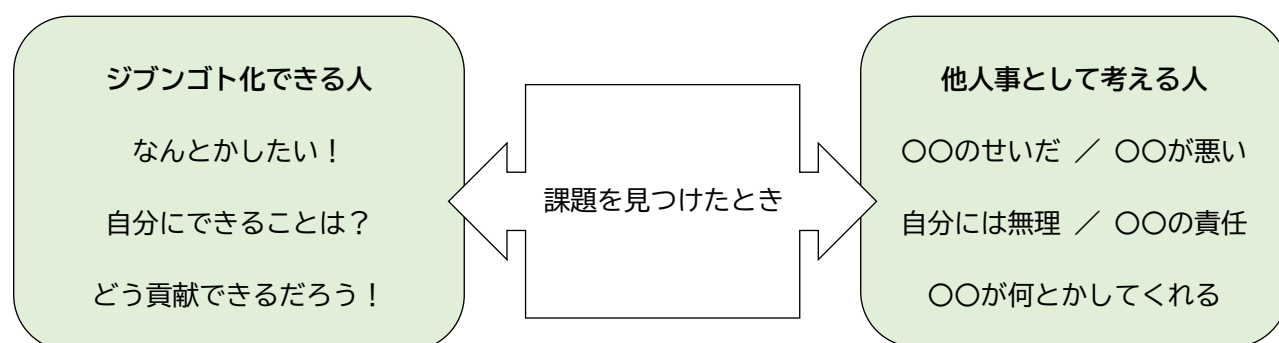
「自分たちが学んだことで、世界が変わった」

そんな気づきを得た生徒たちが、この世界をより良くする行動者となっていくことが、この指導案の最上位目標です。出来る限り再現しやすいような作りを意識して作成しましたので、一人でも多くの方にご活用いただければ幸いです。

ジブンゴト化とは？

ジブンゴト化する力は、これからの世界では必須になると思います。予測不可能な時代と言われる現代では、様々な問題が複雑に絡み合っています。そんな時代に「〇〇のせいだ」というように他人事として問題を捉えてしまえば、最後は自分にしっぺ返しが返ってくるでしょう。

まずは学校や家庭、地域のような身近な存在の課題をジブンゴト化するのが重要なのではないのでしょうか。そしてまずは、生徒に求める前に私たち教師がジブンゴト化を身につけることが重要です。学校に対して感じている不満や不安を、誰かのせいにはせずに、自分は何が出来るかを考え、行動する。私たち自身が行動者となるのが、生徒にとって一番の学びかもしれません。



課題と今後の展望

【第1段階】大枠の完成（現段階）

生徒が地域をより良くするプロジェクトを生み出す流れを、事例とともに指導案化しています。すぐに真似できる汎用性の高さを念頭に起きつつ、実際にやってみるとどのようになるのかがわかるように、写真などで実践事例をのせています。また、今後の幸せな世界の1つの指針であるSDGsを切り口としていることもポイントです。

* 現段階での課題

- ・ すぐに真似できることを理想とした上で、さらに **JICA 教師海外研修 OBOG としてのオリジナリティ**を出していきたい
- ・ 総合的な学習の時間を軸として、地域をより良くするために**教科を手段として学んでいく流れ**をデザインしたい

【第2段階】オリジナリティの追加

この指導案は教師海外研修を経験した教員が、JICA との共同プロジェクトとして作成しているものです。JICA には長年の国際協力の経験によって蓄積された資料や教育メソッドが豊富にあります。この段階では、それらを指導案に追記していき、以下のことを実現していく予定です。

- ① SDGs を切り口に世界や地域の幸せを考えていく段階で、JICA の資料を有効活用していき、より“本物感”をもって生徒がSDGs 的概念に触れられるようにする。
- ② JICA が世界各国の開発援助をしてきたことで蓄積した開発のメソッドを、地域でのプロジェクトを企画・運営していく際に活用できるような形で紹介する。

【第3段階】教科との紐付け

総合的な学習の時間で地域をより良くするプロジェクトを行うと、生徒の中から「知りたいこと」や「調べたいこと」が出てきます。生徒のその意欲を引き出し、様々な教科の単元を調整して配置することで、様々な教科を横断するダイナミックな学びを実現することができます。

この段階では中学校の様々な教科における単元と、総合的な学習の時間の指導案を紐付け、より横断的な指導案に発展させていきます。プロジェクトを進行させる中で、教科的な基礎知識も身につくという、PBL（プロジェクトベースドラーニング）的な進行の仕方を提案していく予定です。

指導案の構成

最上位目標

自分の地域をより良くすることを通して、持続可能な世界をつくる行動者に変容する。

学びの流れ

STEP 1：SDGs という“道具”を知ろう

SDGs という言葉と価値観の導入段階です。

最終的にプロジェクト立ち上げられるように、ジブンゴト化しやすい工夫をしています。



STEP 2：身の回りの SDGs に関するものを見つけよう

身の回りを SDGs の視点で分析する段階です。

発表し合うことで SDGs の理解と、自分たちとの関連の深さに気づいていきます。



STEP 3：地域の課題を見つけよう

実際に地域に出て、魅力や課題を見つけていく段階です。

実際の事例とともに、様々な教科との連携例が紹介してあります。



STEP 4：地域の課題を分析しよう

見つけた課題を分析して、その背景や原因を考える段階です。

システム思考的な考え方も活用していきます。



STEP 5：プロジェクトを考えよう

分析した課題を解決するために、プロジェクトを生み出す段階です。

いくつかの取り組みやすいアクションが紹介してあります。

【STEP 1】SDGs という“道具”を知ろう

実施の目的：SDGs の概念を伝え、生徒にとって身近な目標とする。

生徒の目標：幸せな世界について他者とともに考えを深めることができる。

SDGs の概念を理解し、自分たちにも何かできそうだと感じることができる。

* 事前準備：2色の付箋、模造紙、掲示用の SDGs

所要時間	活動内容
5 分	“幸せ”って何だろう…？ 【問い】 今、あなたは幸せですか？ (例) ○%という形で手を挙げてみる、数直線上に表してみる 【問い】 今この街は幸せですか？ 【問い】 今この世界は幸せですか？ あくまでアンケート 答えは直感的で OK です 悲観的な答えがでてきてしまっても、 良い意味で次のワークにつなげましょう
45 分	幸せな世界ってどんな世界…？ 【ワーク】 幸せな世界を考えよう ・ブレーストーミング 幸せな世界を「○○がある世界」「○○がない世界」という形で付箋に書く ・マインドマップ 個人で書いたものをチームでもちより、 模造紙に貼っていく “世界中の全員にとっての幸せ”と 前置きをして、条件を整えます チームで発表するのも いいかもしれません！ 【知る】 世界にある様々な課題 ・ JICA 地球ひろば HP「世界の課題を考える写真」の写真を見て、 世界に存在するいくつかの課題を知る。 (https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/material/practice.html)  写真を見せたら、それに関連しそうな“幸せの要素” が自分たちの付箋にあるか聞き、写真を自分たちの 考えに引き寄せてみましょう。 

所要時間	活動内容
40 分	世界の共通言語 “SDGs” 【知る】 国連がリストアップした “SDGs” という目標がある ・ 国連が何年もかけて世界中の “ 幸せ ” を取りまとめた SDGs の存在を知る ・ Sustainable Development (持続可能な発展) の意味を知る ・ 国連の動画「Home」を見る (https://www.youtube.com/watch?v=8eJD0BuNN1Y)  SDGs が国連で発表される際に流された動画です。 非常にスタイリッシュなので、印象に残ります。 【ワーク】 どんな目標だろう？ ・ 順に掲示される SDGs のイラストの内容を、イラストから予想する → 自分たちのマインドマップからも考えてみる  【ワーク】 自分たちの幸せも当てはまる？ ・ 自分たちのチームのマインドマップにある付箋を、関連しそうな SDGs の近くに貼っていく ・ 当てはまらない付箋 → まとめておく ・ 多いところや少ないところ → なぜそうなったのかを考えてみる 付箋の少ないところは ジブンゴト化しにくい 目標とも言えます
10 分	結局 SDGs って何なのだろう 【問い】 どうして自分たちの考えた “ 幸せ ” と SDGs は似ているのだろう？ (例) SDGs は、国連が自分たちと同じように、世界中の人々と共に「幸せとは？」を考えてつくったもの → 偉いものでも凄いものでもなく、当たり前目標だから自分たちの意見ともとても似ている 付箋が多くに貼られて いることを強調します 【問い】 どうして SDGs に当てはまらない “ 幸せ ” も出てくるのだろう？ (例) SDGs は 70 億人のグローバルゴール (共通目標) → 当てはまらない目標もあり、決して完璧ではない これをもとに、18 個目の目標をつくる ワークにつなげることもできます 【問い】 自分が一番「気になる」ゴールはどれだろう？

【STEP 2】身の回りの SDGs に関するものを見つけよう

実施の目的

- ① SDGs って「そんな難しいことじゃないんだ」と生徒・教員が実感する機会を提供する。
- ② 身の回りには SDGs に関係することがたくさんあることを知り、アンテナを高くする。

生徒の目標

- ① SDGs に関する必要な情報を取捨選択し、パワーポイントを作成できる。
- ② SDGs のそれぞれの目標を理解し、わかりやすく人に伝えることができる。
- ③ 友達の発表を聞き、SDGs についての理解を深めることができる。

* 事前準備：SDGs について基礎知識を身につけておく

資料①～資料④を印刷しておく（STEP2 の最後に掲載）

<第1段階>

活動内容
世界の課題を考える あくまで導入 答えは直感的で OK です 【問い】 1 日いくらあったら生活できますか？ →日本の 2 人以上世帯平均額は 1 か月約 31.5 万円 1 人あたり 1 日 5,000 円程度 【問い】 1 日 1.9 ドル（約 210 円）で暮らす人は世界でどれくらいいるでしょう？ →「約 7 億 6000 万人」（子ども：3 億 8000 万人） 【問い】 その日食べるものがない、明日以降も食べるものに不安を抱えている人（飢餓状態）の人数は？ →「約 8 億 2000 万人」 【問い】（賞味・消費期限の過ぎた食品や給食の残菜の画像を提示する）みんなならこの食べ物、どうしますか？ →「捨てる？」 【問い】 世界では 1 年でどれくらいの食料が捨てられているでしょう？」 →「17 億トン」 ※世界で生産される食料の 3 分の 1 にあたる 【問い】 食料生産などの目的による人間の開発によって、1 年間でどれくらいの森林が失われているでしょう？ →「約 330 万ヘクタール（1 分間に東京ドーム 1.3 個＝教室約 800 個）」 導入として“SDGs に関する世界の課題を実感させたいので、問いから 2～3 個選んで使用してもいいかもしれません。

活動内容

この世界は持続可能…？

【問い】 このままの調子で暮らしていくと地球の 10 年後・20 年後、50 年後はどうなっていると思いますか？

(例) 「地球に住み続けることができなくなる」「限界を迎える」「絶滅してしまう」
「取り残される人が出てくる」「格差が広がってしまう」 など

持続可能ではない！タイムリミットが近づいている！
という感覚を押し付けがましくなく理解させるために、
前回自分たちが考えた“幸せ”を思い出すのも効果的です。

“SDGs” の内容説明（確認）

【問い】 様々な格差や地球環境の課題をそのままにして、誰もが「幸せ」になれる世の中は実現できるのだろうか？

→ 「そこで発表されたのがこの SDGs です！」 「どんな内容か覚えていますか？」



SDGs は民主主義の結果・矛盾の産物。
物質的な進歩主義は経済成長と
公平のバランスを保てなかった！

解説を多くしすぎると、逆効果になることもあります。
実際に調べたり行動したりしながら学ぶことをおすすめします

(参考資料)

- ・資料① 【SDGs とはなんだろう？】
- ・追加資料 【私たちがつくる持続可能な世界～ SDGs をナビにして～】
ユニセフ (<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/dl/SDGs.pdf>)



めあてを知る

SDGs のゴールを一つ選び、プレゼンをつくることを通して…

【目標】

- ①調べて、つくる（必要な情報を取捨選択し、パワーポイントを作成できる。）
- ②伝える（SDGs の目標を理解し、わかりやすく人に伝えることができる。）
- ③深める（友達の発表を聞き、SDGs についての理解を深めることができる。）

SDGs を調査しよう！

【ワーク】SDGs のプレゼン資料を作成しよう！

- ①自分が調べる目標を 17 の目標から選ぶ
- ②目標の説明（世界や日本の問題を例に）
- ③目標に取り組んでいる企業・団体・市町村
- ④自分たちにできること

2 コマ以上は必要です

偏りを教師が目標をそれぞれ均等に振り分けることも可能ですが、興味を優先することも重要です。

（参考資料）

- ・日本ユニセフ協会 SDGs CULB (<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>)
- ・佐藤真久『未来の授業 私たちの SDGs 探究 BOOK』 宣伝会議、2021 年
- ・佐藤真久『未来の授業 SDGs ライフキャリア BOOK』 宣伝会議、2019 年



発表して、みんなに伝えよう！

【発表】

資料②【発表態度について】に注意して、みんなに発表する

発表は 17 の目標すべて聞くことが理想ですが、時間や人数に応じて発表の形式を工夫する必要があります。



すべての目標がつながっている

【発表】プレゼンを聞いての感想を発表する

事前に発表内容に、「その他の SDGs とのつながり」などの項目をいれておくのもおすすめです

【問い】「17 の目標」を聞いて気付いたことがありますか？

- 17 の目標はそれぞれ内容が異なっているように見えるが、そうではない。
- ・ほかの目標と共通する課題をもつものもあり、互いに関わり合っている。
- ・自分のアクションである課題を解決すると、いくつもの課題の解決につながる可能性も

<第2段階>

活動内容

事前課題「身近な SDGs を見つけてこよう」

【課題】 資料③、資料④をもとに「身の回りの SDGs に関する“画像”」を用意する

持ち帰り可能なタブレットで撮影するとその作業がスムーズに進みます

実際につくってみよう！

【作成】それぞれの「身近な SDGs」をつくろう

資料③の例を参考に Word 等の文章作成ソフトを使用し、作成する

画像を用意できなかった生徒には引用のルールを伝える

*生徒が事前に理解しておきたいこと

- ①画像の挿入にやり方
- ② SDGs の 17 の目標のロゴマークの保存→貼り付け

掲示して鑑賞しよう！

【掲示・鑑賞】

- ・完成した生徒から掲示していく
- ・互いの作品を見合い、視点を広げていく

“いいね！”マークなどを貼れるようなスペースがあってもいいです！



*作成した資料はできるだけ多くの人（生徒・先生・保護者・来校者など）の目に触れてほしいため、多くの方が見られるような場所がおすすめです。

SDGs って「そんな難しいことじゃないんだ」

【問い】身近な SDGs を探してみてもうでしたか？

- ・ SDGs の視点で探してみるとたくさんのモノが見つかった。
- ・ 最初は難しい感じがしたけど、身の回りにはあふれていることが分かった。
- ・ ひとつの目標だけでなく、様々な目標がつながっていることが分かった。

【問い】今回の授業で①～③の目標のどれか一つでもいいので感じられたか

- ① SDGs って「そんな難しいことじゃないんだ」と実感できた
- ②身の回りには SDGs に関係することがたくさんあることを理解できた
- ③これから SDGs に対するアンテナを高くできそうか

どんな形式でもいいので、各自がふり返ることが出来るようにまとめをするのがおすすめです。

* STEP2 で使用されている資料①～資料④は【資料コーナー】に掲載してあります。
必要に応じてご活用ください。

< 補 足 >

★ JICA 授業実践 学習指導案 プロジェクト型授業案の紹介

「世界の未来と日本の役割」 岡留 真吾 先生

https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/case/jhqv8b0000035b0h-att/society_03.pdf



「世界に学ぶ ～届け幸せのメッセージ～」 野々山 尚志 先生

https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/case/jhqv8b0000035b0h-att/overall_03.pdf



※ STEP2 導入「世界の課題を考える」の場面で、岡留先生や野々山先生が実践した『ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら < 第 6 版 >』（2020、開発教育協会）を参考にしてみてください。

【STEP 3】地域の課題を見つけよう

実施の目的：SDGs の視点で身近な地域をとらえ、現地調査等を通して自分との関わりや多様性に気付く

生徒の目標：SDGs の視点で地域の魅力や課題をとらえ、表現することができる

* 事前準備：身近な地域の地図やガイドマップ、ふせん（小・中） ★補足 1

所要時間	活動内容（1 / 2）
15 分	“身近な地域の魅力”は何だろう？ 【問い】 ○○（身近な地域）の魅力といえば？ （板書）イメージマップを書いていく 【ワーク】 地域の魅力を地図に書き込む ★補足 2 ・地図で通学路や良く行く場所・お気に入りの場所を見つける ・ふせん（中）に好きな理由や場所の説明を書き、地図に貼る 例）川沿いの桜並木に癒される  生徒の興味・関心が第一です。 好きな・よく行く場所など助言を しながら、書いていきましょう。
15 分	身近な地域の魅力と SDGs の関わりは？ 【問い】 お気に入りの場所はどの SDGs と関わっている？ ・個人が書いた地図をグループで発表する （発表を聞きながら） ・関係すると思った SDGs の番号をふせん（小）に書く （発表が終わったら） ・感想を伝えながら、友達の地図にふせん（小）を貼っていく 川沿いの並木に癒される 商店街に大勢の人が来ている 6 番、14 番 11 番、12 番  地域の魅力を SDGs の 視点でとらえなおします

所要時間	活動内容（1 / 2）
20 分	野外調査やインタビューで何を見たい・聞きたい？ 【考える】 野外調査やインタビューでもっと知りたい地域の魅力 ・ 地図を見ながら、野外調査で見たい場所・経路やインタビューしたい人・ことを考える 例) 「いつもお惣菜を買うお店はいつからあるのかな？」 「なぜ、たくさんのお総菜屋さんがあるのにどのお店も混んでいるの？」 「売れ残りを出さないようにどのような工夫をしているの？」 ・ 書き終わった人から地図を黒板に貼っていく

★補足3

所要時間	活動内容（2 / 2）
50 分	“身近な地域の魅力”を調査しよう！ 生徒の興味関心を大切に、生徒が主体的に調査できるような働きかけを意識しましょう 【紹介】 講師紹介 ・ 講師紹介後、グループごとに野外調査やインタビューを行う ★補足4 【調査】 講師との野外調査やインタビューを通じて地域の特色を再発見する ・ 1 時に作成した地図を活用する ・ 写真撮影やインタビュー記録を行う ★補足5 例) 「川沿いの遊歩道・堤防は洪水から私たちを守ってくれている」 「地震の時、高速道路はどうなるの？」 「観光客の人を呼ぶ工夫もしているけど、文化のちがいやマナーの問題もある」 「町内会の行事は若い人が少なくなって大変」    【振り返る】 野外調査やインタビューを通して気付いたこと ・ 講師の方にお礼と感想を伝える ★補足6 専門家や地元の方に話を聞くことで、気付いた地域の特色を STEP 4 で分析し、地域の課題解決へとつなげていきましょう

< 補 足 >

★補足1 地域の地図について

地域の NPO が作成した地図や先輩たちの作品を見本として紹介すると完成イメージがもちやすくなります。見通しをもつことができると学習への意欲にもつながります。

図 すみだの SDGs マップ
(2018 墨田の魅力ほりおこし隊)



★補足2/3 教科等の学習と関連付けて行う例

< 1 時間目の前に >

社会科：身近な地域の調査（休業中の課題として写真を撮影してくるなど）

特別活動：通学路の安全調査（ハザードマップの読み取り）

< 1 時間目と2 時間目の間に >

国語科：「話す・聞く」インタビューをしよう 社会科：身近な地域の調査

英語科：「話す」外国の方への質問 特別な教科道徳：地域社会の一員として

< 2 時間目以降に >

国語科：「書く」キャッチコピーを考えよう 美術科：わかりやすく伝える「ピクトグラム」

社会科：身近な地域の調査まとめ、日本の地域的特色、地方自治「地域課題の解決に向けて」

JICA の「出前講座」を使って途上国の地域と比較してみても面白いかもしれません



他地域の学校と交流することで、
地域の特徴をより広く、深く知る、
考えることにつながります

★補足4【例】生徒の興味・関心や疑問からのテーマと講師（インタビュー先）→生徒の気付き

- ・商店街（商店街会長）→地元の人のコミュニケーションの場、イベントの実施、大型店舗との共存・競争、高齢者の増加、防災訓練等
- ・外国人観光客（観光協会職員）→SNSの活用、情報発信、外国語で書かれた看板、災害時の対応、文化の違い（マナー・ルール等）
- ・企業（広報担当者）→地域の一員としての役割、ものづくりを通じた環境保全、原材料の輸入、外国製品との競争、労働力不足
- ・交通網（駅職員）→通勤・通学の安全を守る取組、バリアフリー、LGBTQ
- ・桜並木、川（都市計画課職員・町会長）→地域の憩いの場、昔は水遊び、過去の氾濫、防災
→環境を守る取組
- ・神社（神主）→歴史、祭礼の役割、地域の変化
- ・地場産業（農産物直売所や工場で働く方）→地域で働く人の工夫や努力、外国人労働者
→障がい者の雇用
- ・世界遺産・日本遺産（観光協会職員・郷土史家・伝統工芸に携わる方）
→歴史を受け継いできた人々の思いや受け継ぐ取組、後継者不足

あくまでも例です。生徒の興味・関心を第一に、地域の実態に応じた講師に協力を依頼します。管理職からPTA役員や町会に問い合わせてもらったり、自治体に依頼したりすることができます

★補足5

実際に地域に出て地域の人からお話を聞くと、今まで見えてこなかった新しい発見があります。

魅力を再発見するのはもちろん、地域の課題も見えてくるでしょう。教師が答えを用意してしまうのではなく、生徒たち自身が自分たちの興味や関心に沿って主体的に調査できるようにすると、生徒たちが「ワクワク」しながら地域を「探検」できるかもしれません。

★補足6 講師との継続的な関わり

STEP4「課題の分析」の際にも助言をもらったり、STEP5「プロジェクト」の際に一緒に活動したり、発表会に招いたりすることで継続して学習活動に関わってもらいと、「社会に開かれた教育課程」を実現する第一歩につながります。



○参考資料

田村学・佐藤真久 監修

「探究×SDGs“地域の課題”解決のコツ～新聞記事を活用して“地域の課題”の解決に挑む～」

（朝日新聞社、2020年）

P56 図『複雑な社会課題の解決に挑戦する探究活動—WW型問題解決モデル』

【STEP 4】地域の課題を分析しよう

実施の目的：地域の課題同士のつながりを意識しながら、SDGsの視点で整理・分析し、アクションに結びつけるプランを考察する。

生徒の目標：地域の課題を整理分析し、アクションプランを考えよう。

* 事前指導：地域の魅力や課題を調べたレポートや新聞があるとよい。

* 準備物：付箋、3色以上の色ペン、模造紙、思考ツールワークシート

所要時間	活動内容
10分	自分たちが暮らしている地域にはどんな課題あるか考えよう。 【問い】あなたが一番解決したい、地域の課題は何ですか？ (例) 自然災害、食品ロス、ごみ問題、多文化共生 事前に調べてきたレポートの中からキーワードを出す。 本日のめあてを伝える 地域の課題を整理分析し、アクションプランを考えよう。 【ワーク】チームで解決したい課題を一つ決めよう。★補足1
30分～40分	SDGsの視点で地域の課題を整理・分析する 【ワーク1】地域課題とそれに関連した問題同士の関係を考えよう。(10分) ・ブレインストーミングで付箋に書き出し、関連した問題同士の関係を考える。 ・ウェビングマップをつくる 付箋ではなく直接かきだしてもよい

所要時間	活動内容
	【ワーク2】それぞれの問題が、環境・社会・経済のどれに関連しているか色分けをする。（5分） ※環境・社会・経済のバランスを保ちながら課題を解決する意識を持たせる。 ※マーカーなどで印をつけるなどする。 【ワーク3】マップの中で、チームで解決したい課題に印をつける（5分） 30分～40分 （アレンジ）3つの視点で分類も可能 ○個人で解決できそうなもの ○チームで解決できそうなもの ○外部と連携すればできそうなもの

所要時間	活動内容															
30分～ 40分	(追加) アクションプランを立てる *こちらは STEP5 とも共通するワークです 【ワーク4】課題解決のための具体的な方策を立てる。(10分) 高齢者が被害にあう可能性大 自分たちが調べたものを知らせる 避難経路の把握 学校の周りの避難経路や避難場所を調べる 防災に関する知識不足 それぞれの自然災害にはどんな避難方法があるのか調べる 防災グッズ すでに売られている防災グッズを調べる <table><thead><tr><th>いつ</th><th>どこで</th><th>どのように</th></tr></thead><tbody><tr><td>職業体験や地域の交流イベント</td><td>デイサービス 介護施設など</td><td>紙芝居・劇 チラシ</td></tr><tr><td>授業時間</td><td>実際に歩いてみる</td><td>かかった時間や経路の様子を調べる 市役所に聞く</td></tr><tr><td>授業時間</td><td></td><td>学校図書 インターネット</td></tr><tr><td>授業時間 放課後</td><td>地域のホームセンター</td><td>お店に行く</td></tr></tbody></table> 【ワーク5】「効果」×「実現可能性」の軸でアクションプランを整理する★補足2 高い 効果 低い 低い 高い 実現可能性 できる限りこの領域にあるものを選んで実践する	いつ	どこで	どのように	職業体験や地域の交流イベント	デイサービス 介護施設など	紙芝居・劇 チラシ	授業時間	実際に歩いてみる	かかった時間や経路の様子を調べる 市役所に聞く	授業時間		学校図書 インターネット	授業時間 放課後	地域のホームセンター	お店に行く
	いつ	どこで	どのように													
職業体験や地域の交流イベント	デイサービス 介護施設など	紙芝居・劇 チラシ														
授業時間	実際に歩いてみる	かかった時間や経路の様子を調べる 市役所に聞く														
授業時間		学校図書 インターネット														
授業時間 放課後	地域のホームセンター	お店に行く														
5～10分	本日の授業の学びを振り返る（感想・自己評価など記入） 例：「授業で学んだこと、感じたこと、これから調べてみたいこと」を記入 次回の予定を伝える															

< 補 足 >

★補足 1

前時で、すでに児童・生徒個人が「解決したい課題」を選べる状態であれば、アンケート形式で2～3つほど選んでもらう。

選んだ課題が似たもの同士をチームとして編成してから本時に入ってもよい。

本時は、地域の課題を整理分析するところからスタートできる。

★補足 2

児童・生徒の発達段階に応じて、4象限のルーブリックの難易度が高ければ削除してもよい。

○参考資料

- 1 探究×SDGs 地域の課題解決のコツ 新聞記事を活用して地域の課題の解決に挑む (asahi.com)
- 2 思考の手引き～整理・分析編～ | 一生使える探究のコツ (tankyu-skill.com)
- 3 環境省発行リーフレット

「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」SDGs を使って、社会を変える。P12-P1-2 (geoc.jp)



【STEP 5】プロジェクトを考えよう

実施の目的：調査・分析してきた課題を地域や世界に還元する方法を考え実行することで自分と地域のつながりを広げる。また SNS 発信や既存の企画に参加することで自分と地域と世界をつなぎ、より多くのことを自分ゴト化する。

生徒の目標：SDGs の目標達成のために、自分にできることを地域や世界に発信しよう！

事前準備：Step1 ～ 4 の授業を経験した後に取り組んでください。

時間	学習活動
10 分	【問い】 今まで分析してきた地域や世界の課題を解決するために、どんなことができる？ ・ 1人でできることと、みんな（チーム）でできることで考える ★補足 1
10 分	プロジェクトを整理する 【整理する】 全体で意見をシェアし、整理する ・ 1人でできること 例) 既存のイベントに応募、参加する 地域のもの → 地域誌、市町村区の HP を見る ★補足 2 全国規模のもの → コンテストに参加する ★補足 3 学校に届く地域誌がヒントです 毎年恒例の企画が多く、募集時期が決まっているので、教員側が事前にいくつか把握しておくことがポイントです ・ グループでできること 例) SNS に発信する ★補足 4 イベントを企画する ★補足 5 講師やインタビューに協力してくれた人に企画書、提案書を送る ※国語との関連「手紙の書き方」 一見ハードルが高いように見えますが、学校説明会や保護者会、文化祭等で「生徒発表」という形で学校外の人に発信することでも十分つながりは広がります。Step3 でつながった人をイベントに招待することも視野に入れましょう。

時間	学習活動
15 分	プロジェクトを決定する 【決める】 取り組むプロジェクトを決める ・ 個人で取り組むか、グループで取り組むか決定する ・ 個人の場合 (既存のイベントに応募) は次回の授業までに経過報告を発表できるように個々に準備。 次の授業ではクラス内で意見をもらい、それぞれブラッシュアップする。 (応募締め切りまで授業があるだけ繰り返すことで、内容は深まります) ・ グループの場合は、どのような内容にするかそれぞれで検討会議。
10 分	個人、グループごとにこれから進めていくテーマを発表する ※個人かグループかによって、時間配分は臨機応変に行う

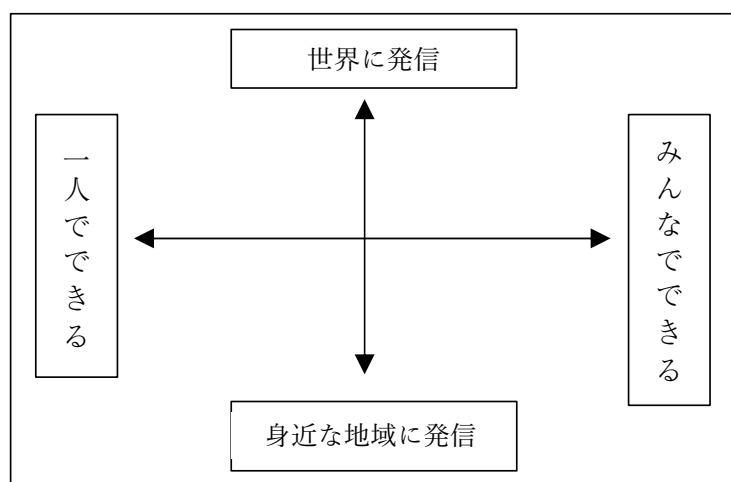
※プロジェクト実行後の振り返りは何より大切です。振り返りが次の行動につながります。

＜ 補 足 ＞

★補足 1

以下のような B4 用紙と付箋を用意。生徒は「できること」を付箋に書き、B4 用紙に貼っていく。
もしくは「できること付箋」をこちらで色々用意して、生徒はそれらを B4 用紙に貼っていく。

〈B4 用紙〉



〈用意する付箋の例〉

発表会を企画する	Youtube 動画を作成する	Twitter に投稿する	ワークショップを企画する
チラシを作って外で配る	ポスターを掲示する	イベントに参加する	新聞や雑誌に投稿する

★補足2 地域誌の例



★補足3 参考例

・ JICA エッセイコンテスト <https://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/essay/index.html>



・ 子ども世界平和サミット <https://peacepieceproject.com/cwps2021/>



・ KIRIN SCHOOL CHALLENGE <https://junec.gr.jp/kirin2020june/>



・ アートマイル国際協働学習プロジェクト <http://artmile.jp>

2020 年度応募作品▶



★補足4

文章、ポスター、写真など → 学校 HP、Facebook、Twitter への発信

動画制作 → Youtube

※あまり長い動画は見る人にも負担がかかるので、大テーマを設定し、その中で短い動画を何本も作ることをおすすめ。

内容、目的（何を伝えたいか）、対象者、公開設定（期間や公開の幅）、を決めます。

★補足5

対面開催かオンライン開催かを定める。

内容、テーマ、何を伝えたいのか（目的）を決める。

対象を決める。（小学生向け、地域の大人向け、校内の異学年向け etc）

イベントの形態を決める。（発表会、参加型ワークショップ、上映会、勉強会 etc）

★ JICA 授業実践 学習指導案 プロジェクト型授業案の紹介

「国際理解教育と商業教育の相乗効果 ～7年目のフェアトレード学習～」 敦賀 和芳 先生

https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/case/jhqv8b0000035bhz-att/other_12.pdf



「多文化共生を「自分ごと化」～探究的な方法を通して～」 三浦 学 先生

https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/case/jhqv8b0000035bhz-att/geography_history_01.pdf



○参考資料

ソーシャルアクションハンドブック作成チーム「Social Action Handbook」、
（開発教育協会 DEAR、2017年）

SDGs とはなんだろう？

世界の未来を変える 17 の目標

さまざまな要因から発生している貧困や飢餓、経済成長による格差の広がり、気候変動による異常気象、海や森などの自然環境の破壊や汚染、地域の紛争、感染症・・・

私たちの世界には解決しなければならない様々な課題が存在しています。これらをそのままにしておくと、世界は今より悪い方向に進み、人類が地球で暮らしていけなくなってしまうかもしれません。

2015年に国連で採択され、一致団結して2030年を目指してこの目標を達成しよう！という17のゴール（目標）が設定されました。この17の目標がSDGsです。SDGsはSustainable Development Goalsの頭文字で、日本語では「持続可能な開発目標」といいます。

誰ひとり取り残されることなくこの地球で暮らし続けることができるように、世界中で協力して解決すべき問題を整理し、具体的な目標を示したのが **SDGs（持続可能な開発目標）**



★さまざまな立場、一人一人のつながり

SDGsの達成には、先進国も途上国などの国単位の政府ばかりではなく、企業やNGO（非政府組織）・NPO（非営利組織）、農業などの生産者といった、さまざまな立場の人たちがつながりあって、取り組むことが求められています。

SDGs のプレゼン資料を作成しよう！

プレゼン資料の鉄則は… 〈ワンスライド・ワンメッセージ〉

1枚のスライドに複数のメッセージが込められていると、「結局何を伝えたいの!？」と聞く人は混乱してしまいます。

シンプルでわかりやすいプレゼンは、**1枚のスライド（ページ）にメッセージは1つしかありません。**
そのスライドで伝えたいことをたった1つのメッセージに絞り込もう！

【例】自分の好きなこと

NG スライド（文字が多く、画像がなし）

私の好きなことは・・・スポーツです。
そのなかでもサッカーが大好きです。
なぜなら、シュートを決めると爽快になるからです！

文字が多く、画像がなし…



NICE スライド

自分の好きなこと

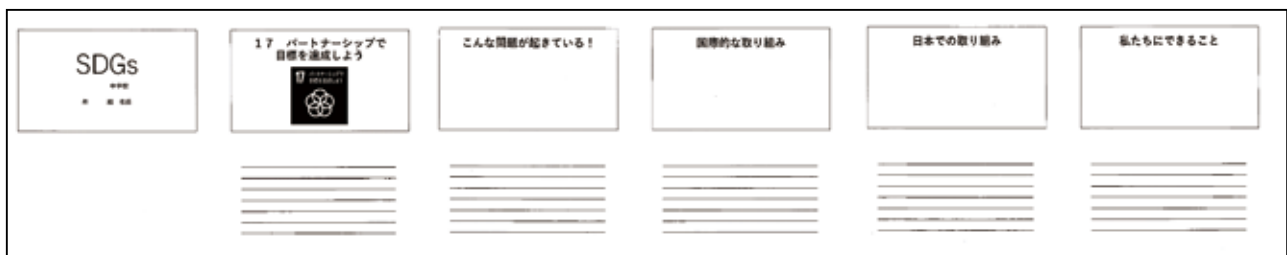
サッカーしている画像

説明はメモに書いておいて、発表する！

【調べること】

- ①自分が調べる目標を 17 の目標から選ぶ
- ②目標の内容を調べる（具体例 2、3 コを挙げるのがおすすめ）
- ③目標に取り組んでいる企業や団体、市町村などを調べる
- ④自分たちができることを考える

*イメージ図



【発表態度について】 次のことを意識しよう！

- (1) 話すスピード（聞き手が理解できるスピード。自分でゆっくりかな？くらいがちょうどいい）
- (2) 間の取り方（強調する言葉の前は、ためて話す。）
- (3) 声の大きさ（ごによごによと発表したり、小さな声では伝わらない）
- (4) 抑揚（×棒読み ○大事なところは強調する ○聴き手に訴えかけるように）
- (5) アイコンタクト（×原稿をジーっと見つめ読むだけ ○聴き手を見ながら）

身近な SDGs を見つけよう！



【課題について】

SDGs に関係すると思われる写真を1枚撮影してください！

①撮影者 ②撮影場所 ③撮影日 ④撮影した理由 ⑤SDGs との関係性について をメモすること

身近な SDGs を見つけよう！



- ①撮影者： _____
- ②撮影場所： _____ 自宅（新潟県阿賀町）
- ③撮影日： _____ 2020年10月4日
- ④撮影した理由や説明： 家の栗林でとれた栗と、近所からもらったさつまいも。気候変動や熊や猪の被害により、去年より採れる量が少なくなってしまったようだ。
- ⑤SDGs との関係性について： 2 飢餓をゼロに 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさを守ろう



身近な SDGs を見つけよう！

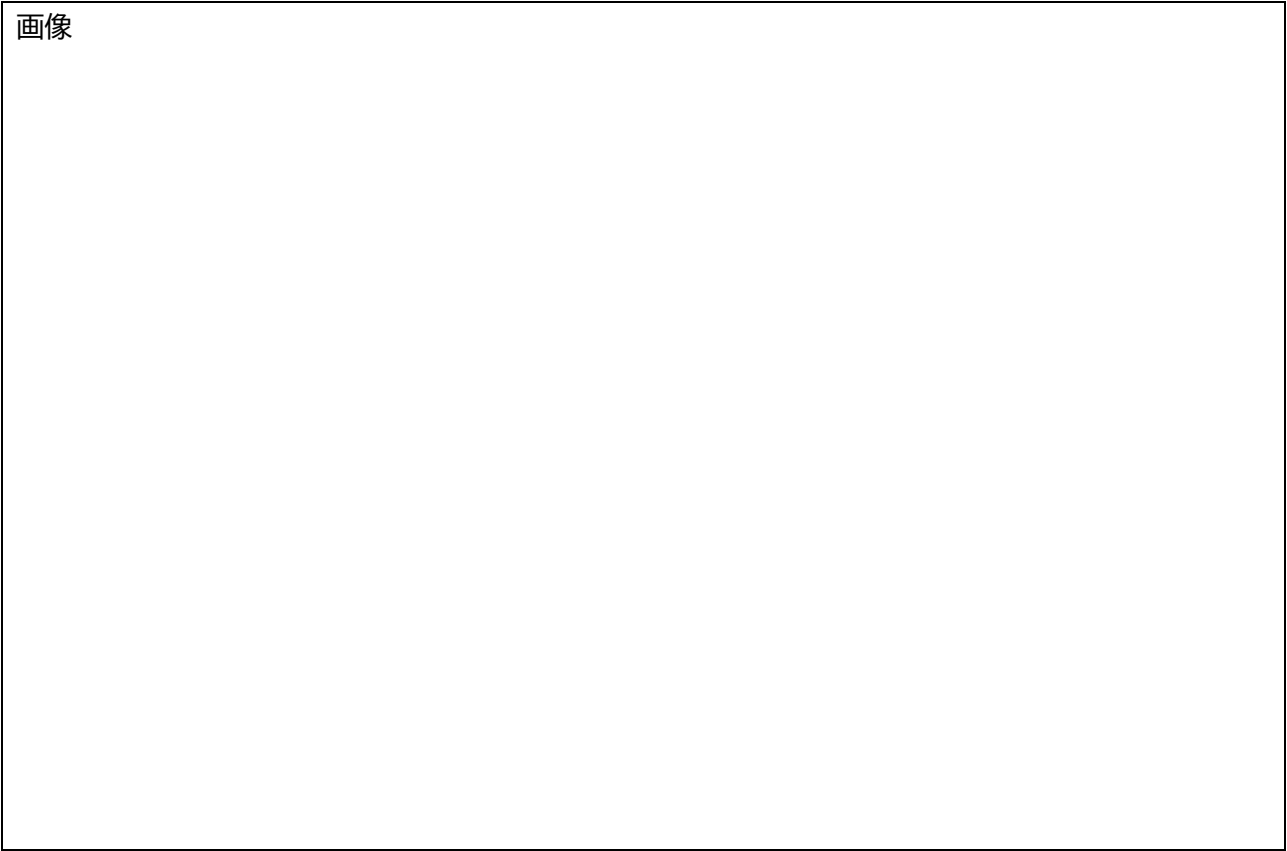


- ①撮影者： _____
- ②撮影場所： _____ 富士急ハイランド（フードコート）
- ③撮影日： _____ 9月2日
- ④撮影した理由や このストローはプラスチックではなく、紙でつくられていました。現在、海の海洋プラスチック問題が注目されているのでこの写真を撮りました。
- ⑤SDGs との関係性について： 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう



身近な SDGs を見つけよう！

画像



①撮影者： _____

②撮影場所： _____

③撮影日： _____

④撮影した理由や説明：

⑤SDGs との関係性について：

絵本作りで伝えるSDGs

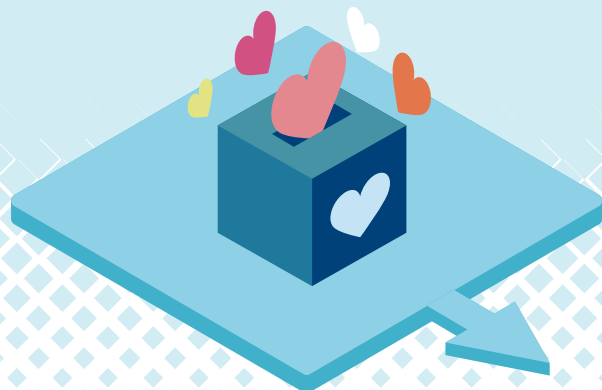
4つのTOPICの「問い」を自分なりに受け止め、それを絵本という作品にすることにより、生徒それぞれがジブンゴト化し、次のアクションの行動者へと変容することを目標とする

アプローチ

TOPIC 1

どうして募金って必要なの？

募金が必要な世界の現状をSDGsとのつながりの中で考えます。



TOPIC 2

公平な経済活動とは？

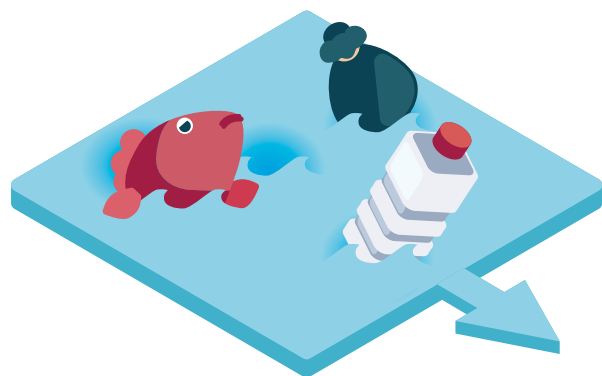
生産者・企業・消費者の視点で2030年の世界をよりよくする経済活動を考えます。



TOPIC 3

海洋プラスチックごみって何が問題なの？

海洋プラスチックごみ問題を解決するために、自分たちに何ができるかを考えます。



TOPIC 4

私たちにできる平和のための国際協力とは？

「戦争」がSDGsに与える影響について考えます。



TOPIC 5

あなたは「誰に」「何を」伝える絵本を作りますか？

TOPIC1～4で学んだことを踏まえて絵本作りをします。
「誰に」「何を」伝えたいかをハッキリさせ、表現力を養い、
行動者への変容を促します。



3班 作成者の言葉



大塚 圭 中央大学杉並高等学校

SDGs は多岐に渡るテーマが設定されているため、「持続可能な社会の創り手」の育成を実現するにふさわしい探究課題です。是非、本教材が探究活動におけるはじめの一歩を踏み出す一助になれば幸いです。

水野 修 和洋九段女子中学校高等学校

この教材は様々な企業・団体・自治体・学校などの力をお借りして作成しました。授業で使って頂くとともに、「つながり」を作るヒントになれば幸いです。是非、生徒の皆さんと対話を楽しみながら進めてください。



本木 淳也 印西市立原山小学校

「当たり前」と思っていることに対し、「なぜ？」と問い続けることで今まで見えなかった世界の一面が見えてきます。子どもたちとともにこれからの「ありうる世界」、「ありたい世界」を考えてみませんか。

吉田 大祐 埼玉県立鳩ヶ谷高等学校

日々の仕事に追われ、総合学習や HR 活動等の準備になかなか手が回らない先生方の一助になればと思います。校種や教科の枠を超えて、話し合いながら作成しました。ぜひ各先生方の教育活動に合わせて、修正、活用してください。



中田 恵理子 東京都立向丘高等学校

一人で考え行動すること、みんなで考え行動することを繰り返して、探究のスパイラルをぐんぐん回して下さい。この教材が、豊かな探究の学びを実現するきっかけになると幸いです。

指導案全体の概要説明（作成した思い）

絵本作りを通じた SDGs ジブンゴト化 ～4つの「問い」を通して～

本指導案は、外部機関のリソースを活用して、SDGs（持続可能な開発目標）をジブンゴト化することを目的としています。SDGsを活かした探究活動は、児童・生徒に持続可能な社会を多様なレンズで読み解く機会を提供します。一方、SDGsのような普遍的価値を共有する正解のない問いを模索していく過程を学校のリソースだけで対応することは難しいのが現状です。そのため、本指導案では、外部機関の協力を得て、「4つの問い」を設定し、個々のSDGsを理解するとともに、SDGsを探究の見方・考え方のツールとして活用できるように「絵本プロジェクト～地球に生きる私たちの今と未来のメッセージとして、あなたは「誰に」「何を」伝える絵本を創りますか～」を制作しました。

【協力企業・団体】

- ・ 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
- ・ イオン株式会社
- ・ ピープルツリー（フェアトレードカンパニー株式会社）
- ・ 東京農工大学
- ・ 千代田区立日比谷図書館
- ・ 八王子市役所
- ・ 国際日本文化学園
- ・ 特定非営利活動法人あおぞら
- ・ 特定非営利活動法人 SALASUSU



【指導案の使い方】

なお、この指導案は「4つの問い」から先生方の時間に合わせて各問いを組み合わせを使って頂いて構いません。また、最後の「絵本作り」も「紙芝居」「四コマ漫画」と準備をしてありますので、好きな方法で生徒のアウトプットにご利用ください。

ジブンゴト化とはどういうことか

- 「共感」し、「行動」に移すことができるということ
- 身近な課題に関心を持ち、主体的に解決できる姿勢を身につけていること
- 遠い国の出来事を自分の身に置き換えて考え、課題解決に向けて行動すること
- 新しい視点で物事を考え、多様な価値観を尊重・受容できること
- 「自分だったらどうする？」という問いに対する答えを考え、表現し合う場があること
- ある特定の条件に対して、「自分だったら○○」が言えること
- 自分にもできることがあるという見通しがもてること
- 実際に出会ったことのない「だれか」の思いを受け入れようとする事
- 自分も世界をよりよく変える力となるんだという思いをもつこと

今後の発展的展望

- 企業や団体・各教育機関・各自治体などといかにつながるかの目安となること
- 各教科・科目で落とし込んでもらい、新しい指導案としてアレンジしてもらうこと
- 現在の指導案の定期的な見直しとバージョンアップ
- この指導案を基にして、生徒が自分なりに課題を設定し、情報収集・分析・発表していく探究学習のサイクルをさらに深めていく

学びの構成

最上位目標

4つの TOPIC の「問い」を自分なりに受け止め、それを絵本という作品にすることにより、生徒それぞれがジブンゴト化し、次のアクションの行動者へと変容することを目標とする。

学びの流れ

TOPIC 1：どうして募金って必要なの？

募金が必要な世界の現状を SDGs とのつながりの中で考えます。
募金の必要性に対する自分の考えを見つめ直します。



TOPIC 2：公平な経済活動とは？

生産者・企業・消費者の視点で 2030 年の世界をよりよくする経済活動を考えます。
チョコレートなどの身近な商品を題材に、公平な経済活動の仕組みを考えるアクティビティを体験します。



TOPIC 3：海洋プラスチックごみって何が問題なの？

海洋プラスチックごみ問題を解決するために、自分たちに何ができるかを考えます。
複数の資料を通して問題の所在や解決に向けた取り組みへの理解を深め、グループワークを通して広いものの見方を養います。



TOPIC 4：私たちにできる平和のための国際協力とは？

「戦争」が SDGs に与える影響について考えます。
カンボジアという実例を挙げて、社会問題と国際協力について学びます。



TOPIC 5：地球に生きる私たちの今と未来のメッセージとして、あなたは「誰に」「何を」伝える絵本を作りますか？

TOPIC1 ～ 4 で学んだことを踏まえて絵本作りをします。
「誰に」「何を」伝えたいかをハッキリさせ、表現力を養い、行動者への変容を促します。



【TOPIC 1】 どうして募金って必要なの？

実施の目的：身近な募金活動の意味を問い直すことを通して、自分の日常の行動と世界のつながりを生徒が考えられるようにする。

生徒の目標：募金が必要な世界の現状を知り、自分にできることに取り組もうとすることができる。

第 1 時

事前の準備物：ワークシート①・②、校内募金活動の写真や動画

目安時間	内容
15 分	どうして募金って必要なの？ 【問い】 今までに募金をしたことはありますか？ どこで・いくら・どうして募金しましたか？ 募金活動を校内で行っている場合は、その時の写真や動画を見せながらふり返りましょう。 【問い】 どうして募金って必要なの？ <ワークシート①> ・ワークシートに自分の考えを書く。 ・自分の考えをグループや全体で共有する。 今までに募金をしたことがある人・ない人に関わらず、必要な理由について生徒の意見を共感的に受け止めていきましょう。
15 分	どんな時に募金する？ 【個人ワーク】 自分はどんな時に募金するかを考えよう <ワークシート①> ・ワークシートに書かれたそれぞれの事例を見て、自分だったら募金をするかどうか考え、○×を書く。 ・自分の考えをグループや全体で共有する。 「どうあるべきか」ではなく、自分の素直な考えを書かせるようにしましょう。 その選択をした理由にも目を向けさせましょう。
15 分	援助が必要な人ってどんな人？ 【問い】 援助が必要な人ってどんな人？ <ワークシート①> ・経済的な援助が必要な人と、そのような状況になったきっかけを考える。 ・問いに対する考えを全体で共有する。 (例) 地震や災害、戦争、食べ物がいない、お金がない、仕事がない、障害をもっている、家がない、国籍がない (例) 「国籍がない」という生徒の発言に対して、「国籍がないのはどんな人たちかな？」「どうして国籍がなくなってしまったのかな？」などの問い返しをして、生徒の持っている情報を引き出しましょう。
5 分	【ふり返り】 <ワークシート②> ・この時間の学習を通して学んだこと、疑問に思ったこと、心に残ったことを書く。 時間があれば、ふり返りを共有することで学びが深まります。

<ワークシート①> ※その他の資料はDVD・ホームページをご覧ください※

どうして募金って必要なの？

○今の自分の考えを書いてみよう

○どんな時に自分だったら寄付や募金をするか考えよう。

事例	○・×
・駅前で、自分の知らない人が募金活動をしていた	
・学校で、募金活動をしていた	
・学校で、友達が募金活動をしていた	
・友達に「お金ちょうだい」と言われた	
・海外で、ストリートチルドレンの子どもに「お金ちょうだい」と言われた	
・ホームレスの人に「お金がなくて困っています。少しでいいのでお金をください」と言われた	
・海外で、赤ちゃんを抱いているホームレスのお母さんに「この子にご飯を食べさせるお金がなくて困っているんです。助けてください。」と言われた	
・あなたが発展途上国でボランティアとして活動をしている村の村長から「あなたは私たちよりもお金持ちだ。だから、この村のためにお金を寄付してほしい。」と言われた	
(自分が募金をする場面を考えてみよう)	○
(自分が募金をする場面を考えてみよう)	○

○周囲からの経済的援助が必要な人はどのような人だろうか？

経済的援助が必要な人



上記のようになったきっかけ

第2時

事前の準備物：ワークシート②・③・④、資料A～H

目安時間	内容
20分	募金が必要な人たちはどのような課題を抱えているのだろう？ 【グループワーク①】 募金が必要な人たちの抱える課題を考えよう ・グループ毎に1事例を選び、課題を捉える。 <ワークシート③・資料A～H> ・課題とSDGsの17の目標との関連を線でつなぐ。 ・グループ毎に選んだ資料の動画を視聴する。 ※ワークシート記入例を参考にしてください。 課題を多面的・多角的に捉えるためのツールとしてSDGsを活用しましょう。 生徒自身に事例を見つけさせてもよいかもしれません。 ※その他の資料はDVD・ホームページをご覧ください※ 資料A 生き残った「命」をつなぐ ～ギル君のストーリー～ 毎朝、目を覚ますと、まきを拾いに出かけます。そして、水汲みも大切な仕事のひとつです。 朝ごはんは、ありません。 1日1回の食事では栄養が足りず、体調を崩しがちです。 今日も、咳が止まりません。 お父さんは、1994年に起きたルワンダの大虐殺を生き延びました。家族を殺され、自分も怪我を負い、今も後遺症に苦しんでいます。それでも、僕たちのために小さな畑を耕し、懸命に働いています。 「ギルには、希望を持って生きる力を身につけてほしい。」 お父さんはそう願って、僕を学校に通わせてくれています。 お腹がすいたまま勉強するのは楽じゃないけど、僕は、クラスでは1番です。 上の学校に進んで、仕事をみつけて、小さい兄弟たちを助けたいと願っています。 僕はギル。9歳。 大きくなったら、お医者さんになりたいです。  動画は下記QRコードから  【提供】国際NGO ワールド・ビジョン

目安時間	内容
10分	募金が必要な人たちのありうる未来 【グループワーク②】 ありうる未来を考えよう <ワークシート④・資料 A～H> グループワーク①で選んだ子どもが、一切支援を得られなかった場合、5年後・10年後・30年後どのような未来が想定されるか考える。 (ワークシート④左半分) 援助が受けられないことで、自分の子どもも同じ状況になるという負の連鎖から抜け出せないことに気付かせましょう。
15分	どんな支援が必要だろうか？ 【グループワーク③】 どんな支援が必要か考えよう <ワークシート④・資料 A～H> - グループワーク①で選んだ子どもが、どのような支援が必要かを考える。 - 支援を得られることで、どのような未来が想定されるか考える。 (ワークシート④右半分) <気付かせたいこと> - 支援が得られることで未来が変わるということ - 貧困から脱出するためには一時的な援助だけでは十分ではないこと - 募金で全ての課題を解決できるわけではないこと
5分	募金で何ができるのだろうか？ 【問い・ふり返し】 募金で何ができるのだろうか？ <ワークシート②> - この時間の学習を通して学んだこと、疑問に思ったこと、心に残ったことを書く。 - グループ内でふり返しを共有する。

ワークシート③



資料 D



第3時

事前の準備物：ワークシート②・③・④、資料A～H

ワークシート② 募金が必要な人たちの現実を知る		
どの資料に登場する人物が1年後・10年後・30年後の未来を考えよう		
何も支援を受けられない	現在	必ずしも支援を受けられずに済む (どのようなる支援が必要か書きましょう)
	5 年後	
	10 年後	
	30 年後	

目安時間	内容
10分	募金が必要な世界の現実 【知る】募金が必要な世界の現実を知る ・前時で取り上げた事例に登場する子どもたちの映像を見る。 映像を見て感じたことを伝え合いましょう。
20分	募金が必要な人たちの現実 【発表】募金が必要な人たちの現実を知ろう <ワークシート③・④、資料A～H> ・前時のグループワーク①～③で考えたことを発表し合い、募金が必要な人たちの現実を知る。 ・全体の前でグループ毎に発表 ・代表者だけグループのテーブルに残り、他のメンバーが他の班の発表を聞きに行く ・など実態に合わせて発表方法を選び、考えを共有しましょう。
10分	なぜ「学校に行きたい」と子どもたちは言うのだろうか。 【問い】なぜ「学校に行きたい」と子どもたちは言うのだろうか。 ・資料A～Hのほとんどに当てはまる共通点である「学校に行きたい」という思いの意味を考える。 (友だちと会える、なりたい職業につけるなど)
10分	どうして募金って必要なの？ 【問い・ふり返り】どうして募金って必要なの？ <ワークシート②> ・3時間の学習をふり返り、募金が必要な理由を改めて書く。 ・学んだこと、疑問に思ったこと、心に残ったことを書く。 ・互いの感じたことを共有する。 3時間の学習での変容を生徒自身が気付けるようにしましょう。

【TOPIC2】 公平な経済活動とは？

実施の目的：身近な経済活動を通して、消費者としての行動変容を促す。

生徒の目標：①フェアトレードを通して、経済活動における生産者と消費者の関係について考えを深めることができる。

②企業のサステナビリティ活動を自身の日常生活に結び付けることができる。

③ 2030 年の公平な経済活動に責任ある消費者として参加することができる。

第 1 時

事前の準備物：ワークシート①、資料 1～3

目安時間	内容
5 分	チョコレートってどうやって作られるの…？ 【グループワーク】 何を作るための原料？ ・ 〈資料 1〉 4 枚の写真を見て、何を作るための原料なのかを想像する。 写真はダウンロードできます。
40 分	フェアトレードって何…？ 【知る】 チョコレートの価格の違い ・ フェアトレード商品と通常のチョコレートの値段の違いを考える。  実際の商品を見せるのが理想ですが、写真や値段の違いのみを提示することも可能です。 写真：ピープルツリー 板チョコ 1 枚 約 350 円 【グループワーク】 経済活動における生産者と消費者の関係は？ ・ 〈資料 2〉 チョコレートの生産に関わる様々な立場の現状が書かれたカードを配布して、不公平な経済活動のしくみについて意見を共有する。 ・ <u>5 人グループ</u>で一人一枚のカードを読み上げる。 (例) 弱い立場である生産者、消費者における意識の問題、企業の利益など ・ 〈資料 3〉 ピープルツリーの「フェアトレードの 10 の指針」を配布して、フェアトレードについてまとめる（資料を確認するだけでも OK です）。
5 分	私たち消費者にできることは何だろう…？ 【問い：グループワーク】 フェアトレードを普及させるためには？ (例) フェアトレードは、生産者・企業・消費者が協力することで成り立つ経済活動 →それぞれの立場を理解し、「公平さ」を基準に考えなければならない 【問い：グループワーク】 私たち消費者にできることは？ (例) 基本的にフェアトレード商品の値段は高くなるため、消費者の意識変容が大切

〈資料 1〉

※その他の資料は DVD・ホームページをご覧ください※

写真提供：ピープルツリー ©Miki Alcalde

【チョコレート（カカオ豆）の生産地】

ピープルツリーのフェアトレードチョコに使用するカカオ豆を育てているのは、ボリビアの「エル・セイボ」。

エル・セイボは 1960 年代にボリビア北部のアルト・ベニ地方に移住した元鉱山労働者が、カカオ豆の栽培をスタートしたのがはじまりです。当初は首都ラ・パスまでの輸送手段がなく、買いつけにくる仲買人に言い値で買い叩かれる状態でした。自力で出荷できるように農家の人びとが共同でトラックを購入し、1977 年に組合を結成。カカオ豆で得た収益を組合員世帯や地域発展のために還元しています。今では 1,200 人を超える農家がメンバーです。



ひとつずつカカオの実を収穫するボリビアの農家さん



カカオポッドと呼ばれるカカオの実



発酵を終えたカカオ豆を自然乾燥させて



トラックで出荷する人たち

第2時

事前の準備物：ワークシート②、資料4

目安時間	内容
5分	企業の目的は何だろう…？ 【問い：個人ワーク】企業の役割とは？ (例) モノを売ること、利益を上げること 安くて質の良い商品売ること 社会に貢献することなど あまり深く考えずに、思いついたことでOKです。
35分	イオンのサステナビリティ活動 【グループワーク】イオンはどのように社会貢献しているの？ ・ 〈資料4〉 イオンの4つのサステナビリティ活動について書かれている資料を配布する。 ・ (移動) 同じ資料を持っている人同士でグループを作る(4人程度)。 ・ 同じ資料を持つグループでイオンのサステナビリティ活動の目的及び内容について情報を共有する。 ・ (移動) 元のグループに戻り、グループメンバーとそれぞれの活動について情報を共有する。 4人グループで、それぞれ異なる活動の資料になるように配布してください。
10分	責任ある企業・消費者とは…？ 【問い：個人ワーク】企業の役割とは？ (例) 利益を上げるだけでなく、社会貢献をすることも大切 時間があれば、全体で発表し、友達と意見を共有することで理解が深まります。 【問い：個人ワーク】消費者として意識することは？ (例) 社会貢献活動に力を入れているかどうか商品を選ぶ基準にする → 価格や機能性などで商品を選ぶだけでなく、企業の役割や社会貢献も考慮しなければならない

第3時

事前の準備物：ワークシート③

目安時間	内容
5分	経済活動における消費者・生産者・企業のつながりは…？ 【問い：個人ワーク】「The 2 Euro T-Shirt」の動画が伝えたいことは？ ・「The 2 Euro T-Shirt」の動画を見る。 ・動画が伝えたいことをまとめる。 ・消費者・生産者・企業のそれぞれの立場を考える。 消費者・生産者・企業の関係を想像できます。 動画では、英語の表記が多いため、Donate（寄付）など事前にヒントを与えてもOKです。  https://youtu.be/KfANs2y_frk
35分	2030年の世界をよりよくする経済活動を実現するために、何が必要だろう…？ 【グループワーク】消費者・生産者・企業のそれぞれの主張は？ ・消費者・生産者・企業の主張を読む。 ・優先順位を考え、ダイヤモンドランキングを作成する。 ・なぜそのような優先順位をつけたのか理由も考える。 ・全体で共有する場合は、全員が自由に各グループのダイヤモンドランキングを見て回る。 時間があれば、全体で各グループの優先順位を共有しましょう。
10分	2030年の世界をよりよくする経済活動を実現するために、何ができるだろう…？ 【問い：個人ワーク】「2030年の世界をよりよくする経済活動」のために、あなたは何かができますか？ ・今までの学習のまとめとして、自身の行動変容を促すようにする。

【TOPIC3】海洋プラスチックごみって何が問題なの？

実施の目的：海洋プラスチック問題と自分の生活の関わりを踏まえ、課題解決に向けて行動する姿勢を育てる。

生徒の目標：①海洋プラスチック問題を通して、自らの生活と社会課題との関係性を考えることができる。
②社会課題の解決に向けた取り組みを通して、課題解決と自分の行動の関係性を考えることができる。
③根拠を持って、社会課題の解決策を具体的に考えることができる。

第1時

事前の準備物：ワークシート①、資料（１）～（４）※資料は１人につき１資料配布する

目安時間	内容
10分	プラスチックについて知っていることを確認しよう！ 【個人ワーク１】【ペアワーク１】 プラスチックに関するクイズに取り組む ・ワークシートのクイズに取り組む ・隣の席同士で書き出した内容を共有し、発表する。
25分	海洋プラスチックごみ問題って何？ 【個人ワーク２】 海洋プラスチック問題を詳しく知る ・プラスチックごみに関する問題の中でも、海洋プラスチックごみの問題を取り上げることを知る。 教師が新聞記事やニュースを紹介すると、生徒は関心を持ちやすい。 ・〈資料（１）～（４）〉海洋プラスチック問題に関する資料を読み、考えたことやSDGsとの関係をワークシートに書きこむ。 【グループワーク１】 お互いの資料の内容や考えを共有する ・別の資料を持っている者同士で４人グループを作り、資料（１）～（４）の内容と考えたことを共有する。 ・共有した内容をワークシート①に書き込む。 時間に余裕があれば、発表の時間を取ってもよい。
15分	海洋プラスチック問題を解決するにはどうしたらいいだろう？ 【個人ワーク３】 プラスチックごみを海洋ごみにしないためにできることを考える ・自分にできる解決策をワークシート①に書き込む。 （例）プラスチック製品をなるべく使わないようにする。 【ペアワーク２】 お互いの考えを共有する ・【個人ワーク３】で考えたことを隣の席同士で共有する。 【振り返り】 今日の学びを整理しよう ・今日の授業を通して初めて知ったことや、考えたことをワークシートに書き込む。

※その他の資料はDVD・ホームページをご覧ください※

資料①（４）

私たちの身の回りには、今のようなプラスチック製品があるだろうか。教室の中にあるプラスチック製品を挙げていってみよう。ビニール製のペンケース、ペンやシャープペンシル、ペットボトルとふたなど、少し考えただけでも沢山のプラスチック製品に囲まれている。

プラスチックは軽くて丈夫、そしてさびたり腐ったりすることがない。また、様々な形の製品を作ることができるし、自由に色を付けることもできる。そして、酸素や水分を通しにくいため衛生的でもある。これらの長所から、プラスチックは様々な製品に用いられている。

例えば弁当の容器、肉・魚を入れる発砲スチロール、ペットボトルなど、食品関連で使用されているものを沢山挙げるができる。また、液晶テレビやスマートフォンの中にもプラスチックの部品は用いられている。ここ数年で使用が増えた不織布マスクにも、プラスチックでできた繊維を使用しているものがある。

石油から作られるプラスチックは、自然界の微生物に分解されにくく、そのまま放置すると半永久的に残存してしまうといわれている。世界の海底にプラスチック製品が沈んでいることも報告されている。自然界で分解されないプラスチックは、紫外線、波風などの物理的な力によって細かく碎かれ、マイクロプラスチックとして世界の海を漂う存在となってしまう。

これらの海洋プラスチックごみ問題を解決するための方法の一つとして、プラスチック製品を別の素材に変更していく方法がある。例えば、食器や包装紙を紙製にしたり、ビニール袋の代わりに紙袋を有料で提供したりする取り組みだ。食品飲料企業のネスレ日本株式会社は、2019年9月より「キットカット」の大袋タイプ5品の外袋ほぼ全てを、従来のプラスチック包装から紙パッケージへと変更している。これにより、従来のプラスチック使用時と比べ年間約450tのプラスチック削減量を見込んでいる。また、スターバックスコーヒージャパンは、2021年の9月から、全てのフラペチーノをFSC認証紙ストローに変更する。これにより、店内で提供する使い捨てストローの全てが紙ストローになるという。

この文章の内容を踏まえて、裏面の問いを考えよう。

Q1. プラスチックの長所を書き出そう。

Q2. 身の回りにあるプラスチック製品を沢山挙げよう。

Q3. プラスチック製品をなるべく使わないようにするには、どうしたらいいだろうか。具体策を考えよう。

第2時

事前の準備物：ワークシート②、資料（５）～（８）※資料は１人につき１資料配布する

目安時間	内容
10分	どんな取り組みが行われているだろう？ 【個人ワーク１】 海洋プラスチックごみ問題の解決策を予想しよう ・ 学校、会社（企業）、地域（自治体）、その他の中から１つを選ぶ。 ・ 選んだところが、海洋プラスチックごみ問題に対してどのような解決策に取り組んでいるかを推測し、ワークシートに書き込む。 【ペアワーク】 お互いの考えを共有する ・ 【個人ワーク１】で挙げた予想を隣の席同士で共有する。 相手の考えをワークシートに書き込むようにしましょう。
30分	どんな人たちが、どんな取り組みをしているのだろう？ 【個人ワーク２】 海洋プラスチックごみ問題の解決に向けた取り組みを知ろう ・ 〈資料（５）～（８）〉 海洋プラスチック問題を解決するために学校・企業・自治体などが取り組んでいることを紹介した資料を読み、内容を理解する。 ・ 資料の内容から考えたことや、SDGsのどのゴールに関わりがあるか、またそう考える理由をワークシートに書き込む。 資料（５）～（８）以外に、「社会課題解決中マップ」、「プラスチックスマート」などのホームページを活用して、生徒自身に取り組みを調べさせてもよい。 課題解決中マップ →  プラスチックスマート内 事例検索ページ→  【グループワーク】 お互いの資料の内容や考えを共有する ・ 同じ資料を持っている者同士で４人グループを作り、資料を読んで考えたことを共有する。 ・ 別の資料を持っている者同士で４人グループを作り、資料の内容と考えたことを説明し合う。
10分	海洋プラスチックごみ問題を解決するために、私達にできることは？ 【個人ワーク３】 海洋プラスチックごみ問題を解決するために、できることを考える ・ 資料の内容、意見交流を踏まえて、海洋プラスチック問題を解決するために自分にできる行動を考え、ワークシートに書き込む。 【振り返り】 今日の学びを整理しよう ・ 今日の授業を通して初めて知ったことや、考えたことをワークシートに書き込む。 【宿題】 身の回りで、海洋プラスチックごみ問題解決に向けた取り組みを探そう。

※その他の資料は DVD・ホームページをご覧ください※

資料(5)

東京農工大学の取り組み

「農工大プラスチック削減5Rキャンパス」(TUAT Plastic 5R Campus)

キャンパス内に、「マイボトル用浄水給水器」を設置し、大学内におけるペットボトル使用量の削減に取り組んでいる。



学内では、学生ボランティア隊が給水器の清掃を行ったり、利用促進のためのポスターを作成し掲示したりしている。左のポスターは小金井・府中キャンパスに掲示されているポスター。

大学生協にて、オリジナルマイボトルやマイバッグの販売を行っている。

この他、2020年4月から、会議等でペットボトル飲料の配布を禁止したり、学生ボランティア隊による活動を行ったりし、プラスチック使用量の削減に努めている。これらの取り組みの結果、大学内におけるプラスチック使用量が2018年から2019年にかけて2300kg削減された。
この他、構内の自動販売機からペットボトル飲料をゼロにしたり、マイクロプラスチックの研究や代替素材の研究を進めたりと、プラスチックに関する社会課題を解決する研究を行っている。
QRコードを読み込み、東京農工大学が行っている取り組みをチェックしてみよう!



農工大プラスチック削減5Rキャンパス
TUAT Plastic 5R Campus



「農工大プラスチック削減 5R
キャンパス」のホームページ

第3時

事前の準備物：ワークシート③

目安時間	内容
10分	自分にできること、みんなと一緒にできることを考えよう 【個人ワーク1】 今までの学びを踏まえ、解決策を考えよう。 ・家（自分個人）や学校で、海洋プラスチック問題解決のために何ができるか考える。 ・「自分一人にできること」「人と協力すればできること」は何か意識して考えるようにする。
35分	「〇年〇組 海プラ問題解決チャレンジプラン」を考えよう 【グループワーク1】 アイディアを出し合い、解決プランを計画しよう ・近くの席で4人グループを作り、【宿題】で調べたことと、【個人ワーク1】で考えたことを共有する。 ・自分たちのクラスで「きっと取り組める」解決策、「難しいけれど挑戦してみたい」解決策を考える。 ふせんが準備できれば、考えを書き出して似ている考えを分類する活動をしてよい。 ・プランの「タイトル」「取り組み内容」「SDGsのどのゴールに関係するか」「プランのキャッチフレーズ」をワークシートにまとめる。 【グループワーク2】 同級生の考えを知ろう。 ・【グループワーク1】とは別の4人で集まり、自分達の考えたプランを共有する。 ・互いのプランの良い点や興味を持った点を伝え合う。 自分たちのプランに関するコメントはなるべくワークシートに書き取らせる。
5分	【振り返り】 今日の学びを整理しよう ・今日の授業を通して初めて知ったことや、考えたことをワークシートに書き込む。

【TOPIC4】 私たちにできる平和のための国際協力とは？

実施の目的：戦争とSDGsの関係性を理解させ、平和を維持する価値と戦争後の国際協力の在り方について理解させる。

生徒の目標：①戦争とSDGsの関係性について仲間と共に考えを深めることができる。
②カンボジア内戦の例から、戦争と社会問題を結びつけて考えることができる。
③国際協力への自分の関わり方に関して提案することができる。

第1時

事前の準備物：ワークシート、資料1・2（グループで1枚）

時間に余裕があれば、教室全体で共有しましょう

目安時間	内容
10分	「戦争」って何…？ グループは3人を想定 【グループワーク1】「戦争」という言葉から何をイメージしますか？ ・〈ワークシート〉「戦争」からイメージするものをグループ内で共有する
35分	「戦争」はSDGsにどう影響する…？ 拡大印刷や模造紙を活用しても構いません！ 【グループワーク2】「戦争」はSDGsの各目標にどう影響する？ ・〈資料1〉SDGs各目標をハサミで切り離す。 ・〈資料2〉「戦争」がSDGs17の各目標に与える影響、各目標同士が与えあう影響についてグループで考え、矢印を記入しマインドマップを作成する。 【グループワーク3】SDGsのどの目標の課題を解決すればよいだろう？ ・作成したマインドマップを見て、社会を良くするためには、SDGsのどの目標の達成に取り組む必要があるかをグループで話しあう。 ・選んだ目標に○をつける。 【グループワーク4】考えを共有する ・【グループワーク2・3】の内容を全体に共有する。 気になる意見はメモ欄にメモ！ 
5分	「戦争」が終われば解決するの…？ 時間に余裕があれば、教室全体で共有しましょう 【知る】「戦争」後の社会 ・マインドマップの中心にある「戦争」に×を書かせる。 ・「戦争が終わったらマインドマップに書いた問題は解決するの？」と問いかけ、グループで話し合わせる。 ・「戦争」そのものが終わっても、「戦争」を契機に社会に生じた問題や関係性が消えるわけではなく、「戦争」後の社会にも大きな影響を与える事を理解させる。 ・本時の学びや気づきをメモ欄に書かせる。 時間に余裕があれば、ペアやグループで共有しよう！

第2時

事前の準備物：ワークシート、資料A～C

目安時間	内容
10分	カンボジアとカンボジア内戦って…？ 【知る】カンボジアとカンボジア内戦について ・〈ワークシート〉を読んで、カンボジアとカンボジア内戦について理解する。 大事だと思うところに線を引かせましょう。
35分	カンボジアの社会問題と内戦の関係は…？ 【グループワーク1】カンボジアの社会問題とは？ ・グループで話し合ってカンボジアに関するQ1～Q6のクイズの答えを考える。 各グループの答えを共有してもよいでしょう。 【個人ワーク1】カンボジア内戦と社会問題の関係は？ ・〈資料A～C〉各グループで3種類の資料を個人で読み解く。 大事だと思うところに線を引かせましょう。 【グループワーク2】考えを共有する ・【個人ワーク1】の内容をグループ内で共有する。 全体でQ1～Q6の答えを確認してもよし
5分	解決には何が出来る…？ 【ワーク4：グループ】社会問題の解決策を考える ・Q1～Q6の社会問題を解決するアイデアをグループで考える。 例：児童労働をさせた親に罰金、女性の進学希望者には国から助成金など 時間に余裕があれば、教室全体で共有しよう。

参考資料

日本とカンボジア社会問題比較

1. 成人識字率（2015）

カンボジア…78% 日本…99%

2. 児童労働（2010～2018）

カンボジア…13% 日本…データなし

3. 乳児死亡率（2018）※ 1000人中

カンボジア…24人 日本…2人

4. 最低限の基礎的飲用水サービスを利用する人の割合（2017）

カンボジア 農村…73% 都市…97%

日本 99% ※農村と都市の区別なし

5. 後期中等教育（日本の高校）修了率（2010～2017）

カンボジア 女性 29%（男性 47%）

日本 女性 79%（男性 82%）

6. 国会議員における女性の割合（2020）

カンボジア 21.6% 日本 9.9%

1…UNESCO UIS より

2～5…ユニセフ「世界子ども白書 2019」より

6…列国議会同盟「報告書 2020」より

カンボジアは 2000～2009 年は 45%だったので劇的に改善！

カンボジア 105 位
日本 166 位

資料2-A ※その他の資料は DVD・ホームページをご覧ください※

A 教育

内戦下では、学校教育自体が廃止され、学校の校舎は破壊されるか、軍の基地や刑務所などとして使用されました。カンボジアの書物も大半が内戦で失われました。いまでも成人の22%の人は読み書きができません。

近年急速にカンボジアの人口は増加していますが、子どもが教育を受ける校舎はまだまだ足りません。教室数が不足している学校では、午前に勉強をする子どもたちと午後に勉強をする子どもたちにわけた2部制をとっていますが、それでも追いつかないところは3部制をとり対応しています。そのため、児童一人当たりの授業時間は短くなっています。また内戦でほとんどの教員が亡くなってしまったため、正規のトレーニングを受けずに村長が選んだ村人が教員になりました。そのため、教育に関する深い知識や技術を持った現場の教員の育成も必要となっています。

内戦終結後も、経済的理由から学校を辞めざるを得なかった人も多く、児童労働をしている子どもの割合は、いまだに13%にものぼります。実は2000年から2009年の間は45%もいたので、状況は大きく改善されていますが、まだまだ貧しい子どもたちほど十分に教育を受ける機会がありません。満足な教育を受けることが出来なかった人々の中には、職業選択の機会を失い、貧困から抜け出せない人が沢山います。



第3時

事前の準備物：ワークシート、資料A～C

目安時間	内容
5分	カンボジア内戦と社会問題って…？ 【復習：グループ】カンボジア内戦と社会問題について ・ 前回のワークシートをもとにどんな社会問題があったかグループで復習する。 時間に余裕があれば、教室全体で共有しよう
35分	カンボジアでの国際協力活動とは…？ 【ワーク1：個人】今カンボジアで行われている国際協力活動とは？ ・ 〈資料A～C〉各グループで3種類の資料を個人で読み解く。 大事だと思うところに線を引かせましょう。 【ワーク2：グループ】資料の内容を共有する ・ 【ワーク1】の内容をグループ内で共有する。 特に心に残ったことを言えればよい。 【ワーク3：グループ】マインドマップの見直し&国際協力活動について ・ 第一時で作成したマインドマップを見直し、社会を良くするためには、SDGsのどの目標の達成に取り組む必要があるかをグループで話しあう。 ・ 再度選んだ目標に赤ペンで○をつける。 ・ 国際協力活動を行う上で、大切だと思うことをグループで話し合う
5分	解決には何ができる…？ 【ワーク4：グループ】考えの変化の共有 ・ ①【ワーク3】で選んだ目標②授業を通じた考えの変化や気づき③国際協力活動を行う上で、大切だと思うことを共有する。

参考資料

学校ですぐに活用できる「SALASUSU」の「LEARNING JOURNEY」

NPO法人「SALASUSU」では、中高生向けのスタディツアーを起点とした学習プログラム「LEARNING JOURNEY」を提供しています。「①オンライン型」と「②現地渡航型」があり、カンボジアの工房の様子を見学したり、働く女性に話を聞いたりすることもできます。

リクエスト（目的・学校種・学年・教科・期間）に応じて学びをデザインしてくれるので、気になる先生は以下のリンクから、サイトをご覧ください。各種ワークショップで使う教材も公開しています。



学習プログラム「LEARNING JOURNEY」



オリジナル教材「RESOURCE」



【TOPIC5】 地球に生きる私たちの今と未来のメッセージとして、あなたは「誰に」「何を」伝える絵本を作りますか？

実施の目的：今まで学んだ（TOPIC1～4）の内容について「誰に」「何を」メッセージとして伝えたいかを考え、それを絵本にすることによって表現し、生徒がジブンゴト化できることを目標とし、それがアクションにつながることを期待する。

生徒の目標：①今まで学んだ TOPIC1～4 について自分なりの考えを深める。
②あなたの想いを誰に伝えるのか。どう伝えるのかを絵本作りを通して工夫する。
③友達と一緒に絵本を作ることを通して、相手の受け取り方や想い、協力すること、それによって1つの作品を作る過程を共有する。

第1時

事前の準備物：ワークシート①、自宅にある絵本、B4のコピー用紙17枚×生徒数、製本テープ

目安時間	内容
10分	好きな絵本をグループのみんなに紹介しよう！ 【グループワーク】好きな絵本をグループのみんなに紹介しよう！ ・4～6人程度のグループを作ります ※授業者も絵本を持ってくることが好ましい 自宅にない人は、図書室で借りても良い。 大きなリアクションをすると場が和みます。「拍手」を必ず！
30分	取り組んだ（4つの）「問い」から何を感じましたか？ 【問い】あなたの持ってきた（調べてきた）絵本は誰に何を伝えたいのだと思いますか？（5分程度） ・1に記入 思ったこと、感じたことを率直に！ 【グループワーク】まとめた内容をグループで発表！（5分程度） ・友達の発表を書き込みます 【問い】事前に取り組んだ（4つの）「問い」から、あなたは「誰に」「何を」伝えたいですか？（5分程度） ・2に記入 4つ「問い」の中から特に印象に残ったものから選んでも良い。 【グループワーク】グループで発表！（5分程度） ・友達の発表を書き込みます 選んだ「問い」の大グループを作ってから小グループへ 【仲間探し】同じ「問い」の仲間を探そう（10分程度） ・選んだ（4つの）「問い」のグループを作り、さらに小グループへと促す ・2～4人程度のグループを作るように促す なるべく生徒同士で決めさせましょう。
10分	【問い】地球に生きる私たちの今と未来のメッセージとして、あなたは「誰に」「何を」伝える絵本を作りますか？ ※この「問い」の自分なりの答えを記入します 授業者は「誰に」「何を」と聞きながら机間巡視をしましょう。

※その他の資料は DVD・ホームページをご覧ください※

絵本作成 Project ワークシート①（あなたはどんな絵本を作りたいですか？）

1. あなたの持ってきた（調べてきた）絵本は誰に何を伝えたいのだと思いますか？

a. あなたの考えたことを記入してください。（個人ワーク：5分程度）

b. 友達の発表を書き込もう！気づいたこともね！（個人ワーク：5分程度）

2. 事前に学んだ4つの「問い」から

a. 4つの「問い」のうち、あなたが一番心に残った「問い」とその理由を記入してください。（個人ワーク：5分程度）

・心に残った「問い」：

その理由：

.....

b. 上記の「問い」からあなたは「誰に」「何を」伝えたいと思いましたか？その理由も含めて記入をしてください。

・誰に… ..

その理由：

・何を… ..

その理由：

☆ここに記入したことをもとにして仲間を探します！

3. 地球に生きる私たちの今と未来のメッセージとして、あなたは「誰に」「何を」伝える絵本を創りますか？あなたの考える絵本の構想を絵や文で書いてみましょう！

※できるだけいっぱい書きましょう！また、整理しなくていいです。考えたこと、思ったことをとにかくいっぱい書きましょう！

4. 今日の授業の振り返り

第2時

事前の準備：ワークシート②を人数分（横書き・縦書き）とグループの数分

目安時間	内容
5分	絵本の下書き（ラフ）を書くために必要なことは何だろう？ 【今日のワークの説明】 ・ 絵本の下書きを作る ・ 一気に最後まで書くことを心がけること ・ 文字だけでも OK ・ あなたの作る絵本で「行動に移してもらいたい」こと「知ってもらいたい」ことを楽しんでもらえるように作ることを心がけること まずは書くことが大事！とにかく、「思ったこと」「感じたこと」を書くように促してください！ ☆【試し読み】絵本のラフ画を見て下さい！絵本作家になるには モーリーのラフ画下書き『きみがブーツをならすとき』 (https://youtu.be/tbDLB8AwvRc) 1 (https://youtu.be/99XZcW5gTiA) 2  
35分	絵本の下書き（ラフ）を一気に書こう！ 【個人ワーク】 ・ 下書き（ラフ）を書く（25分程度） - 縦書き・横書きで書き始めが違います とにかくまずは「一気に書く」ことを伝えてください 【グループワーク】 ・ 下書き（個人ワークで書いたもの）を読み聞かせ（5分程度） ※授業者は<u>良い部分を相手に伝える</u>ように声をかけを 【グループワーク】グループごとにワークシート②を配布 ・ グループで1つにする（5分程度） ※授業者は「1つを選ぶだけでなく、お互いの良いところを組み合わせたものでもいい」ことを伝える。活発な議論になるように声をかけを 必ず「理由を言う」ことを心掛けるよう伝えてください。
10分	【発表】それぞれのグループの取り組みを発表！ 絵本の内容、工夫、伝えたいことなど、途中経過を発表させてください。 授業者が良い部分をその都度、講評してあげてください。また、聞いている生徒にも、発表したグループの良かったところ伝えてあげるように声をかけてあげてください。

※その他の資料は DVD・ホームページをご覧ください※

絵本作成 Project ワークシート②（絵本の構成を練ろう！）横書き

裏表紙 タイトル					
1P		2P	3P	4P	5P
6P		7P	8P	9P	10P
12P		13P	14P	15P	16P
18P		19P	20P	21P	22P
24P		25P	26P	27P	28P
30P		31P	奥付		
30P		31P	32P	裏表紙	

☆24 ページか 32 ページで下書き（ラフ）を描いてみましょう！

第3時

事前の準備：ワークシート③

目安時間	内容
5 分	絵本をさらに良いものにしていくためには？ 【今日のワークの説明】 見直すポイントは？ ・ 文字の位置をページごとに変えてみよう ・ 長いと読み疲れてしまう ・ 絵がボンボン変わると楽しい ・ めくりを意識する（ページをめくるアクションで楽しさを） ・ クスッと相手が笑えば、反応は本物 今日の話し合うポイントになります。 黒板に書いてください！
35 分	伝えたいことを受け取ってもらえる絵本にするためには？ 【問い】 地球に生きる私たちの今と未来のメッセージとして、あなたは「誰に」「何を」伝える絵本を作りますか？ 【グループワーク】 ・ グループで構成を見直す（25 分程度） ※ 授業者は机間巡視をし、停滞しているグループにはストーリーを聞いてあげて、質問をする。 アドバイスにならないように、自分たちで考えが広がる疑問・質問を伝える 「誰に」「何を」伝えたいのかをもう一度思い出させてあげてください。 【グループワーク】 ・ キャラクターを考える（10 分程度） ワークシート③に書いていく - グループワークが停滞していたら、下記の内容を伝える ・ 身近なものに近づけていく ・ 感情移入しやすいもの ・ キャラクターは人とは限らない 黒板に書いてあげてください！ (https://note.com/ekakinonakagawa/n/n3f0722862164)  一冊の絵本ができるまで / 中川貴雄note 一冊の絵本ができるまで / 中川貴雄note
10 分	【発表】 各グループからキャラクターと展開の発表！ ・ 他のグループの良かったところと今日の振り返りを書く - 他のグループから感想をもらう 

必ず、他のグループから一人、感想をもらってください。グループの人数に差があると思いますが、全員が何かしらの感想を言うことができるようにグループ内で発表する順番を決めておくと良いでしょう！

第4時

事前の準備：ワークシート④

目安時間	内容
5分	絵本のタイトルを考えるためには？ 【今日のワークの説明】 ・タイトルは内容と同じくらい大切 ・タイトルに「前人未到」の言葉を使う？ ・タイトルには2つの言葉を組み合わせると良い？ 黒板に書いてあげてください！ ただし、これがすべてではないことを伝えてください。
40分	自分たちの絵本に興味を持ってもらえるタイトルとは？ 【個人ワーク】 ・タイトル 10 個を目標に（10 分程度） ・とにかく、多く作ることを心掛けるように 考えすぎず、とにかくフィーリングで。思いついたら即書くことを促してください。 【グループワーク】 ・考えたタイトルを発表して <u>いくつか</u> に絞る（10 分程度） ・1 つに絞らなくていいことを伝える（複数が大事！） ・タイトルに想いも込めて！ 必ず「選んだ理由を言う」ことを心掛けさせてください。 【グループ間交流】 ・他のグループにどのタイトルがいいか聞いて回る（10 分程度） ・選ぶだけでなく、意見やアドバイス・感想も言ってあげるように促す ・選択肢を作ると選びやすくなる 「どれがいい？」と聞いた方が選びやすい。 ☆グループ間交流の方法について ・各グループで代表者一人を決めます。 ・その代表者がグループに残り、タイトルの説明をします。 ・代表者以外のメンバーは、順番に他のグループを回り、タイトルを選んであげてください。 授業者は2分計り、時間が来たら時計回りに他のグループのところに移動するルールにするとスムーズにすべて回れます。 【グループワーク】 ・タイトルを決める（10 分程度） ・1 つに絞るだけでなく、アドバイスも活用し、よりよく変えていくことを促す ☆グループ間交流時の代表者が、どのタイトルの票が多かったかを理由とともに他のメンバーに伝える。 ☆グループ間交流の代表以外は、他のグループのタイトルの工夫や良いところをそれぞれが代表者に伝える。
5分	【発表】各グループの絵本のタイトルを発表！ タイトルに込めた想いや理由も言うように促してください。

第5時

事前の準備：1 グループに、17 枚のコピー用紙（できれば少し厚いもの）を準備 → 藁半紙でも

※バナナペーパー推進協議会と打ち合わせて、エシカルな絵本キットも考えていきたい

製本テープ、のり、念のために色鉛筆・クレヨン・絵の具などがあれば準備を

目安時間	内容
5 分	絵本を作ろう！ 【事前に生徒に伝えること】色鉛筆・クレヨン・絵の具・のりを持ってくるように 【今日のワークの説明】 楽しく作ることを意識させたい。 ・絵本を完成させよう ・みんなで協力しよう ・役割分担を決めることも大事 【絵本作りで意識してもらいたいこと】 黒板に書いてあげてください！ ・「誰に」「何を」伝えたいのかを意識して作ろう ・文字の位置をページごとに変えてみよう ・長いと読み疲れてしまう ・絵がポンポン変わると楽しい ・めくりを意識する（ページをめくるアクションで楽しさを） ・クスッと相手が笑えば、反応は本物
40 分	地球に生きる私たちの今と未来のメッセージとして、 あなたは「誰に」「何を」伝える絵本を作りますか？ 【グループワーク】 ・改めて「問い」を確認する。 ・役割分担を促すなど、グループ全員で1つの作品を作る 自由につくること。 楽しく作る雰囲気づくりを。 ※ページ番号も書くように！
5 分	【発表】各グループが「大変だったところ」「工夫したところ」を発表 苦戦しているグループがあった場合、みんなで解決策を考える 上手くいっていないことなどを正直に言うことを促してください。そして、みんなに解決策を考えさせる時間もつくり、クラスみんなで絵本を作る雰囲気を。 

第6時

事前の準備：ワークシート⑤

目安時間	内容
5分	絵本を発表しよう！（読み聞かせ発表会） 【準備】 ・発表会にあたり、司会を決めておくといい ・机を後ろに下げ、椅子を半円状にして読み聞かせの雰囲気づくりを ・できればゲスト（他の教員など）も招きたい 
35分	【発表会】 ・各グループの絵本の読み聞かせの後、時間をとって記入させる 
10分	【発表】 絵本作成で自己変容したところをそれぞれが発表 ・時間をとって記入させる ・今回の取り組みで自分自身が変わったことを自分なりの言葉で発表する 

クラス全体でそれぞれの想いを共有したい。

自分なりの言葉で良いことを伝え、率直な気持ちを表現させたい。

SDGs×グローバル・キャリア

SDGs×組織連携を中核に探究活動を展開しグローバルなキャリア形成に役立てる

アプローチ

※本指導案はSDGsを中核に組織連携を通して学校や地域を巻き込みながら各学年で長期的に探究活動を展開することをねらったものです。

1 知る：資源 × 自分

SDGsに取り組む外部組織と出会う導入段階です。資源（ひと・もの）を活かした様々な取組を知り、理解を深めると共に、自らのあり方や生き方を探ります。ここでは、地域学習を例に紹介します。

- ✓ “持続可能な社会作り” に大切なことは？
- ✓ 探究テーマを深める質問とは？
- ✓ 実際にどんな取組がある？
- ✓ これからの生活や学習、今後の生き方にどう活かす？



2 広げる：アイデア × 自分

SDGsに取り組む外部組織の助けを借りてアイデアを発展させる段階です。

様々な課題を知り、多様な視点で課題を捉え直します。ここではローカルからグローバルに視座を高めます。

- ✓ 世界の課題って何だろう？
- ✓ 世界の課題を解決するには？
- ✓ どんなアクションが起こせるだろう？
- ✓ 地域のリソースはどのように使えるだろう？



3 変える：変容 × 自分

SDGsに取り組む外部組織と連携しながら課題解決に挑む段階です。

探究活動の学びやつながりを後輩に継承し、探究手法を進路探究に繋げます。ここでは成果と課題を振り返り、キャリア観を俯瞰します。

- ✓ 何をどう持続させる？
- ✓ どの探究手法を使う？
- ✓ 良いプロジェクトとは？
- ✓ 自分の在り方生き方とは？



指導のポイント



進路探究の成果等も最下級生に発表すると、憧れのモデルを身近に見つけ、これから自分に起こる学校生活や行事等の目標・目的を明確化できます。



最上級生は内容を噛み砕いて発表するスキルを磨き、物事の本質に迫る機会を得ることができます。発表会の企画運営も生徒に任せるとよいでしょう。

4班 作成者の言葉



松井 市子 新潟県立津南中等教育学校

探究活動は主体的な学びです。人との出会いがそれに拍車をかけてくれます。教室から飛び出して色々な人の色々な考え方や生き方に触れ、日々の学びに還元してもらいたい、という思いで本指導案を作成しました。

石井 誠 渋谷区立松濤中学校

未来の学校づくりというアイデアで指導案を作成しました。生徒が自ら目標をたて、それに向かって学んだ知識・技能を生かし、培ってきた思考力・判断力・表現力を活用できる環境づくりが教員の役割だと考えています。



増田 有貴 村上市立荒川中学校

中学1年、3年、高校2年担当の私たちの実践を統合させた指導案です。グローバルとローカルを往還しながら生徒が社会に出て学ぶ探究活動を目指して作成しました。教科でも使える8つのエッセンスもご活用ください。

指導案に込めた思い

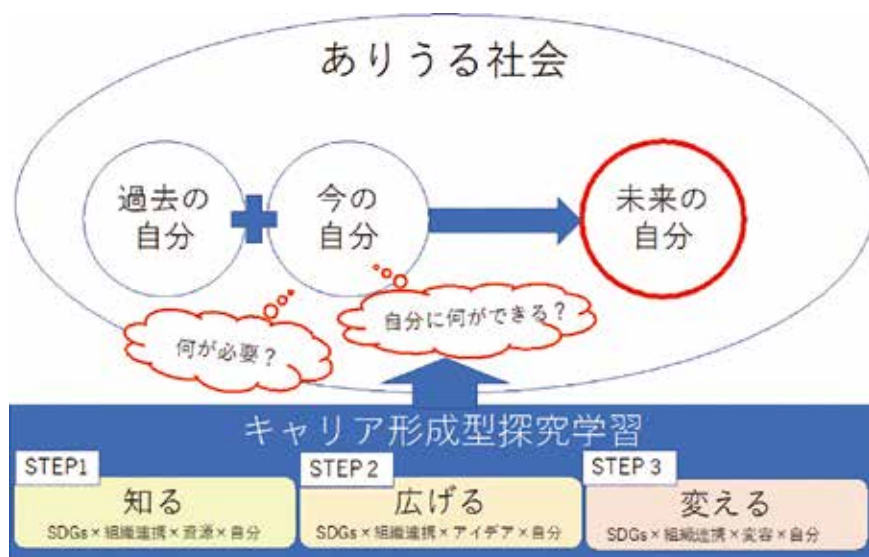
本指導案は、外部組織との連携を中核に据えた探究活動を示すことをねらいとしています。その活動の中で生徒が主体的にキャリア形成を行い、職業観を形成させることのできるプログラムともなっています。また、グローバルなキャリア形成に役立てるよう中学校から高校まで長いスパンで実践できるものとなっています。

世界的な感染症の拡大によりこれまでの前提が崩れたり、教師の役割が変わったと感じたりしている方も多いと思います。これまで当たり前だった学習活動が制限される中ですが、ICT ツールや地域・JICA のリソースを活用すれば、今までできなかった「外」との連携に挑戦できる機会でもあります。教師が教育の場から「社会」を見せてあげることで、生徒は学校外の刺激や示唆に富んだ人々との出会いにより学校での学びを加速させ、自立した主体的な学習を進めることができます。それは、外部の人と繋がることで、生徒の探究心や主体性、最後までやり遂げようとする責任感が高まるからです。そのような場づくり（授業デザイン）をすること、そして生徒の変容過程を様々な視点や角度から捉えていけることは教師としてとても嬉しく有意義なことだと我々は感じています。探究活動を通して、生徒も教師も自らの生き方やあり方を模索し、思考や態度が主体的に変容していくことを願って指導案をまとめました。

ジブンゴト化とは？

「ジブンゴト化」とは「今」や「過去」から「未来」を描ける力であり、そこに「自分がいる」ことをイメージできることだと考えます。それは「ありたい社会」「ありたい自分」を願うだけでなく「これからありうる社会」を想定し「自分はどうかあるべきか」考え、行動する意識・態度です。それは「どこか遠くの誰かが困っている」「誰かが何とかしてくれるだろう」という意識ではなく「何が必要か」「自分に何ができるか」を考えること。そのためには、想像力・共感力を持ち、学習や体験を通して繋がった国、地域、人々に思いを馳せ、未来を見据えて自分自身の行動に活かそうとすることが大切だと考えます。

「自分の強み×弱み」と「外の強み×弱み」が教室外で出会い、色んな人が色んな経験や考えを持つことを知ること、様々な学びや経験を自分自身に生かそうとすること、これを「キャリア形成型」探究活動として捉えます。「どこか遠くの誰かや何か」を「ジブンゴト」として捉えられるようになり、大きく広がりのある職業観につなげて欲しいと思います。



課題と今後の展望

【第1段階】汎用性アップに向けて

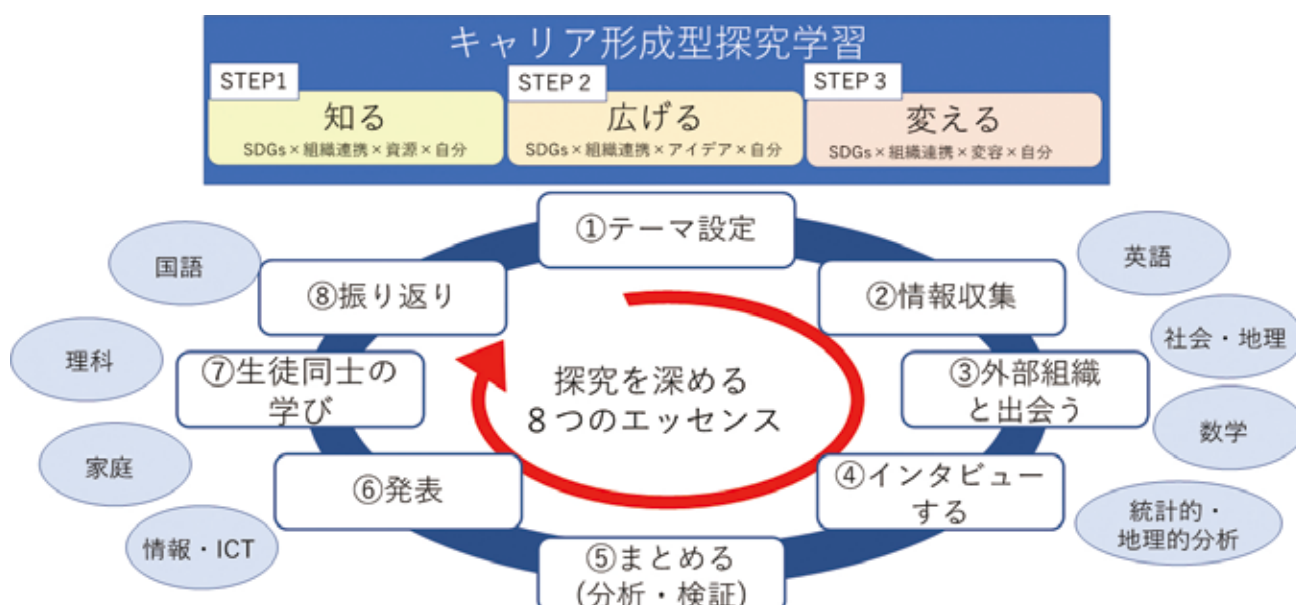
本指導案は Step1（導入）から Step3（発展）へと段階を経る毎に「外」との連携度合いや生徒の主体性がより高まります。指導案の作成は異なる校種の教員が自分の実践を振り返りながら議論して作成しました。各段階でエッセンスとなる活動を最小限に絞り、共通する視点を8つにまとめました。生徒や地域が異なっても本指導案の汎用性が保証されることを期待しますが、実践してみて分かることも多々あると思います。より多くの学校で外との連携が進み、そのノウハウが蓄積されてより良い実践につながって欲しいと願う一方で、実践の共有がより進むよう JICA のネットワークに1人でも多くの先生方が入られることも願います。我々も JICA の教師海外研修を通してネットワークがより広がり深まり、授業実践につながりました。より多くの実践から共通エッセンスを抜き出すことで、より汎用性の高い指導案ができあがっていくと思います。

【第2段階】教科との結びつけ

本指導案は英語教員が作成しました。段階を経る毎に英語を使用する場面が垣間見えると思います。学習教科の1つである「英語」をツールとして探究活動を展開すること、そしてそこから「外」と繋いでみるのが本指導案の特徴です。英語学習はSDGsを地球規模で考えるには最適の教科学習です。また、統計的・地理的な分析も経験するような指導案も入れました。「数学」や「社会・地理」など他教科との連携を強めることで、本指導案がさらに展開・発展すると期待します。

【第3段階】総合的な学習・探究の発展型・

我々の周りでは色々な事象が起っていますが、教室の学びとつながられる生徒は多くありません。総合的な学習・探究の時間はその接着剤として機能しています。本指導案でも「外」とつながる時間に総合的な学習・探究の時間を位置づけましたが、いったん「外」とつながり、そのつながりの意義を見いだせば、人が入れ替わっても学校が中核となってそのつながりを発展できます。そのつながりから「ありうる社会」を「ありたい社会」に、そして「ありたい自分」につなげていけると考えます。「キャリア形成型」探究活動が近い将来、どの教科でも展開されていることを願います。



学びの構成（キャリア&組織連携&SDGs）

最上位目標

SDGs × 組織連携を中核に探究活動を展開しグローバルなキャリア形成に役立てる

学びの流れ

大人ってすごい！

STEP1（知る）：SDGs × 組織連携 × 資源 × 自分

SDGs に取り組む外部組織と出会う導入段階です。資源（ひと・もの）を活かした様々な取組を知り、理解を深めると共に、自らのあり方や生き方を探ります。ここでは、地域学習を例に紹介します。

- 導入 1～2 コマ “持続可能な社会作り” に大切なことは？
展開① 3 コマ 探究テーマを深める質問とは？
展開② 5 コマ 実際にどんな取組がある？
まとめ 1 コマ これからの生活や学習、今後の生き方にどう活かす？

STEP2（広げる）：SDGs × 組織連携 × アイデア × 自分

SDGs に取り組む外部組織の助けを借りてアイデアを発展させる段階です。様々な課題を知り、多様な視点で課題を捉え直します。ここではローカルからグローバルに視座を高めます。

自分もやってみたい！

- 導入 1～2 コマ 世界の課題って何だろう？
展開① 3 コマ 世界の課題を解決するには？
展開② 5 コマ どんなアクションが起こせるだろう？
まとめ 1 コマ 地域のリソースはどのように使えるだろう？

STEP3（変える）：SDGs × 組織連携 × 変容 × 自分

SDGs に取り組む外部組織と連携しながら課題解決に挑む段階です。探究活動の学びやつながりを後輩に継承し、探究手法を進路探究に繋げます。ここでは成果と課題を振り返り、キャリア観を俯瞰します。

- 導入 1～2 コマ 何をどう持続させる？
展開① 4 コマ どの探究手法を使う？
展開② 2 コマ 良いプロジェクトとは？
まとめ 自分の在り方生き方とは？

変化は…∞

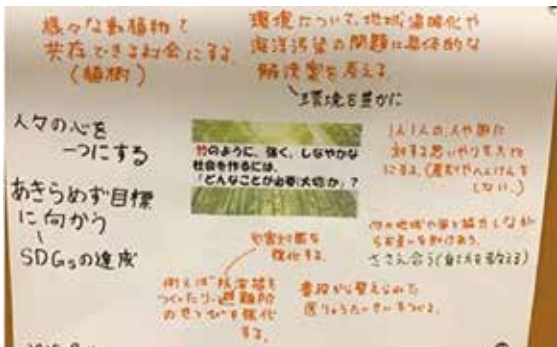
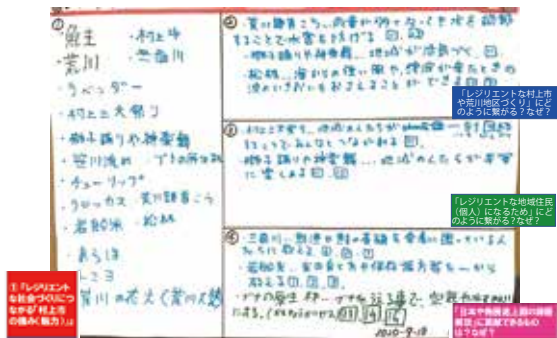
本指導案は SDGs を中核に組織連携を通して学校や地域を巻き込みながら各学年で長期的に探究活動を展開することをねらったものです。キャリアパスポートを通して生徒の変容を見取ります。Step1 から Step3 までの指導案詳細は別刷り「指導案後半：8つのポイント（テーマ設定、情報収集、連携する外部組織の選択、インタビュー方法、まとめの方法、発表の場、生徒同士の学び、振り返り）」で実践授業に基づき記述しています。授業者が生徒の実態や地域の特色等に応じて適宜選択し授業デザインしていただけたらと思います。

【STEP1】（知る）SDGs × 組織連携 × 資源 × 自分

実施の目的：選択したテーマをもとに「持続可能な社会づくり」を追究する学習や、自分の考えをまとめ他者に働きかける発表を経験させることで、今後の探究学習の土台づくりとする。

生徒の目標：① SDGs に取り組む企業、事業所の様々な取組を学ぶことで、その特性や資源を深く知る。
② SDGs のレンズを活用し「持続可能な社会づくりに大切なこと」について自身の考えをもつ。
③ 他者に気づきや行動の変容を呼びかける発信力を身につける。

事前の準備物：ワークシート

目安時間	内容
導入 1～2 コマ	“持続可能な社会づくり”に大切なことは・・・？ イメージをもたせるための一例 【知る】資源（もの・技術）を活かした国際協力の事例を知る。 (例) JICA-Net Library (https://www.youtube.com/c/JICANetLibrary/playlists) (例) JICA 広報誌 mundi (https://www.jica.go.jp/publication/mundi/index.html) (例) JAPAN SDGs Action Platform (https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html)    私たちの地域にあるものが強みになる！ 【問い】「持続可能な社会づくり」に大切なことは何だろう？ ・ 班で話し合いながら、マインドマップを用いて書き出す。 【ワーク】関連する資源と SDGs の番号を別の色のペンで書き足す。   【例】 「竹のように強く、しなやかな（レジリエントな）社会づくり」をテーマにしたマインドマップの例です。ここでは、「JICA 草の根技術協力事業 丸森ザンビアプロジェクト」を紹介しました。2 時間目に、地域資源がそれぞれレジリエントな「人」「地域」「国」にどのようにつながるか考えました。 「〇〇は□□に活かそう」という期待でも良いです

目安時間

内容

探究学習テーマを深める問いとは？

【準備①】 探究テーマとインタビューする事業所の決定

・ 班ごとに、探究したいテーマを考える。

・ 探究テーマに合う取組をしている身近な事業所を探し、インタビューを依頼する。

<補足 1 >

SDGs Action

にいがたSDGs

インタビュー方法は、オンライン・オフラインどちらでも可能です。

(例) Japan SDGs Action Platform (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/case/org1.html>)

(例) SDGs にいがた (<https://sdgs-niigata.net>)

【例】

	各班の探究テーマ	SDGs 実践エキスパート (敬称略)
1	地域の再生可能エネルギーで地球温暖化 STOP!	新潟スワンエナジー (株)
2	日本初! 米を原料としたバイオマスプラスチックとは?	(株) バイオマスレジ南魚沼
3	外国からの持続可能な原料調達と製紙業	北越コーポレーション (株)
4	村上市で南国フルーツがとれる理由は? ～地域資源を活かした循環型農業～	(株) 開成
5	人と街と地球にやさしい家づくりとは?	(株) ナレッジライフ
6	テクノロジー×大学× SDGs で世界の課題解決へ!	長岡技術科学大学

【準備②】 調べ学習とインタビュー先への質問づくり

・ 事業内容、理念、SDGs との関連などを調べ、まとめる

・ 「持続可能な社会づくり」を深めるための質問を 10 個考える

インタビューの 1 ヶ月前には担当者に送りましょう。

【調べ学習まとめ例】

【1 年 2 組 7 班のテーマ】

SDGs に本気で取り組むコーヒの魅力とは

①インタビューの日程

11 月 13 日 (金) 4 時 00 分 ~ 5 時 00 分

②インタビュー先

鈴木コーヒ

③どんな取組をしているところか。

・ コーヒの味はいいと通じて SDGs の PR 活動をしている

・ 売上げの一部を公益財団法人「環境・サステナブル・ニッポン」に寄付している

・ サステナブル・ニッポン (コーヒと環境の取り組み)

・ その理由 1, 3, 4, 12, 14, 17 に関連する取組をしている

・ 物産産地

④何を学びたいか (調べ学習の目的・課題・ポイント)

・ なぜ SDGs に取り組むと思ったのか?

・ 私たち中学生が SDGs 達成に向けて、できること、意識すること、学んだ生かすことはあるのか?

・ 何をするにも CO2 は出ると思うが、CO2 の排出量を減らすために工夫

⑤関連する SDGs の番号と、その理由

●SDGs の番号 (1, 3, 4, 12, 14, 17)

●その理由

1... 気候変動の被害を減らすために、気候変動対策

3... 働きがいのある人間らしい働き方、社員への成長とつながりを通じて

4... 高品質な製品で強く競争力を持つ

12... 食品ロスを減らすこと

14... 海洋資源を持続可能な方法で利用し、海の豊かさを守ること

17... 世界の目標を達成するために力を結ぶこと

【質問例】

・ 現在使用している肥料に SDGs は関係していますか。関係している場合は、どのゴールに関係していますか。

・ SDGs を自分事にするために、新聞を読む時のポイントはありますか。

・ 食品ロス対策として、何か工夫して取り組んでいることはありますか。

・ 御社のバイオマスプラスチックは、新潟県内で、どのような製品に、どれくらい使われているのでしょうか。また、県外での使用はありますか。

・ バイオマスプラスチックの原料に米を選んだ理由は何かですか。

・ 普段物を購入する際、商品の選択や消費において、私たちが気を付けるべきことがあれば教えてください。

目安時間	内容
展開① 3コマ	【準備③】 事前学習発表会 ・ 学年もしくは学級で、テーマの異なるメンバーで班を編成し、インタビューの目的や事前学習で調べた内容、学びたいこと等を発表する。 ・ 聞き手は付箋に、興味深かったことや自分のテーマとの関連、追加して聞いてほしいことなどを書き、発表者に渡す。 多様なテーマで探究する仲間からのコメントには多くの気づきがあるはず！ 元の班で付箋を持ち寄り、インタビュー内容を深めましょう。 
展開② 1コマ + 2コマ + 2コマ	実際にどんな取組がある？ 【知る】 県内の事業者インタビュー 外部組織と出会う！ ・ 班ごとに、事業者に関わるインタビューを行う。世界や地域の課題を解決するための取組や考え方を学ぶことで、「持続可能な社会づくりに大切なこと」を考える。 <補足2> (例) 探究学習会の流れ (60分) ①探究学習の趣旨説明 ②生徒自己紹介 ③担当の方より、簡単な自己紹介と事業(活動)説明 ④インタビュー ⑤フリートークタイム ⑥心に残った言葉と感想発表 ★付箋に「心に残った言葉」を記入、カメラに映しながら感想を発表する。 ⑦お礼の言葉 ⑧写真撮影 今だけでなく、何十年先の未来を考えているんだなあ。 【振り返る】 学習のまとめ ・ 学びをまとめ、「持続可能な社会づくりに大切なこと」について自分の考えをもつ。 (まとめ学習の例 ①振り返りシート、②礼状、③レポート) <補足3> 

目安時間	内容
	【発表】プレゼン大会 ・他者に気づきを与えたり、行動の変容を呼びかけたりするためのプレゼン大会を学年合同で行う。お互いの発表を聞き、相互評価を行う。＜補足4＞ ・4分プレゼンの型の例 ①つかみ（自分の問題意識、テーマを選んだ動機） ②探究学習の学び ③コアメッセージ（持続可能な社会づくりやSDGsの達成を目指して取り組みたいこと、聞き手への呼びかけ） （例）生徒90名のプレゼン班編成 テーマの異なる生徒9名編成＜発表時間4分＋評価記入時間1分＞ →メンバーを変えて、2ラウンド行う。 レポートをA2に拡大し、ポスタープレゼンとします。 自分はどうありたいか？どう生きたいか？という問いがキャリア形成につながります！ 各発表会場の担当者への説明例。会場の雰囲気作りも大切です。 担当の先生方、よろしくお願いいたします！ 2021年1月21日 オンライン新潟巡検×SDGs プレゼン大会 ☆昼休み前に、レポート拡大版、評価用紙を配布。名前を記入。 ＜プレゼン大会の流れ＞ ① 先生による説明（流れの確認、発表者は…大きい声で頑張れ！、聞く人たちに贈るプレゼンはプレゼント、聞く人たちは…温かい気持ちで聞く。評価用紙は丁寧に。記述部分は内容について伝わるようしっかり書こう。） ② (4分プレゼン＋3分評価用紙記入) × 6名を前半・後半の2セット。 ③ プレゼン後、発表者に評価用紙を渡す。 ④ 全員が発表したのち、教師は労いの言葉を伝える。講評。 ※教師は発表者に発表時間を伝える。 ※発表会は、ホワイトボードにポスターを貼り付けて発表する。 ※プレゼン大会後、発表者は原稿に評価用紙をはさみ、提出する。 1月21日(木)スケジュール ● 昼休み…会場セッティング ● 昼休み中に最終練習！ ● 13:45～13:50 説明 ● 13:50～14:35 前半発表 ● 14:35～14:45 休憩 ● 14:45～15:35 後半発表 プレゼンのチェックポイント例。「何のためのプレゼンか？」生徒自身が考えられると良いですね。 ☆チェックポイント☆ (1) プレゼン内容について ① □ 最初のつかみ(問いかけや動機)は、聞き手を引き付ける内容ですか。 ② □ 「新潟巡検での学び」を具体的に説明していますか。(テーマ、インタビュー先について、訪問先で特に心に留めた言葉、など) ③ □ 「SDGsとの関連」を理由も含めて分かりやすく説明していますか。 ④ □ 「持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと」を自分の考えを、理由と共に説明していますか。 ⑤ □ 最後のコアメッセージは、聞き手が問題意識をもったり、行動を起こそうと思うような内容ですか。 (2) プレゼン態度について ① □ 話すスピード (聞き手が理解できるスピードで) ② □ 間の取り方 (強調する言葉の前は、ためて話す) ③ □ 声の大きさ (自分にしか聞こえない声では伝わらない) ④ □ 抑揚 (×棒読み ○強調する ○感情を込める ○聞き手に話しかけるように) ⑤ □ アイコンタクト (×原稿をただ読むだけ ○聞き手一人ひとりと見ながら) ⑥ □ ジェスチャーやモノを使う (×棒立ち) (3) プレゼン時間について □ 3分50秒～4分10秒だった。

目安時間	内容
まとめ 1コマ	これからの生活や学習、今後の生き方にどう活かす？ 【まとめ】 1年間の学びを振り返る（キャリアパスポートの活用） ・ 学習・プレゼン大会を終えて考えたこと、学んだこと、自身の変化、感想。 ・ 1年間の学びを振り返り実感した自分自身の変化（興味・関心、考え方、学び方、生活、行動など） ・ 1年間の学びを、これからの生活や、学習、今後の生き方（進路選択・職業選択）にどのように活かしていくか。 ・ 1年間の学びを活かして今後やってみたいこと。 将来は、地球に優しい 製品を作りたい！ いろんな企業が地球温暖化対策に取り組んでいるんだなあ。 家族に節水を呼びかけ ようになった！ （+α）まとめとして、探究学習×SDGsを行う県内外の学校と交流授業をすると、お互いに刺激となったり意欲が高まったりします。 【1年の学びを振り返るためのワークシート（例）】 ※これを、キャリアパスポートと連動させると良いでしょう。

<補足1> 生徒自身で考えることが難しい、時間に余裕がない場合は、教師側で用意し、生徒に選択させます。なるべく多様なテーマが揃うと良いでしょう。

<補足2> オフラインの場合は、現地でのフィールドワーク、社内見学、ワークショップをしていただく、など様々な形があります。事前に担当者と打ち合わせをしましょう。

<補足3> 振り返る視点の例①考えたこと、興味をもったこと、もっと調べてみたいと思ったこと、②一番心にレゼン残ったこと、心に響いた一言、③ SDGs との繋がり、持続可能な社会づくりに大切なこと、④これから自分が周りの人と協力して取り組んでいきたいこと、⑤担当者へのメッセージ、等

<補足4> 「自分の学びだけで終わらせない」「他者に気づきを与える発信を行うことで、みんなが行動者に」などプレゼンを行う目的を語ると生徒の意欲がアップします。

【STEP2】（広げる）SDGs × 組織連携 × アイデア × 自分

実施の目的：SDGs を世界規模で捉えなおすために、世界の様々な課題を知り、多様な視点で地域課題を捉え直し、自らの生き方あり方を問い直す。

生徒の目標：自分ごととして世界と関わるために、世界の SDGs 課題について探究し、課題解決のためのアイデアを明確にする。

事前の準備物：付箋、PC

目安時間	内容
導入 1～2 コマ	世界の課題って何だろう？ 【問い】 〇〇年後の世界はどんな形だろう？ （例）技術革新が進んで、よりよい世界になっている。 格差が広がって、住みづらい世界になっている。 どんな回答も否定しない 【問い】 世界における解決すべき課題はなんだろう？ 【問い】 将来はどんな世界に住んでみたい？ チームで発表するのでもいいかもしれません！ 【ワーク】 地域のリソースを使ってよりよい未来を考えよう ・金沢工業大学 SDGs 推進センターが開発した、「アクションカードゲーム X (クロス)」を使用して、地域のリソースを活用して世界の課題を解決するためのアイデアをグループで出し合う。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/education/application/game-1.html  【知る】 今、世界にある様々な課題 ・グループ毎に調査する国を決めて、その国の SDGs 課題を SDGs Index and dashboard の結果と関連させて表にまとめる。 https://www.sdgindex.org/reports/sustainable-development-report-2021/  データを比較する際に自分たちの地域のリソースを使って解決できる要素があるか聞き、データと生徒たちの考えを関連させてみましょう。

目安時間	内容
展開① 2～3 コマ	世界の課題を解決するには？ 【ワーク】世界の様々な課題を自分たちのアイデアで解決しよう。 ・グループ毎に調査した国の SDGs 課題に対して、「アクションカードゲーム X（クロス）」で出されたアイデアやリソースを使って、解決策を提案する。 (例) ・ネパールの地域格差解消のために、地元の IT 企業と提携して、村落部の産業の販路を拡大する。 ・ガラパゴス諸島の自然保護と観光業を両立させるために、オンラインツアーを地元の NPO と企画し、ファンドレイジングにつなげる。 ・教育格差を解決するために、地域のネットワークインフラを活用して、日本の中学生と学び合う場をオンライン上に作る。 ・住み続けられる街づくりの実現のために、パートナー国とお互いの街の利点と課題を、Minecraft を使用してプレゼンする。その中で補い合える解決課題を見付け、自治体にアイデアを提案していく。 課題に対して様々な観点からアイデアを出し合うことで、柔軟に考えていくことができます。 【深める】専門家にインタビューをしてアクションプランを練り直そう。 ・アクションプランを深めるために、関連企業に従事する方、大学生や青年海外協力隊 OV にインタビューを行う。 ・インタビューをして新たに得た視点や知識から、アクションプランを練り直す。 これをもとに、レゴや Minecraft を使用して実際の街づくりアイデアを深めることができます。 外部組織からアイデアをもらいます！
展開② 4～5 コマ	どんなアクションが起こせるだろう？ 【準備】アクションプランの企画書と紹介動画を作成し、発表の準備をしよう。 【発表①】インタビューを行った組織に再度提案し、プランの妥当性について評価してもらう。 【発表②】アクションプランを校内で共有し、相互評価・意見交換を行う。アクションプランを下級生へ引き継ぐ。 【発表③】学校公開において、保護者や地域、外部組織等にアクションプランを紹介し、地域との繋がりを深める。 外部の組織と連携することにより、多様な視点で世界や地域の課題を捉え直し、自らの生き方あり方を問い直す機会とします。
まとめ 1 コマ	地域のリソースはどのように使えるだろう？ 【まとめ】1 年間の学びを振り返る（キャリアパスポートの活用）

【STEP3】（変える）SDGs × 組織連携 × 変容 × 自分

実施の目的：外部組織と連携しながら課題解決を図り、Step1、2 と経て自分の変化を振り返り、自らの生き方やあり方を問い直す。

生徒の目標：① SDGs ○○を中核に外部組織と連携して課題解決に挑む、②成果や課題を後輩に継承する、③探究手法を進路探究に活かす

付属資料：ワークシート

目安時間	内容
導入 1～2コマ	「何をどう持続させる？」〈ワークシート pp.1-14〉 【問い】 課題を ESD 目標で捉え直すと？ - ESD 目標の理解〈ワークシート pp.5-12; 資料1〉 【ワーク】 英語定義文を自校に合わせて日本語に意識する『〇〇版 ESD 目標』 - ブレーストーミング 8つのキーコンピテンシー（能力）をグループに割り振り、タイトルと定義文を自校に合わせて意識する (例) Strategic competency: the abilities to collectively develop and implement innovative actions that further sustainability at the local level and further afield. 戦略的能力： 〇〇の少子高齢化を食い止める、革新的で持続可能な行動（解決策）を地域及び離れた地域で住民と共に考え、実施する能力 - 記録 グーグルスライドで共同編集する - 探究プロジェクトの概要作成〈ワークシート pp.13-14〉 グーグルクラスルームに提出する 意識の正確さはあまりこだわらないで！英語でできない場合は日本語を使用する。 他のチームはあんなこと考えてるんだあ

目安時間	内容
展開① 2コマ + 2コマ	どの探究手法を使う？〈ワークシート pp.15-17〉 【知る】統計手法 - 探究テーマの設定、情報収集、分析、まとめ方を学ぶ (例) i ○○○○○○○○ ○○高校○○年 ○○○○ ii 要旨 iii 背景・目的 v 結果・考察 iv 研究手法 vi 結論・まとめ vii 参考文献、参考文献  コンテスト等のゴールを見せます。ライバルは校外！ よし！がんばろう！ 「構想発表会」を事前に設定するのも良いでしょう。 【中間発表会】〈ワークシート pp.18-19〉 - 以下の基準で探究行程を評価する ① SDGs との関連が自覚できているか ② 統計的解釈があるか ③ 所属学校集団以外との連携があるか (学校・地縁組織・NPO/NGO・学術／研究機関・自治体・企業)
	探究活動例 これまでの探究活動の繋がりを活かして課外活動として展開します。 ・ 森林組合や地元企業と共同で小学生への木育プログラムを作成実施。ビジネスプランに基づき事業所と間伐材の商品化。積み残した課題は下級生へ。 ・ 地方気象台と地元大学の指導に基づき防災プランを学校と自治体へ提案。教科英語とも連動させ、海外学校と防災をテーマに交流。小学校への出前授業立案。 ・ イベントを地元 NPO と企画。学校行事と絡めてプログラム開発。集客力を高めるためアプリ開発企業に相談。

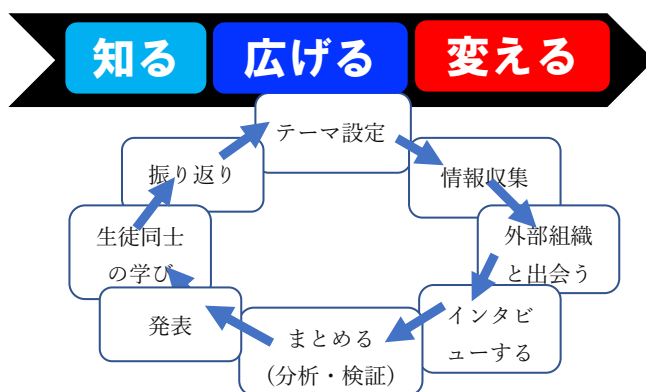
目安時間	内容
展開② 1コマ + 1コマ	良いプロジェクトとは？〈ワークシート pp.20-21〉 【学年発表会①】 ・学年でベスト3プロジェクトを選出する   外部の大人や専門家とながると課題へのアプローチ法が激変します。 自分たちにもこんなことができる！ 【学校発表会②→地域内外発表会】 ・他学年選出プロジェクトも含めて、外部組織関係者を招いた探究成果発表を実施する   先輩すごい！ 若いのもやるな！ ・コンテスト等に応募し発表する  ドキドキ… まだまだだあ… 厳しい…
まとめ 2コマ	自分の在り方生き方とは？〈ワークシート pp.22-25〉 【問い】 良いプロジェクトを実現するには？ ・探究成果と課題を下級生に引き継ぐ ・応募コンテスト一覧をまとめ、校内で共有する ・〇〇版 ESD 目標を下級生に引き継ぐ 次年度も縦割り探究を！ 【まとめ】 変わった vs 変わらなかったこと&変えたかった vs 変えるべきだったこと ・キャリアパスポートにまとめる ・進路実現に向けて探究手法を整理する 様々な手法を活用してキャリア形成を一緒に楽しむ！

<補足>

関心のある進路や職業と関連させて個人で取り組むこともできます。Step1、2の探究活動を経て、インタビューや統計等の手法も取り入れながら、最後は個々の進路探究に繋がります。進路探究の成果等も最下級生に発表すると、憧れのモデルを身近に見つけ、これから自分に起こる学校生活や行事等の目標・目的を明確化できます。最上級生は内容を噛み砕いて発表するスキルを磨き、物事の本質に迫る機会を得ることができます。発表会の企画運営も生徒に任せるとよいでしょう。

★各ステップのポイント

- 1 テーマ設定は？
- 2 情報収集は？
- 3 どのような外部組織と連携する？
- 4 インタビュー方法は？
- 5 まとめの方法は？
- 6 発表の場は？
- 7 生徒同士の学びをどう促す？
- 8 自身の生き方・あり方を考える振り返りは？



	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
①テーマ設定	・SDGs と関連し、地域と関わりのあるテーマを教師が用意。生徒が選択する。	・世界の課題から、生徒がテーマを設定する。	・ESD 目標を地域版に意識したのち生徒がテーマを設定する。
②情報収集	・企業の HP ・SDGs との関わり	・SDGs INDEX	・データサイエンス (gacco、RESAS、e-STAT)
③外部組織との連携	・県内の大学 ・企業 ・事業者 ・自治体	・大学 ・企業 ・JICA 海外協力隊 OB ・NPO	・学校 (小中高大、高専) ・NPO ・学術研究機関 ・自治体 ・企業
④インタビュー方法	・「持続可能な社会づくり」に関する質問事項の作成	・アクションプラン企画提案会	・プロジェクトへのフィードバック
⑤まとめの方法	・振り返りシート ・礼状 ・レポート	・動画でまとめる	・探究論文・ポスター・動画・コンテスト等応募形式
⑥発表の場	・小グループプレゼン ・学年発表会 ・他校との交流授業	・外部組織への発表 ・学年発表会 ・学校発表会 ・地域内発表会 ・各種コンテストへの参加	・外部組織への発表 ・学年発表会 ・学校発表会 ・地域内外発表会 ・各種コンテストへの参加
⑦生徒同士の学び	・付箋によるコメント (中間発表会) ・相互評価 (プレゼン)	・相互評価	・相互評価
⑧振り返り	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート

①テーマ設定は？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
①テーマ設定	・SDGs と関連し、地域と関わりのあるテーマを教師が用意。生徒が選択する。	・世界の課題から、生徒がテーマを設定する。	・ESD 目標を地域版に意識したのち、生徒がテーマを設定する。

Step1 から地域→世界→地域や世界、と段階を経ることで、Step3 では諸課題に「自分も取り組みたい」という気持ちがマックスになります。また、Step2 で一度地域から離れてみることで、地域の魅力や課題がより浮き彫りになります。段階を経るごとに自らテーマを設定できるようになります。

〈Step1 テーマ例〉地域と関わりのあるテーマ

最初のステップでは、地域と関わりのあるテーマを教師が複数用意し、生徒に選ばせてもよいでしょう。外部組織にインタビューをする場合は、このテーマ設定の段階からテーマに関連のある企業等にアポイントメントを取っておくと良いでしょう。

(例)「外国からの持続可能な原材料調達と印刷産業」「気候変動・地球温暖化の実際と対策を学ぶ」「持続可能なエネルギー生産とは?」「教育・芸術×SDGs ～平和で公正な社会を当たり前に～」「水辺から始まる生態系ネットワーク」「地球や人に優しいエシカルな消費とは?」「障がい者の活躍～就労支援×チョコレート～」「省エネハウス×SDGs ～日本エコハウス大賞の要因を探る～」「一歩進んだ地球温暖化対策とは?」「私たちにできる国際協力を学ぶ」「地域の再生可能エネルギーで地球温暖化 STOP!」「持続可能な社会づくりのための銀行の役割とは?」「世界農業遺産に登録された地域が目指すものとは?」「日本初!米を原料としたバイオマスプラスチックとは?」「人と街と地球に優しい家づくりとは?」「テクノロジー×大学×SDGs で世界の課題解決へ!」「SDGs 未来都市の取組とは?」「北国で南国フルーツがとれる理由～地域資源を活かした循環型農業～」「SDGs ×スーパーの取組とは?」

〈Step2 テーマ例〉私たちがつなげる「ジモト」と「セカイ」

中学1年で学んだ地域と関わりのあるテーマ学習を生かして、自分の住んでいる町と世界との関わりを考えます。

(例)IT企業と連携して、ネパール農村部の販路を拡大しよう／観光協会と連携して、ガラパゴス諸島のオンラインスタディツアーを企画しよう／漁業組合と連携して、新鮮な魚の販路を拡大しながら海の豊かさを守ろう／森林組合と連携して端材を用いた工芸品を販売しよう

〈Step3 テーマ例〉ESD の目標

SDGs を活用した地域探究経験者向きです。地域の課題をSDGsを通して捉え直します。何を目的に学ぶのか、学びを通してどのような思考態度やスキルを身に付けるのか、ユネスコが掲げる教育目標に照らし合わせて考え直してみます。少し高度な活動ですが、「みんなと一緒に探ってみる」という感覚で取り組むと楽しくなると思います。難しい言葉を自分たちの状況に合わせて意識すると、ユネスコが掲げる目標もぐっと身近に感じるようになります。この活動をしたからテーマが浮き彫りになるというより、この活動を経ることで、これから取り組む探究活動が最終的にどのような力の育成につながるのか、という「振り返りの視点を得ること」につながります。



〈その他の例〉

(1) 日本が抱えている社会課題から

- ・SDGs を視点に、日本が抱えている社会課題や様々な取組を知り、〇〇市でできることを考える。(社会課題解決中 MAP より)

(選んだ課題について、現在行われている取組について、〇〇市の課題に繋がると
思うこと、〇〇市で行っている取組、課題解決のために、自分ができること)



(2) 問いづくりから

- ・持続可能な地域づくりや社会課題の解決に取り組む『問い』を立てる。

(興味のあるテーマを選ぶ、情報・データ収集、仮説・発見「〇〇すれば～になるのではないかな?」、問いづくり「課題解決型の問い」「資源活用型の問い」)

【参考文献】『実践 地方創生×SDGs 持続可能な地域のつくり方

未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』 寛裕介 著 (英治出版)

(3) 「地域を歩いて気づいたこと」から

- ・地域巡りをした後で「20年後も30年後も残したい〇〇地区の魅力は?それを残すためにすべきことは?課題は何だろう?中学生ができることは?」の問いに対して、マインドマッピングで書き出し、テーマを絞る。

(4) 「首長メッセージ調査×アクションカードゲームクロス」から

- ・HPを見れば手軽に首長メッセージを知ることができます。首長は地域の課題をいつまでもどう取り組もうとしているのか、それにどんな人が賛同/反論しているのか、これを考えることで地政理解も進みます。首長に実際に話してもらうとより身近に課題を捉えられます。(下図その1参照)
- ・地域課題の理解を踏まえてアクションカードゲームクロスに取り組むと、限られたリソースから発想を広げる楽しさも味わえます。その後のテーマ設定に役立つでしょう。



(5) 地域会議を通して

- ・地域では様々な団体による会議が行われています。どのような団体がいつまでにどんなことをどのように達成しようとしているのか、実際に見たり聞いたりできます。課題そのものが見えるのでテーマ設定に直結します。(下図その2・下図その3参照)

第1回津南未来会議(5/28)(その1)

- ・桑原町長・・・日本一生き生きとした町を目指したい!しかし、課題を先送りしている、人口減少が激しい、がけつぶちだ、しかしまだリカバリーするチャンスはある、皆の知恵と活動を結集して未来を切り開きたい、解決策の一つが人々の交流によるつながりづくり、町の中の住民同士と住民とよその人のつながりを活発にすることで課題を乗り越えていきたい、そのために既存の組織を超えたDMOを課題を乗り越える場として創り上げたい。

地域がよくなるためには(その2)

○現状の問題点、心配、不安!

- ・近隣がシャッター街に、子ども達が外で遊ばない、秋山郷の10年後は大丈夫か、雪の魅力と言ってもスノーボードしか楽しめない、子ども達が閉じ込められた環境にすぎない

○こういう町でありたい、10年後にはこんな町にしたい!

- ・子ども達に戻ってこいと自信を持って言えるように、高齢者が暮らしたい町ナンバーワン、都会の人が望むものがなんでもある町

→皆で議論してこういう取り組みをしたい!

皆で議論してこういう取り組みをしたい(その3)

- ・移住しやすい仕組み
- ・農村の景色を守る
- ・子ども達が外で遊べるように
- ・お年寄りが生き生きとしている場
- ・皆が共生できるように
- ・つながりを大切にする町
- ・子どもと大人をつなげる場
- ・横つなぎ出来る町
- ・津南学など地元を知る活動
- ・農業で稼げるように
- ・世帯所得をアップさせたい
- ・観光客など外の人から評価されるように
- ・なじもんを観光体験アトラクション施設に
- ・民泊
- ・特産品の販路拡大
- ・おにぎりギネス挑戦
- ・まちなかにお金を落とす仕組み
- ・おいしいものを発信
- ・グリーンツーリズムジオツーリズムを活かした教育旅行
- ・最大の財産である雪を活かす

②情報収集は？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
②探究方法	・企業の HP ・SDGs との関わり	・SDGs INDEX	・データサイエンス (gacco、RESAS、e-STAT)

Step1 から Step3 と段階を経ることで、より自立的に情報にアクセスできるようになります。また、その情報が確かかどうかの判断力も高まっていきます。各組織からの情報がどのように収集され、発信されているかを直視することになるので、それはその後の③組織連携、④インタビュー方法、⑤まとめ方、⑥発表方法にまで関連して生きてきます。

〈Step1 情報収集例〉

テーマが決まったら、「自分は何を知りたいのか」を明らかにし、調べ学習を行います。外部組織にインタビューをする場合は、①何をしているところ？②企業理念は？③SDGs との関連は？④この分野はすごい！ということとは？⑤持続可能な社会やレジリエントな社会づくりにつながる取組は？⑥その他、などについて調べてからインタビュー内容を考えると良いでしょう。右図のようなワークシートを用意すると、生徒はまとめやすいと思います。

右図の例では、生徒は企業の HP を見て、取組等をまとめ、そこから SDGs との関連を考えました。実際にインタビューを行う前に、SDGs のレンズを通して、企業の取組を理解しておくの良いでしょう。このワークシートを、全テーマ分をコピーし、一覧にまとめて配布すると、他の班のテーマから横断して学ぶことができ、充実した事前学習になるでしょう。

【1年2組7班のテーマ】 SDGs に本気で取り組むコーヒーの魅力とは	
①インタビューの日程	11月13日(金) 4時00分～5時00分
②インタビュー先	鈴木コーヒー
③どんな取組をしているところか。	・コーヒーのほろほろを通してSDGsのPR活動をしている ・売り上げの一部を公益財団法人・日本赤十字社に寄付している ・また、SDGsの13(気候変動)・14(海洋資源)・17(パートナーシップ)に関連する取組をしている
④何を学びたいか (質問事項の5分以内を想定)	・なぜSDGsに取り組もうと思ったのか？ ・私たち中学生からSDGs達成に向けて、できること、意識すること、学ばなければならないことはあるか？ ・何をするにもCO2は出ると思うが、CO2の排出量を減らすために工夫
⑤関連するSDGsの番号と、その理由	●SDGsの番号(1,3,4,12,14,17) ●その理由 1... 支店の必要分所には全支店活動 3... 働いている社員が、社員生活と17(パートナーシップ)支援 4... 商品が買われていくと、社会が豊かになる 12... 食品ロス削減 14... プラスチックの再利用、削減 17... 世界のコーヒー農産物を支えるために、11(持続可能な消費)も必要

〈Step2 情報収集例〉

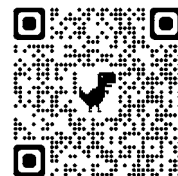
テーマが決まったら、SDGs INDEX (<https://www.sdginde.org/>) を活用して、自分たちの興味のある国の情報を収集します。対象となる国の情報を俯瞰的に見るために、SDGs Index Rank と特に顕著な Trends (傾向) を調べるように伝え、地元企業との連携の可能性について考えます。



〈Step3 情報収集例〉

教師のサポートをほとんど必要とせず、自ら情報収集からまとめ方まで、場合によっては発表方法まで盛り込んだプランニングになります。

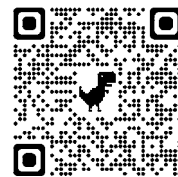
- ・ gacco：無料の学習プラットフォームです。メールアドレスを使ってアカウントを作成後、必要な情報にアクセスします。自分のペースで学習できます。グループは視聴するプログラムを分担するとよいでしょう。統計手法や AI を使ったビジネス展開などについても学習できます。



- ・ RESAS：地域経済分析ツールで、課題発見＆分析＆解決、情報収集＆分析＆活用、論理的思考、プレゼンテーション、それぞれ授業モデル指導案を入手できるので、ねらいに応じて活用することも可能です。生徒が使用する場合は、テーマが決まった段階で活用すると多角的・複眼的に課題に迫ることができます。また、テーマに応じて表やグラフなどが自動出力されるので作成の手間が省けます。コロナ禍の経済関連も調査できます。内閣府地方創生推進室主催の「地方創生・政策アイデアコンテスト」と連動しているので、RESAS を活用した探究をコンテストに応募したり、他団体の発表を聞いたりして、新たなつながりを作る場としても使えます。



- ・ e-STAT：政府統計を活用するためのツールで、テーマが明確な場合に役立ちます。主張をより客観的にサポートするために活用します。RESAS と同じく表やグラフを自動出力してくれるので作成手間が省けます。



③ どのような外部組織と連携する？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
③外部組織との連携	・ 県内の大学 ・ 企業 ・ 事業者 ・ 自治体	・ 大学 ・ 企業 ・ JICA 海外協力隊 OB	・ 学校 (小中高大、高専) ・ NPO ・ 学術研究機関 ・ 自治体 ・ 企業

Step1 から Step3 と段階を経ることで自発的に、かつ zoom 等のデジタルデバイスを活用して地理的・金銭的・時間的な問題も解決しながら組織にアプローチできるようになります。一度関係が確立できた団体とはその関係を継続したいものです。様々な人を巻き込みながら探究が展開されます。

〈Step1 の例〉

連携する外部組織は、生徒や教師がインターネットや新聞、書籍などから見つけたり、ネットワークを使い繋がったりと様々です。外務省の Japan SDGs Action Platform (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/case/org1.html>) には、SDGs に取り組む全国の企業の HP リンクがあります。こちらから調べても良いでしょう。「地域創生プラットフォーム SDGs にいがた」の情報を参考にし、リストアップした例は以下の通りです。

	各班の探究テーマ	SDGs 実践エキスパート (敬称略)
1	電気自動車を活用した地域 SDGs の取組とは？	新潟国際情報大学
2	地域の再生可能エネルギーで地球温暖化 STOP!	新潟スワンエナジー (株)
3	持続可能な社会づくりのための銀行の役割とは？	(株) 第四銀行
4	SDGs × スーパーの取組とは？	原信ナルスオペレーションサービス (株)
5	島の大自然や人の温かさをたっぷり詰め込んだゲストハウスの魅力とは？	粟島ゲストハウス おむすびのいえ
6	世界農業遺産に指定された地域が目指すものとは？	佐渡市の農業従事者
7	新聞社 × SDGs ～『地方創生プラットフォーム SDGs にいがた』が目指すこと～	(株) 新潟日報社
8	SDGs × 循環 × 地域の特産物『バナナ』とは？	シモダ産業 (株)
9	日本初! 米を原料としたバイオマスプラスチックとは？	(株) バイオマスレジン南魚沼
10	SDGs 未来都市の取組とは？	見附市
11	外国からの持続可能な原料調達と製紙業	北越コーポレーション (株)
12	村上市で南国フルーツがとれる理由は？ ～地域資源を活かした循環型農業～	(株) 開成

	各班の探究テーマ	SDGs 実践エキスパート（敬称略）
13	地球や人に優しい消費のあり方とは？	にいがたフェアトレード推進委員会
14	水・食・エネルギー× SDGs	(株) テクノシステム
15	人と街と地球にやさしい家づくりとは？	(株) ナレッジライフ
16	SDGs に本気で取り組むコーヒー店の魅力とは？	(株) 鈴木コーヒー
17	テクノロジー×大学× SDGs で世界の課題解決へ！	長岡技術科学大学
18	水辺からはじまる生態系ネットワーク	水の駅 ビュー福島潟

〈Step2 の例〉

この段階では生徒が考えた地元企業と各自で設定した相手国との間で連携できるアクションプランの企画を深めていきます。教師はあらかじめ大学のゼミナールや上級学校と調整をし、生徒の企画を評価してもらうよう依頼します。生徒に早い段階でアウトプットの機会を提供することで、企画を言語化し、より具体的なアイデアを作り上げます。

〈Step3 の例〉

テーマに応じた団体に各々でアプローチします。取り組み（プロジェクト）が多くの関係者に及ぶほど、教師のサポートも必要になります。大きくて良いインパクトが想定される場合は、そのプロジェクトを学年や学校全体の行事やカリキュラムに取り入れることも考えます。大きくて良いインパクトは外部組織の協力が必須で、「特定の生徒だからできた」のではなく「この学校の誰でも取り組める」プロジェクトとして長期的スパンで学校に根付かせることが大切です。

〈その他の例〉

- ・各種レポート（SDGs 関連）で頑張る組織を知りコンタクト

④インタビュー方法は？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
④インタビュー方法	・「持続可能な社会づくり」に関する質問事項の作成	・アクションプラン企画提案会	・プロジェクトへのフィードバック

インタビューは枠にはめてスタートしますが、Step を経るごとに連携目的が変化していきます。社会変革に本気で取り組む当事者と関われる経験は何物にも代えがたい貴重な経験になります。児童や生徒の本気度も高まり、それが当事者の本気度も高めることにつながります。

〈Step1 の例〉

最初のステップでは、事前学習をした後、学びたいことを「質問事項」にまとめ、インタビューの担当者に事前に送ります。調べ学習ではなく、実際のインタビューだからこそ学べることを質問するよう班内で深めましょう。

(例)

- ・「越後バナーナ」は、これまでにどのような人たちが関わってできたのでしょうか。
- ・環境保全のために、中学生ができることはありますか。
- ・現在使用している肥料にSDGsは関係していますか。関係している場合は、どのゴールに関係していますか。
- ・世界農業遺産に認定された9年間で、どのような変化がありましたか。
- ・佐渡の学校で、「朱鷺と共生を目指す米づくり」について学習することはありますか。
- ・「SDGs にいがた」の会員の皆様と、これからどのような取組をしていきたいと考えていますか。
- ・SDGs を自分事にするために、新聞を読む時のポイントはありますか。
- ・「地域循環共生圏」とはどのようなことでしょうか。
- ・食品ロス対策として、何か工夫して取り組んでいることはありますか。
- ・御社のバイオマスプラスチックは、新潟県内で、どのような製品に、どれくらい使われているのでしょうか。また、県外での使用はありますか。
- ・バイオマスプラスチックの原料に米を選んだ理由は何ですか。
- ・現在、私たちはSDGsについて学習しているところですが、御社の取組に私たちが貢献できることはありますか。
- ・普段物を購入する際、商品の選択や消費において、私たちが気を付けるべきことがあれば教えてください。

〈Step2 の例〉

自分たちの企画をスライドにまとめ、大学生に提案します。大学生にはあらかじめ企画の主旨を伝え、ゼミナールの研究内容とも関連づけられるように調整を行います。提案方法は、オンライン会議システムを使用し、移動のコストを下げました。生徒には企画提案の主旨を伝え、プレゼンの仕方やマナーについて指導を行います。やり取りの内容はワークシートに記入させ、改善点について共有を行います。

〈Step3 の例〉

良いフィードバックをもらうには誠意が大切です。すごい人はだいたい忙しいです(笑)。スピード感を持って対応するためにもメールやSNS、共有プラットフォームなどを使いこなすようにして誠意を忘れず行動することを心掛けたいものです。また、失敗もつきものです。失敗にめげないガッツ (grit) も大事ですが、落ち込んだ時はサポートが必要です。サポート体制も確立しておきたいものです。

〈その他の例〉

- ・インタビューを通してキャリアを開拓してきた大人にインタビューの心構えを聞く
- ・SNS・メール・電話・手紙・コネ

⑤ まとめの方法は？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
⑤まとめの方法	・振り返りシート ・礼状 ・レポート	・動画でまとめる	・レポート・ポスター(探究テーマの設定、情報収集、分析、まとめ)

Step1 から Step3 と段階を経るごとに、「知ってわかったこと」「広げてわかったこと」「変えてわかったこと」があります。それぞれを外部に発信します。これまでとは違う人たちからのフィードバックがもらえ、さらに探究心が深まります。

〈Step1 の例〉

Step1 では、まとめを「振り返りシート」、お世話になった事業者様への「礼状」、プレゼン発表で使用する「レポート」の3段階としました。各段階の振り返りのねらいを説明することで、生徒はより真剣に取り組むでしょう。中学1年生には、「振り返りのポイント」を与え、論理的に学びを表現するよう指導しました。この振り返りは、2年生の職場体験や修学旅行でも同様にできます。

[illegible]



〈Step3 の例〉

〈その他の例〉

外部組織との連携では、学習後のお礼状が大切です。協力していただいたお礼を、迅速に誠意を込めてお届けするのが鉄則です。「スピードは誠意」！一度繋がった外部組織との連携を今後も持続させるためにも、繋がりを大切に、心のこもったお礼状を書けるよう指導したいものです。

– 129 –

⑥発表の場は？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
⑥発表の場	・小グループプレゼン ・学年発表会 ・他校との交流授業	・外部組織への発表 ・学年発表会 ・学校発表会 ・地域内発表会 ・各種コンテストへの参加	・外部組織への発表 ・学年発表会 ・学校発表会 ・地域内外発表会 ・各種コンテストへの参加

Step1 から Step3 と段階を経ることで、より大きな発表の場をたくさん経験することになります。一度の経験で終わることなく、何度も経験する機会を与えましょう。失敗も経験するかもしれませんが、それが糧となり自信につながるよう導きます。

〈小グループの例〉

ブレインストーミングや場慣れがねらいです。様々な意見が出やすい雰囲気づくりが大切です。発表することが「心地よい」「ためになる」「もっと発表したい・知りたい」と思えるよう配慮する必要があります。

〈学年の例〉

共通の評価の観点を事前に共有します。共通の目的を共有することが大切です。

〈学校の例〉

聞き手が自分より年上か年下かで使う言葉等が変わります。目的に応じて伝える内容を吟味します。教師は学校全体のカリキュラムのねらいも更新するつもりで取り組みを評価します。

〈学校外の例〉

聞き手の状況に応じて伝える内容を吟味します。評価の観点が示されている場合はそれに則ります。また、この段階ではインパクトを与えることが目的なので、その目的が達成されたかを評価するようにします。

〈英語での発表〉

学習外国語を使用する機会を設けると授業や家庭学習の取り組み方法が変わります。通じる喜びを経験できるよう最初は入念に準備させ、段階を追って最終的には教師の支援なしでも意思疎通できるようスモールステップを用意します。

⑦生徒同士の学びをどう促す？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
⑦生徒同士の学び	・付箋によるコメント (中間発表会) ・相互評価 (プレゼン)	・相互評価	・相互評価

Step1 から Step3 と段階を経ることで、教師のサポートや評価の割合を減らします。自分たち同士の評価で学びを更新していけるようにします。互いの評価が見えるようデジタル共有を活用します。仲間の評価が一番の原動力です。

〈Step1 の例〉

Step1 では、プレゼン大会の時に、右図の相互評価紙を使って相互評価を行いました。「聞き手へのプレゼントとして一生懸命プレゼンした人たちに敬意を表し、心をこめて評価・メッセージを書こう」と伝え、生徒は緊張感をもってプレゼンを聞きますし、学びや感想等を評価用紙に記入していました。前半・後半のプレゼンで一人 10 枚の評価用紙を書いてもらうことになります。プレゼン時は緊張しつつも、多くの仲間からのメッセージを読んで、生徒はとても嬉しそうでした。

また、1 年間の振り返りをした後も、生徒同士で学びを共有する時間を設けました。「仲間の考えやアイデアを引き出し、自分の学びに活かそう」と投げかけ、お互いにインタビューを行いました。1 年間の仲間の成長を実感できる時間となりました。

〈Step2 の例〉

作成した動画を学校内で期間を決めて公開することにより、相互評価の場を設定します。視聴した後に、アンケート集計ソフトなどに入力することで企画の面白さや改善点が見つかることとなります。

〈Step3 の例〉

諸外国と英語を使用した交流を通して例えば「ジェンダー」など共通の探究テーマを抱く場合があります。Google Formsなどを活用してデータ収集し、分析を相互考察すると学際的探究につながります。右図は身の回りのリスクについてのアンケートから有意差が生じた項目について、なぜそのような結果になったのか、検討することができました。英語を活用した探究が進むと課題設定がグローバルになり、よりSDGsの達成に意義を見出しやすくなります。



〈その他〉

コロナ禍だからと交流をあきらめる必要はありません。こういう時のためにも Google Classroom など学校全体で探究活動を共有するシステムを作っておきます。スプレッドシートを編集設定し、どの学年の生徒も見たり書き込んだりできるようにします（下図参照）。下級生は上級生の取り組みを見て、数年後の自分を描いたり今の自分の生活に活かしたりできるので効果はとても大きいです。編集履歴から誰がどう書いたり消したりしたのか確認できるので安心です。

テーマ	探究テーマ	内容の概要（60文字以内）	関係組織	協力・関係・協力・協力（リンク）	協力者（リンク）
その他	津南の発展のために	津南町は経済発展が図られている。課題として国際化の進展を踏まえ、観光産業をより活用できるサービスを開発し、認知度を上げるための新しいIPを構築（Google広告、インフルエンサーマーケティングなど）を活用する。	Google		
その他	環境問題	第14回日本環境学大会への参加を目的にグローバル・パルナス・グループ日本委員会の設立に関する調査や環境に関する調査、調査結果を各団体の関係者への報告を目的にグローバルな交流が実現する機会を創出する。	グローバル・パルナス・グループ日本委員会	特になし。	日本環境学大会（日本環境学大会）
大地		津南町は第14回日本環境学大会の参加を目的にグローバル・パルナス・グループ日本委員会の設立に関する調査や環境に関する調査、調査結果を各団体の関係者への報告を目的にグローバルな交流が実現する機会を創出する。	中四町や観光交流課		
その他	商品販売サービスの地域振興と『新しいモノの売り方』	実際にソーシャル・メディアで行き、商品販売を調査した。既存のサービスを模倣し、アンケートを通して、新しい商品販売サービスを構築した。おもしろい新しいオンラインショップ、商品販売サービスのスマホアプリを作成することを考えている。	NPO法人リバ	https://www.reba.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2020/07/20200720-01.pdf	https://www.reba.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2020/07/20200720-01.pdf
大地	大地の芸術祭向上委員会	津南町は第14回日本環境学大会の参加を目的にグローバル・パルナス・グループ日本委員会の設立に関する調査や環境に関する調査、調査結果を各団体の関係者への報告を目的にグローバルな交流が実現する機会を創出する。			
大地	大地の芸術祭を活用した地域振興	津南町は第14回日本環境学大会の参加を目的にグローバル・パルナス・グループ日本委員会の設立に関する調査や環境に関する調査、調査結果を各団体の関係者への報告を目的にグローバルな交流が実現する機会を創出する。	MMX LAB	https://www.mmxlab.com/wordpress/wp-content/uploads/2020/07/20200720-01.pdf	https://www.mmxlab.com/wordpress/wp-content/uploads/2020/07/20200720-01.pdf
その他	森の三芳よし	津南町は第14回日本環境学大会の参加を目的にグローバル・パルナス・グループ日本委員会の設立に関する調査や環境に関する調査、調査結果を各団体の関係者への報告を目的にグローバルな交流が実現する機会を創出する。	津南町森林組合、第一森林（ひなの里）と、津南町教育委員会、R4 499号、津南みどりの会		
その他	コロナ禍後の世界はどうなっているか	新型コロナウイルスの流行から1年が経過した。それに伴い、私たちの生活が大きく変化した。コロナ禍後の世界はどうなっているのか、人類の未来を予測する。			
防災	津南町は第14回日本環境学大会の参加を目的にグローバル・パルナス・グループ日本委員会の設立に関する調査や環境に関する調査、調査結果を各団体の関係者への報告を目的にグローバルな交流が実現する機会を創出する。	津南町は第14回日本環境学大会の参加を目的にグローバル・パルナス・グループ日本委員会の設立に関する調査や環境に関する調査、調査結果を各団体の関係者への報告を目的にグローバルな交流が実現する機会を創出する。	津南町役場（防災・安全） 新津南町防災委員会	https://www.reba.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2020/07/20200720-01.pdf	https://www.reba.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2020/07/20200720-01.pdf
ビジネス	津南町の特性に合った地方創生計画について	津南町は第14回日本環境学大会の参加を目的にグローバル・パルナス・グループ日本委員会の設立に関する調査や環境に関する調査、調査結果を各団体の関係者への報告を目的にグローバルな交流が実現する機会を創出する。	津南町役場、津南町農業協同組合、PUGER（株）、津南小学校、西郷小学校、上郷小学校	https://www.reba.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2020/07/20200720-01.pdf	https://www.reba.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2020/07/20200720-01.pdf
その他	大地の芸術祭2020を聞く	津南町は第14回日本環境学大会の参加を目的にグローバル・パルナス・グループ日本委員会の設立に関する調査や環境に関する調査、調査結果を各団体の関係者への報告を目的にグローバルな交流が実現する機会を創出する。	津南町観光課、中四町や観光交流課、NPO法人リバ、津南町森林組合		https://www.reba.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2020/07/20200720-01.pdf

⑧自身の生き方・あり方を考える振り返りは？

	Step1 [知る]	Step2 [広げる]	Step3 [変える]
⑧振り返り	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート	・キャリアパスポート

キャリアパスポートに1年間を振り返り、言語化して記録を残します。1年後、過去の自分を振り返ることによってStep1からStep3、それぞれの段階で深い振り返りが展開できます。

〈Step1 の例〉

Step1 では、下記の項目で振り返りを行いました。これをキャリアパスポートと連動して行うと中高の探究ポートフォリオができます。

- (1) オンライン新潟巡検×SDGsインタビュー、レポート作成やプレゼン大会を終えて考えたこと、学んだこと、自分の変化、気づき、感想など。(仲間のプレゼンを聴いて学んだこと等)
- (2) 総合的な学習の時間での一年間の学びを経て、自分自身の変化。(興味・関心、考え方、学び方、気づき、生活、行動、など)
- (3) 総合的な学習の時間での一年間の学びを、これからの生活や、学習、今後の生き方(進路選択・職業選択)にどのように活かすか。
- (4) 1年間の学びを活かして、今後やってみたいこと。(職場体験、修学旅行、地域貢献活動に向けて)



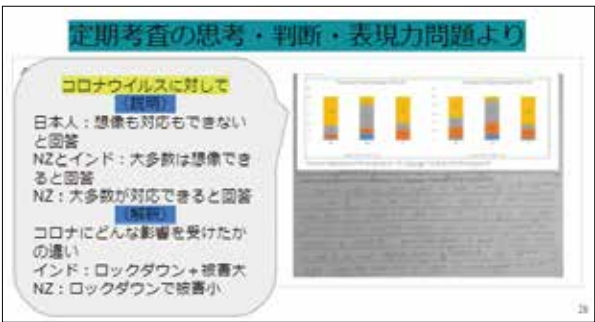
〈Step2 の例〉

職業調べ、職場体験、国際理解を「ジモト」×「セカイ」というひとつのテーマで繋ぐことにより、それぞれの活動が独立することなく、相互に影響しあう仕組みが構築できます。特にSDGsという視点をもって地元の企業と関係していくことは、将来的な地域開発にも発展するため生徒のキャリア形成を促すという点においては、有効な活動だと考えます。これをキャリアパスポートと連動して行うと中高の探究ポートフォリオができます。

〈Step3 の例〉

- ・テーマ設定で作成した地域版ESD目標を用いて、ユネスコが掲げる8つのキーコンピテンシーのうち、どの思考態度やスキルが、どの活動を通して身についたのか振り返ります。また、ESD目標を地域の実情や探究活動に合わせて更新し、下級生に引き継ぎます。ESDは英語で作成されているので、諸外国との相互評価にも活用できます。キャリア形成を系統立ててポートフォリオとしてまとめている国や地域があります。それらの国と日本のキャリアパスポートを比較しながら21世紀型スキルについて考察させると有意義な振り返りになります。
- ・定期考査に探究活動を出題することも可能です。共通テストでは情報処理力がますます求められるようになり、統計的解釈力も磨く必要が高まりました。探究活動を外部に発信するためには客観的解釈や考察力が必須で、そのためには探究活動をそれだけで終わらせるのではなく授業と関連付けることが理想です。右図は英語表現に出題した図表の読み取りに関する問題です。防災に関わる探究活動を展開したグループ

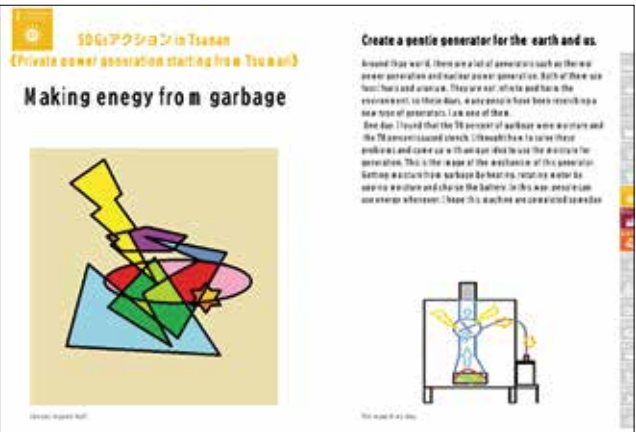
から依頼され、授業で諸外国と防災について議論しました。その中で行ったアンケートからコロナ禍の対応やその受け止め方が諸国で有意に異なる結果が出ました。グラフを説明し、どう解釈できるかについて80語程度で説明する問題で、説明と解釈6点、語彙と文法4点の配点です。定期考査も視野に入れて探究活動を展開すると、探究活動の主体性が活かされ、結果的に授業も主体的に取り組むようになります。定期考査にどのように探究活動を出題できるか、検討の価値は高いです。



＜その他の例＞

- ・SDGs アイデアブック：他校と協力して地域版 SDGs アイデアブックを作成するとより達成感が高まります。自校独自のブックも Think the Earth 提供の下記リンクからアクセスして作成できます。

<http://www.thinktheearth.net/sdgs/members/>



- ・〇〇版天声人語（607文字）：天声人語に倣って限られた字数で物語風に探究活動を振り返ります。地域にまつわる写真と関連するSDGsを選び、物語風にまとめると生徒の本音がポロっとこぼれ、自己の在り方や生き方に触れるよいきっかけとなります。



- ・キャリアパスポート（新潟県書式より）
様々な様式の探究論文やポスターが各種コンテスト等で提示されている。右図のキャリアパスポートは一例で、どれだけ大規模なプロジェクトに発展したとしても、この1枚に1年間の探究活動をまとめることは、児童生徒が自分のあり方や生き方を振り返るよい機会になります。

「総合的な学習（探究）の時間」（深層研究）について		〇年・
【事前】	記入日	年 月 日
「探究」テーマ（深層研究）テーマ		
テーマ選定の理由		
探究を通じて何にどんな力を伸ばしたいか <理由>		
【事後】		
探究した内容の振り返り（探究の次や探究を通じて新たにわかったことなど）		
探究の過程で感じたこと・考えたこと・うれしかったことや学び、そしてこれからのことなど		
探究を通じてどんな力が伸ばせたか（得意なこと）	探究活動の振り返り、新たに生み出した疑問や探究テーマ等	

**本報告書に掲載された授業で先生方が
活用している教材や資料の紹介**

おわりに

本報告書に掲載された授業で先生方が活用している教材や資料の紹介

本教材で紹介している先生方が授業実践にあたり、活用している教材をご紹介します。



SDGs

身近な課題の解決に挑む 未来の授業 私たちのSDGs 探究 BOOK

本書は日本の社会課題を紐解きながら SDGs を学べる内容となっています。

身近な視点から SDGs について理解を深められます。

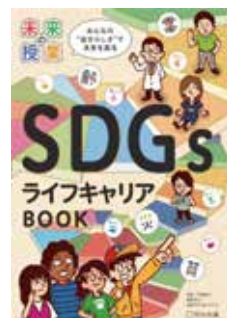
各ページには子どもたちの考えを書き込める「問い」を設定。

身近な課題から SDGs を理解し行動に移すには…?

未来の授業 SDGs ライフキャリア BOOK

<https://www.sdg-s.jp/books/4532/>

4つの異なる学習スタイルを持つ子どもたちが SDGs について学習、体験し、成長していくストーリーを、マンガとストーリーを使って楽しく、わかりやすく描きます。



JAPAN SDGs Action Platform (外務省)

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>

このプラットフォームは、社会に広がる SDGs に関連した取組を幅広く紹介することを目的に運営しています。



アクションカードゲーム X (クロス) 金沢工業大学

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/education/application/game-1.html>

「クロス」は、SDGs の 17 個の目標に沿ったトレードオフの解消を目指します。

トレードオフとは一方を得ようとする、他方を犠牲にしなければならないというジレンマの関係のことです。SDGs において最も重要な「誰一人取り残さない」という理念を実現するため、環境・社会・経済がバランスよく成長する社会を作るアイデアをみんなで創出しましょう。



国際理解教育／開発教育

国際理解教育実践資料集

<https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/materials/index.html>

教員向け資料集です。それぞれの学習内容ごとに、中学校の学習指導要領や ESD 学習の分野との関連、学習のポイントや内容を分かりやすく解説する教員用ページと、コピーして配れる生徒向けページで構成されています。



水と世界／国際協力／難民 動画教材

<https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/video/index.html>

授業でそのまま活用できるアクティブラーニング用の映像教材です。

JICA 地球ひろば推進課が作成した動画教材です。



難民

国連難民高等弁務官事務所

(UNHCR : The Office of the United Nations High Commissioner for Refugees)

<https://www.unhcr.org/jp/>

設立から半世紀以上経った今日も、UNHCR は、世界中の難民の保護や支援に取り組んでいます。



社会課題／課題発見&分析&解決

未来への意志ある挑戦者・起業家のアクションデータベース

社会課題解決中 MAP

<https://2020.etic.or.jp/>

日本全国どこでも、個人から歴史ある団体まで、社会課題を解決「中」の意志ある取組が、カテゴリごとに一覧できる MAP。



RESAS for Teachers - 地域経済分析システム

<https://teacher.resas-portal.go.jp/>

データに立脚して問題解決する能力を育むため、RESAS を取り入れた授業モデルを提供



エッセイコンテスト JICA 地球ひろば

<https://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/essay/collect/index.html>

本コンテストは、次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的として実施しています。



カンボジア スタディツアー

SALASUSU

<https://www.school.salasusu.com/study-tour>

SALASUSU 学校向けオリジナルスタディツアー

カンボジア農村にある工房の、“学び場”としての魅力。

Our Mission

人生の旅を応援する



JICA 東京 開発教育支援事業

国際協力出前講座／授業力アップセミナー／教師海外研修・国内研修

教師海外研修経験者の実践共有座談会（リレートーク）

教材紹介・貸出（学校・地域で途上国や国際協力を伝えるために）／海外の事業現場訪問

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/index.html>

国際理解教育／開発教育の学びのアイデアがたくさんあります。本紙の情報もこちらに掲載されています。



おわりに

本冊子の「はじめに」にもありますように、学習指導要領の中で「持続可能な社会の創り手」の育成について言及され、開発教育・国際理解教育／SDGs・ESDに関連した学びへの教育現場でのニーズは増加の傾向にあります。また、海外からの移民の方が増加している中で、多文化共生／異文化理解の重要性も増えています。

JICA 東京の開発教育支援事業では、海外協力隊の経験者によりまず出前講座を実施していますが、国際協力の現場についての話とあわせて、上記のテーマについての講演の希望をいただくことが増えてきていると感じています。各学校において、「総合的な学習（探究）の時間の中で SDGs をどのように扱うことができるのか」というご質問も伺います。私自身、開発教育・国際理解教育／SDGs・ESD についての授業実践について学びはじめたばかりで、出前講座等への問い合わせと同じような課題を感じていました。

そのような中で JICA 東京が実施しています教師海外研修に参加されている先生方は、総合的な学習（探究）の時間または各教科において、クラス、学年または学校単位で、さまざまな実践を重ねてきています。そのような「持続可能な社会の創り手を育てる授業実践」を重ねる先生方の中で有志の方を募り、はじめて開発教育・国際理解教育／SDGs・ESD を扱った授業を実施しようとしている先生方にとって、また、これまでも実践を重ねてきている先生方にとっても役に立つ指導案の作成を企画しました。

小学校、中学校、高等学校から、担当する教科も異なる先生方がチームを編成して指導案の作成に取り組みました。2 年間にわたって作成を進めてきましたが、度重なる打合せの中から工夫に富んだ指導案が数多く提案されています。本紙が手に取られた皆様のお役に立つことができましたら幸いです。本紙は、楽天グループ株式会社のご協力により授業内容をインフォグラフィックで表現していただきました。2 年間をかけて作成してきました授業アイデアがイメージとしてとても分かりやすく浮かび上がりました。ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。最後になりますが、指導案を作成された先生方及び JICA 東京開発教育担当インターンの皆様、監修をいただきました佐藤真久先生に心から感謝の意を表します。

2022 年 3 月

独立行政法人 国際協力機構 東京センター

学校教育アドバイザー 前橋 俊輔

1 知る：資源 × 自分

SDGsに取り組む外部組織と出会う導入段階です。

資源（ひと・もの）を活かした様々な取組を知り、理解を深めると共に、自らのあり方や生き方を探ります。ここでは、地域学習を例に紹介します。

- ✓ “持続可能な社会作り” に大切なことは？
- ✓ 探究テーマを深める質問とは？
- ✓ 実際にどんな取組がある？
- ✓ これからの生活や学習、今後の生き方にどう活かす？



2 広げる：アイデア × 自分

SDGsに取り組む外部組織の助けを借りてアイデアを発展させる段階です。

様々な課題を知り、多様な視点で課題を捉え直します。ここではローカルからグローバルに視座を高めます。

- ✓ 世界の課題って何だろう？
- ✓ 世界の課題を解決するには？
- ✓ どんなアクションが起こせるだろう？
- ✓ 地域のリソースはどのように使えるだろう？



3 変える：変容 × 自分

SDGsに取り組む外部組織と連携しながら課題解決に挑む段階です。

探究活動の学びやつながりを後輩に継承し、探究手法を進路探究に繋げます。ここでは成果と課題を振り返り、キャリア観を俯瞰します。

- ✓ 何をどう持続させる？
- ✓ どの探究手法を使う？
- ✓ 良いプロジェクトとは？
- ✓ 自分の在り方生き方とは？



本インフォグラフィックは JICA と楽天グループの連携により制作されました。

制作：松井藍（楽天グループ株式会社）

JICA 東京の開発教育に関する情報が掲載されています。ぜひご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/index.html>



独立行政法人 国際協力機構 東京センター 市民参加協力第一課

〒151-0066

東京都渋谷区西原 2-49-5

Tel: 03-3485-7461

<https://www.jica.go.jp/tokyo/>